

平成 28 年度名古屋大学大学院文学研究科  
学位（課程博士）申請論文

原因・理由文における日中対照の定量的分析  
—カラ・ノデを中心に—

名古屋大学大学院文学研究科  
人文学専攻言語学専門

湯 明显

平成 29 年 3 月

# 目 次

第一章 はじめに.....	1
第二章 先行研究.....	3
第一節 日本語の原因・理由文.....	3
1 原因・理由節の規定 .....	3
2 カラとノデの違い .....	3
3 原因・理由文の分類 .....	7
4 その他の先行研究 .....	10
5 まとめ .....	11
第二節 中国語の原因・理由文.....	13
1 中国語の複文の分類 .....	13
2 中国語の因果複文 .....	17
3 接続辞 .....	18
4 まとめ .....	22
第三章 カラ I における日中対照と関数検定.....	24
第一節 カラ I の意味・用法と中国語での表し方.....	24
1 事態の原因を表すカラ I .....	25
2 行為の理由を表すカラ I .....	25
3 原因と理由の違い .....	26
第二節 カラ I の対訳例調査.....	28
1 はじめに .....	28
2 対訳例から見る原因文と“(因为)p, (所以)q”の対応傾向.....	28
3 まとめ .....	33
第三節 カラ I とその中国語訳における定量分析.....	35
1 偏差値とは .....	35
2 “前後標”の立場から見る対訳傾向 .....	36
3 対訳接続辞の立場から見る対訳傾向 .....	37
4 まとめ .....	39
第四章 カラ II における日中対照と関数検定.....	41
第一節 カラ II の意味・用法と中国語での表し方.....	41
1 判断の根拠を表すカラ II .....	41

2 発話・態度の根拠を表すカラⅡ .....	43
3 判断と態度の違い .....	44
第二節 カラⅡの対訳例調査.....	45
1 はじめに .....	45
2 中国語の因果複文の接続表現について.....	45
3 対訳例から見るカラⅡの日中対照 .....	47
4 結論 .....	50
第三節 カラⅡとその中国語訳における定量分析.....	51
1 偏差値とは .....	51
2 “前後標”の立場から見る対訳傾向.....	51
3 対訳形式の立場から見る対訳傾向 .....	53
4 まとめ .....	54
第五章 ノデⅠにおける日中対照と関数検定.....	56
第一節 ノデⅠの意味・用法と中国語での表し方.....	56
1 事態の原因を表すノデⅠ .....	56
2 行為の理由を表すノデⅠ .....	57
第二節 ノデⅠの対訳例調査.....	59
1 はじめに .....	59
2 対訳例から見る原因文と“(因为)p, (所以)q”の対応傾向.....	59
3 ノデ理由(意志動詞)文とほかの“後標”について.....	62
4 まとめ .....	64
第三節 ノデⅠとその中国語訳における定量分析.....	66
1 偏差値とは .....	66
2 “前後標”の立場から見る対訳傾向 .....	66
3 対訳形式の立場から見る対訳傾向 .....	68
4 まとめ .....	70
第六章 ノデⅡにおける日中対照と関数検定.....	71
第一節 ノデⅡの意味・用法と中国語での表し方.....	71
1 判断の根拠を表すノデⅡ .....	71
2 発話・態度の根拠を表すノデⅡ .....	73
3 まとめ .....	74
第二節 ノデⅡの対訳例調査.....	75

1	はじめに .....	75
2	中国語の因果複文の接続表現について.....	75
3	対訳例から見るノデⅡの日中対照 .....	78
4	結論 .....	81
	第三節 ノデⅡとその中国語訳における定量分析.....	82
1	偏差値とは .....	82
2	“前後標”の立場から見る対訳傾向 .....	82
3	対訳形式の立場から見る対訳傾向 .....	83
4	まとめ .....	85
	第七章 カラ・ノデにおける日中対応モデル構築へ.....	87
	第一節 カラ・ノデが表す原因・理由文の日中対応モデル.....	87
	第二節 カラ・ノデ原因・理由文の4分類における日中対応モデル.....	91
	第三節 対応モデルの再分析.....	95
1	カラⅠ原因・理由文の日中対応モデル.....	95
2	カラⅡ判断・態度文の日中対応モデル.....	97
3	ノデⅠ原因・理由文の日中対応モデル.....	98
4	ノデⅡ判断・態度文の日中対応モデル.....	100
5	日中対応から見る中国語の接続辞 .....	101
	第四節 まとめ .....	103
	参考文献.....	104

## 第一章 はじめに

日本語の原因・理由を表す代表的な形式にはカラ・ノデがあり、それらは中国語で“因为 p, 所以 q”で表すのが普通だが、実際の対訳例から見ると必ずしもその通りではない。次の対訳例をみてみよう。

(1) 体重が四肢にかかるから楽である。井伏鱒二『黒い雨』

因为重量落在四肢上，感到挺舒服。柯毅文、颜景镐译《黑雨》

(2) 昨夜が徹夜に近かったので、大欠伸が出る。

赤川次郎『三毛猫ホームズの登山列車』

因为昨晚几乎通宵工作，片山不由得打个大哈欠。叶蕙译《三色猫登山列车》

(3) 別に監視人もいませんから、本当に危険のない遊び道具だけが置いてあるんですが、……

赤川次郎『三毛猫ホームズの怪談』

因为没有专人特别看管，所以只设置了一些不具危险性的玩具。……

叶蕙译《三色猫怪谈》

(4) 昼間は家にいないので、救護班のものはその顔を滅多に見ることがない。

井伏鱒二『黒い雨』

因为白天不在家里，所以救护班的人很难见到他。柯毅文、颜景镐译《黑雨》

(5) 男もそれがわかっているから、暴力をふるうときも、人には見せにくい場所を選ぶ。あるいは跡が残らないようにやる。

村上春樹『1Q84 BOOK1』

男人也知道这点，所以用暴力的时候，都选择别人看不到的地方。或不留痕迹地做。

施小炜译《1Q84 BOOK1》

(6) お母さまをほっといて上京する事は、どうしても出来ませぬので、それで、お手紙で申し上げる事に致しました。

太宰治『斜陽』

丢下母亲跑到东京是无论如何不可能的，所以决定写封信给您。

张嘉林译《斜阳》

このように、カラ・ノデで表す原因・理由文を、中国語では因果関係を表す代表的な形式“因为 p, 所以 q”のほか、“因为 p, q”と“p, 所以 q”で表す場合も少なくない(1~6)。また、継起関係を表す“p, 就 q”、“p, 才 q”などで表す場合もある(7~9)。

(7) こんなに明るい月を見たのは久しぶりだったから電灯を消してみたんですよ。

村上春樹『ノルウェイの森』

好久没看见过这么亮的月光，就把灯关了。林少华译《挪威的森林》

(8) でもあの子がいなくなってしまったので、ここに持ってきました。

村上春樹『1Q84 Book1』

那孩子不见了，我就把它拿到这里来。施小炜译《1Q84 BOOK1》

(9) 「そんなこと言ってるから、いまだに独身なのよ」

赤川次郎『三毛猫ホームズのクリスマス』

“你就是这样死脑筋，才会到现在还打光棍儿！”叶蕙译《三毛猫的圣诞节》

日本語の原因・理由文及び中国語の因果複文に関する研究は今まで多くなされてい

る。しかし、そのほとんどが、日中両言語それぞれの単一言語内部での意味用法に関する研究であり、日中両言語の対照研究はそれほど多いとは言えない。そこで、本稿では、日本語と中国語の因果複文を対訳する場合、一体どのような対応関係があるのか、どのような対訳傾向があるのか、などの問題を明らかにしたい。中国人から見た日本語のカラ・ノデはどのような中国語に対応されるのかを分析することを目指す。更に、中国語の視点から見る日本語のカラ・ノデ原因・理由文の特徴、または、日本語の視点から見る中国語の因果複文の特徴を考察してみたい。

日本語の文法は、学習者の違いによって、学校文法（日本人向け）と日本語教育における文法（外国人向け）の二つの文法システムを持つ。一方、中国語の文法は学校文法（中国人向け）を中心に発展しており、中国語教育における文法システムの構築は、いまだに完備されていない。複文の分類など様々な分野でなかなか統一な結論が出てこないこともその原因の一つであると思われる。そこで、本稿での日本語との対照研究を通して、日本語の視点から、中国語の因果複文に関する外国人向けの文法システムの構築に、少しでも貢献できることを目指す。

## 第二章 先行研究

### 第一節 日本語の原因・理由文

#### 1 原因・理由節の規定

日本語記述文法研究会編（2008）では、ある事態（結果）を引き起こす別の事態を原因・理由であると定義した。主節の事態は従属節の事態に依存して発生している。従属節の事態が主節の事態の発生を引き起こす源になっている（10～13）。つまり、もしその原因・理由がなければその結果も起こらないだろうという関係にある。なお、順接条件文でも、従属節の事態と主節の事態には因果関係がある。原因・理由文は事実的な因果関係をもつ2つの事態が結び付けられた文である。しかし、(14、15)のように条件節の場合、その因果関係は原因・理由節ほど明確ではなく、未確定だったり、習慣的だったりする。因果関係がさらに明確になると、それは次の(16)のように原因・理由文となる。

(10) 雨が降ったので、気温が低下した。

(11) 昨日は熱が出たから、仕事を休んだ。

(12) 結婚したので、左手薬指に指輪をはめている。

(13) 道路がすいていたからバスは定時にちゃんと来た。

(14) 雨が降れば、気温が低下するだろう。 (未確定)

(15) 雨が降ると、いつも気温が低下した。 (習慣的)

(16) 雨が降ったから、気温が低下した。

#### 2 カラとノデの違い

原因・理由を表す代表的な形式にはカラ・ノデがある。カラ・ノデに関する研究は数多くあるが、そのうち、多く知られているのは永野（1952）だと言えるだろう。

##### 2.1 永野（1952）における両者の違い

永野（1952）はカラとノデの違いについて以下のように述べている。

①未来や命令の意味を含む文が次に来るときにはカラは使うがノデは使えない。

(17) あいつの事だから/\*なので、少しは持って帰るだろう。 (推量)

(18) 朋子が可哀想だから/\*なのでで慰めて上げよう。 (意志)

(19) 配給をやるから/\*ので取りに来い。 (命令)

(20) ねえ、きみ、いい子だから/\*なので水をコップにいっぱい持って来てくれないか。 (依頼)

(21) しかし増井さんは帰られてもいつもは一人だから/\*なのでそんな必要性を感じないでせう。 (質問)

②カラにだけ倒置の用法がある。

(22) ヒトラリズムやプロレタリア独裁の信奉者にとってこの書が面白くないことは当然であろう。それらに対してこの書は鋭い一撃を食わせているから/\*のでである。

③カラにはノデにない終助詞的な用法がある。

(23) すぐ持っていきますから/\*ので…………。

(24) じゃあ僕は赤ノレンへ後から行くから/\*ので。

④カラにはハ、コソ、トテなどの係助詞やトイッテなどをつけて特に提示する用法がある。

(25) このおれが控えているからは大丈夫だよ。

(26) それだからこそ、オドールさんもいろいろ気をつかっているのでしょう。

(27) あたまかすが足りないからって、野球はやめるわけにいきません。

⑤ノデのあとに来る文はほとんどことがらの客観的叙述である。

(28) ドイツの実例ではこの最高水準が炭鉱夫に保証されなかったので出炭高が低下した。

(29) あんまり働いたので私はとうとう病気になってしまい、畑にも田にも出ることができなくなりました。

⑥ノデは推量や未来の意味のことばにつくことができない。

(30) 次第にこの偏見は是正されるでしょうから/\*ので、七十円代の日東は買物です。

(31) 社長もあさって頃は帰って来るだろうから/\*ので、社長の意見もちょっと訊いてみることにしよう。

⑦カラはノダやノデスにつけて用いることができる。

(32) 私が結婚するのだから、私が挨拶するのが当然だ。

(33) これはわりしたに使うのですから、淡いほうがよいのです。

以上をまとめると、カラで結びつけられる前件・後件は、元来二つのものであって、それが話し手の主観によって原因・結果、理由・帰結の関係で結びつけられる。話し手の主観性が十分な責任を持つ。つまり、カラには話し手が前件を後件の原因・理由として主観的に指定して結びつける言い方がある。一方、ノデは、事柄のうちにすでに因果関係にたつ前件・後件が含まれていて、それをありのままに、客観的に描写する場合に使われる。つまり、ノデでは前件と後件とが原因・結果、理由・帰結の関係にある。話し手の主観を超えて、その事態における因果関係をありのままに、主観を交じえずに描写する言い方がある。

## 2.2 日本語記述文法研究会編（2008）におけるカラ・ノデの違い

カラとノデはほぼ同じ意味を表している。日本語記述文法研究会編（2008）では、カラ・ノデの接続形式や意味用法などを比較して、カラとノデの区別をまとめている。

### 2.2.1 接続形式

カラは動詞・イ形容詞の非過去形・過去形、ナ形容詞の語幹・名詞＋「だ/だった/である/であった」に接続する。

- (34) 頭痛が (する/した) から、早退します。 (動詞の非過去形・過去形)  
(35) (高い/高かった) から、買えません。 (イ形容詞の非過去形・過去形)  
(36) 家族が元気だから、幸せです。 (ナ形容詞の語幹)  
(37) 学生だから、料金が安いです。 (名詞)

ノデは、動詞・イ形容詞の非過去形・過去形、ナ形容詞の語幹・名詞＋「な/だった/である/であった」に接続する。

- (38) 頭痛が (する/した) ので、早退します。 (動詞の非過去形・過去形)  
(39) (高い/高かった) ので、買えません。 (イ形容詞の非過去形・過去形)  
(40) 家族が元気なので、幸せです。 (ナ形容詞の語幹)  
(41) 学生なので、料金が安いです。 (名詞)

カラとノデの文法的な違いは次の4点にまとめることができる。

- ①カラは断定形に接続するのに対して、ノデは連体形にも接続する (42)。  
②「だろう/でしょう」「まい」や「のだ」にはカラしか接続できない (43、44)。  
③カラには「からか/からこそ/からには」のように助詞が接続した表現がある。「から」といって」のような逆接の表現もあるが、ノデにはそういった形式が存在しない。  
④カラは「だ」を伴って述語化することができるが、ノデはそれができない (45、46)。この場合、カラは丁寧形には接続しない。また、話しことばでは、過去の事態であっても「からでした/からだった」としなくてよい。

- (42) 静かだから/なので、勉強がはかどる。  
(43) 明日は晴れるだろうから、気温も上がるだろう。  
(44) 退院したばかりなんだから、無理しないでください。  
(45) 「なぜ休んだの?」「忙しかったから/\*のでです」  
(46) 休んだのは忙しかったから/\*のでだ。

また、カラとノデのどちらも、丁寧な会話文や手紙文などで「です/ます」に接続することができる (47、48)。ノデの方が丁寧な文とよくなじむ。主節が行為要求や意志・希望を表す場合、カラもノデも現れるが、丁寧な文体ではノデが現れやすく、ぞんざいな表現ではカラが現れる (49、50)。

- (47) 頭痛がしますから/ので、早退します。  
(48) 高いですから/ので、買えません。  
(49) 危険なので、お手を触らないでください。  
(50) 危ないから、あっちへ行け。

### 2.2.2 意味用法

カラとノデは、事態の原因・理由および判断の根拠を表す。さらに、原因・理由を表

しているとはみなされない場合もある。

従属節の事態が、主節の事態や行為を引き起こす原因・理由を表す (51、52)。この場合、従属節の主語が「が」で表される場合も「は」で表される場合もある (53、54)。

(51) 時間がないから、旅行に行けない。

(52) 息子はよく宿題を忘れたので、先生に怒られてばかりいました。

(53) 雨が/\*は急に降り出したので、急いで洗濯物を取り込んだ。 (行為の理由)

(54) 日本\*が/は周りを海に囲まれているので、日本人は昔から魚をよく食べた。  
(事態の原因)

主節が判断を表す文である場合、2つのタイプがある。従属節の事態を根拠(原因)に主節の事態(結果)を判断する (55)。または、従属節の事態が、主節の事態を引き起こした原因を表すのではなく、判断の根拠を表す (56)。判断の根拠を表す場合、従属節の事態が主節の事態を引き起こしているのではなく、むしろ、従属節の事態を引き起こすのが主節の事態であるということもある (57a)。このように、判断の根拠を表す場合は、従属節の原因・理由と主節の判断内容とで、時間的前後関係が逆転することもある。

(55) 雨が降ったから、道がぬれているだろう。

(56) 道がぬれているから、雨が降ったのだろう。

(57) a 左手薬指に指輪をはめているから、結婚しているにちがいない。 (判断の根拠)

b 結婚しているから、指輪をはめている。 (事態の原因)

判断の根拠を表す場合、(58)のように主節には判断を表すさまざまなモダリティ形式が現れる。また、(59、60)のように主節に行為要求や意志の表現が現れる場合もある。更に判断の根拠を表す原因・理由文では、従属節にも未実現の事態が現れる場合がある (61、62)。

(58) 道がぬれているから、雨が {\*降った/降った (の) だろう/降ったにちがいない/降ったかもしれない/降ったはずだ/降ったようだ/降ったらしい}。

(59) 3 時になったから、コーヒーでも入れましょう。

(60) 私 1 人ではさびしいから、どこへも行かないでください。

(61) 社長が来るらしいから、今日の食事はきっと豪華だろう。

(62) 未成年も参加するだろうから、ジュースも用意しておいてください。

また、白川 (1995)、蓮沼など (2001) などでは、原因・理由文の中には、原因・理由を表しているとはいいがたいものがあると述べている。前節 P が後節 Q の実行を促進する情報を表し、後節 Q には、命令、勧誘、希望・意志など、未実現の行為を表す表現が用いられる (63、64)。また、Q の実現を容易にする条件を付加したり、実現を強く望む話し手の態度を前置きの P で述べたりする場合もある。この場合、ノデで言い換えることはできない (65、66)。

(63) すぐもどってきますから/のでここでお待ちいただけますか。

(64) 国際線の到着口の外に出迎えの者がおりますから/ので、その人の指示にしたがって行動してください。

(65) 一生に一度のお願いですから、娘さんとの結婚を許して下さい。

(66) 一度でいいから、宝くじの一等賞を当ててみたい。

### 3 原因・理由文の分類

蓮沼など(2001)では、カラ・ノデで表す原因・理由文を以下の5類に分けている。

#### ①事態の原因

事実と分かっている事態P・Qが、原因—結果の関係(因果関係)を持つことをカラ・ノデを用いて表す(67~71)。

(67) ここは海に近いから/ので風が強い。

(68) このあたりは環境がよくて買い物にも便利だから/なので、家賃が高い。

(69) あの人は誰に対しても親切だから/なので、みんなから信頼されている。

(70) お金がないから/ので、外国旅行に行けません。

(71) 今度の試験はよく勉強したから/ので、成績がいい。

#### ②過去の因果

過去に同時的に成立したPとQの因果関係をカラ・ノデで表す事ができる。PとQが過去の事態を表すとき、Pの述語が状態性の場合、基本形・タ形のどちらも過去の事態を表すことができる(72、73)。一方、Pの述語が動作や変化を表す場合は、PとQのどちらにも普通、タ形が用いられ、Pが原因となってその後に結果Qが成立したという関係を表す(74、75)。

(72) 教室が暑い/暑かったから/ので勉強に集中できなかった。(X Yが同時に成立)

(73) 頭が痛い/痛かったから/ので、よく眠れなかった。

(74) 薬を飲んだ/\*飲むから/ので熱が下がった。(Xの後にYが成立)

(75) 旅行中にたくさん食べたから/ので、太ってしまった。

#### ③行為の理由

Qが意志的動作を表す場合、Pカラ・ノデで、なぜそのようなことを行うのかを表す。つまり、Qには、未来の行為についての話し手の意志や、過去の意志的動作を表す表現が使われる(76~79)。また、すでに成立しているPを理由にQを行うという関係ばかりでなく、未来に成立するPを理由に、前もってQを行うという関係を表すことができる。この場合、「Pカラ/ノデQ」の実際に出来事が成立する順序は「Q→P」になる(80)。このとき、Pの述語には基本形が使われる(81、82)。

(76) 少し熱があるから/のでお風呂に入るのはやめておこう。

(77) 宿題が終わったから/ので、そろそろ寝よう。

(78) 頭が痛かったから/ので、医者に行った。

(79) 仕事がたまっているから/ので、少し早く出勤した。

(80) 週末にお客さんが来るから/ので今日中に家の掃除をしておこう

(81) 週末に家でパーティーをするから/ので、ビールを注文しておいた。

(82) 明日朝早く出かけなければならないから/ので、今日は早寝しよう。

#### ④判断の根拠

カラ・ノデには話し手がなぜそのように判断をするのかを表す用法がある。文末には「(の) だろう・(の) かもしれない・にちがいない・はずだ・ようだ・らしい・そう」など、話し手の判断を表す表現が用いられる (83～85)。

判断の根拠                      ⇒                      話し手の判断

(83) 顔色が悪いから/ので、どこか体に悪いところがあるのかもしれない。

(84) 病室に面会謝絶と書いてあるから/ので、病気はかなり重いにちがいない。

(85) 左の薬指に指輪をしているから/ので、この人は既婚者だろう。

#### ⑤発話・態度の根拠

話し手がなぜそのような発言をしたり、そのような態度をとったりするのかを表す用法である。Qには、命令・依頼・勧誘・質問など (86～89)、まだ実現していない事態の実現を聞き手に働きかける表現や、希望・意志など、実現を望む話し手の態度を表す表現が用いられる (90、91)。

(86) 風邪をひくといけないから/ので、厚着して出かけなさい。 (命令)

(87) ほかのお客さんの迷惑になりますから/ので、携帯電話のご使用はご遠慮ください。 (依頼)

(88) 公園の桜、この週末が一番見ごろになりそうだから/なので、いっしょにお花見しませんか。 (勧誘)

(89) 今日の予定は全部終わったから/ので、もう帰ってもいいですか。 (質問)

(90) 今夜は寒くなりそうだから/なので、早めに帰ろう。 (意志)

(91) とてもおなかがすいているから/ので、今すぐ晩ご飯が食べたいな。 (希望)

また、前田 (2009) では、原因・理由文を、i 原因・理由、ii 判断根拠、iii 可能条件提示 (つまり、原因・理由を表すと言い難いカラ文) の三種に分類している。そのうち、i 原因・理由と ii 判断根拠の二種は、「どうして?/なぜですか?」質問文の答えとなることができるが (92～95)、iii 可能条件提示の場合、「どうして?/なぜですか?」文の答えとなることができない (96)。

(92) 電車がなかなか来なかったので、授業に遅れてしまいました。 (事態の原因)

A: なぜ/どうして授業に遅れたのですか。

B: 電車がなかなか来なかったからです。

(93) お客さんが来るから、掃除をしておこう。 (行為の理由)

A: なぜ/どうして掃除をしておくのですか。

B: お客さんが来るからです。

(94) 星が出ているから、明日もいい天気になるだろう。 (判断の根拠)

A: なぜ/どうして明日もいい天気になると思うのですか。

B: 星が出ているからです。

(95) この店の餃子、とてもおいしいから、ちょっと食べてみませんか。

(発言・態度の根拠)

A: なぜ/どうしてこの店の餃子を勧めるのですか。

B: とてもおいしいからです。

(96) すぐ戻ってきますから、ここで待っていてください。 (可能条件提示)

A:なぜ/どうして私に待つように言うのですか。

B:＊すぐ戻って来るからです。

なお、事態・行為の原因・理由を表す場合と判断・態度の根拠を表す場合は、(92～95)のように、前件が「どうして?/なぜですか?」を問う質問文の答えとなることのできる点で共通点しているが、(92、93)は「どうしてそうしたのですか?」の意味なのに対し、(94、95)は「どうしてそう判断できるのですか?」の意味であり、それぞれ事態・行為の原因・理由と判断の根拠を尋ねている。

さらに、前田(2009)は根拠を表す原因・理由文の特徴について、以下の4点にまとめている。

①判断の根拠である以上、後節に話し手による判断が現れることが必要である(97)。しかし、後節が判断を表していても、事態・行為の原因・理由であって、根拠を表す原因・理由を表していない場合もある(98)。これは、主張のスコープの問題である(田窪1987)(99、100)。(100)の場合、「から」の後件は判断部分を含まない「バスは定時にちゃんと来た」であり、したがって、この「から」は原因・理由の「から」である。また、判断表現以外に、命令・依頼などの働きかけ表現や、意志・希望などの表出表現が来る場合がある(101、102)。

(97) バスが定時にちゃんと来たから、道路は混んでいない {んだ/(の) だろう/(の) かもしれない/にちがいない/はずだ/らしい/ようだ} (南 1993)

(98) 道路が混んでいなかったから、バスは定時にちゃんと来た {んだ/のだろう/かもしれない/にちがいない/はずだ/らしい/ようだ}

(99) バスが定時にちゃんと来たから、[道路は混んでいない] んだ。

(100) [道路が混んでいなかったから、バスは定時にちゃんと来た] んだ。

(101) 「汐見さん、安静の邪魔になるから、その煙草やめてくれないか」

(前田 2009)

(102) カミホトケを、明が信じていないのはわかっているが、泰子はカトリックだから、教会で式をあげさせてもらいたい、と言い張った。 (前田 2009)

②構文的な変換の可否が挙げられる。判断の根拠を表す原因・理由文の前件と後件は入れ替えることができる。入れ替えた場合は、事態や行為の原因・理由を表す文になる(南 1993)(103、104)。また、後件に「わかる、判断する」等の動詞が付け加えられると、事態や行為の原因・理由を表す文に移行する(言語学研究会 1985)(105、106)。

(103) バスが定時にちゃんと来たから、道路は混んでいないんだ。 判断の根拠

(104) 道路が混んでいないから、バスが定時にちゃんと来た。 事態の原因・理由

(105) [バスが定時にちゃんと来た]から、[道路は混んでいない]ね。 判断の根拠

(106) [バスが定時にちゃんと来た]から、[道路は混んでいないとわかる]。

「わかる」と言う行為の理由

さらに、姫野(1995)では、(107)のような構文に変換できるどうかに違いがあることが指摘されている。事態・行為の原因・理由を表す(108)の場合は、構文2に変えることができる(109)。一方、判断の根拠を表す(110)の場合は、この形に変えることは

できない (111)。しかし、(112) のように判断を表す動詞を前件に付加すれば可能になる。

(107) 構文 1 P から、Q。

構文 2 Q のは、P からです。

(108) 昨日は熱が出たから、仕事を休んだ。 (日本語記述文法研究会編 2008)

(109) 昨日仕事を休んだのは熱が出たからです。

(110) バスが定時にちゃんと来たから、道路は混んでいないんだ。 (南 1993)

(111) \*道路が混んでいないのはバスが定時にちゃんと来たからです。

(112) 道路が混んでいないと判断するのはバスが定時にちゃんと来たからです。

③事態・行為の原因・理由は前件に、判断の根拠は後件にプロミネンスが置かれる (113、114)。

(113) 道路が混んでいなかったから、バスは定時にちゃんと来たんだ。

(114) バスが定時にちゃんと来たから、道路は混んでいないんだ。

④判断の根拠を表す原因・理由文は、後節に判断 (推し量り) のモダリティ形式が現れる。(115) の場合、前件のレアリティは事実だが、後件はまだ事実かどうか確認できていないという点で、レアリティは未実現である。また、判断の根拠を表す原因・理由文には (116、117) のように、前件にも未実現の事態が来る場合がある。

(115) バスが定時にちゃんと来たから、道路は混んでいない {んだ/ (の) だろう/  
(の) かもしれない/にちがいない/はずだ/らしい/ようだ}。 (南 1993)

(116) 時間もないうから、実験は最後までできないだろう。

(117) 社長が来るらしいから、今日の食事はきっと豪華だろう。

#### 4 その他の先行研究

花井(1990)は、情報領域の立場から、カラ・ノデの本質的機能を区別した。カラの本質的機能は対話において発揮される。一方、ノデの本質的機能は話し手情報の述べたてであると述べた。

望月 (1990) は因果関係のスケールおよびモダリティのスケールによって、カラ原因・理由文を分析した。理由節は、予期される結果が実現した仮定節であると指摘した。「理由」という概念には、「因果関係」を表すものと「判断の根拠」を表すものがある。また動作の理由には、因果関係と目的とがある。さらに、カラには、構文的、意味的に、動作の理由を表すカラ 1 と判断の根拠を表すカラ 2 の 2 つの用法がある。因果関係のスケールでいえば、法則的・疑似法則的な表現は、カラにはふさわしくない。モダリティのスケールによる分析では、「働き掛け」の表現がカラ 2 にもっともふさわしい。判断文は、「ノ」によって「ダロウ」などのスコープに入った「カラ 1」と「真性カラ 2」の双方がふさわしい。

岩崎 (1993) は従属節事態後続型のルノデ/ルカラのテンスについて考察した。ルノデ/ルカラ (従属節事態後続型) には成立条件があり、この条件はルノデ/ルカラが表す従属節事態先行の性質を考えることにより説明が可能と論じた。その性質とは、従属節事態後続型のルノデ/ルカラ文の従属節事態が主節時に真と確定しているものであること、

かつ発話時に発話者が真であると認識しているものであることの二つである。

上林（1994）は二義性の立場から、カラは i 因果関係、ii 含意関係の二義があるのに対して、ノデは i 因果関係の意味しか持たないと述べた。

## 5 まとめ

以上の先行研究から、カラとノデの違いは(118)のようにまとめられる。カラ・ノデが表す原因・理由文に関する研究は様々あるが、大体は因果関係を表す原因・理由文と判断の根拠を表す原因・理由文の2類に分けて議論している。そこで、本稿では、以上の先行研究を踏まえ、蓮沼など（2001）の分類方法にしたがって、原因・理由を表すカラ・ノデを二種類に分け、前者をカラⅠ・ノデⅠ、後者をカラⅡ・ノデⅡと呼ぶことにする。そのうち、カラⅠ・ノデⅠをさらに、事態の原因を表すカラⅠ・ノデⅠ（本稿では原因を表すカラ・ノデと呼ぶ）と行為の理由を表すカラⅠ・ノデⅠ（本稿では理由を表すカラ・ノデと呼ぶ）に、カラⅡ・ノデⅡをさらに、判断の根拠を表すカラⅡ・ノデⅡ（本稿では判断を表すカラ・ノデと呼ぶ）と発言・態度の根拠を表すカラⅡ・ノデⅡ（本稿では態度を表すカラ・ノデと呼ぶ）に分けることにする。その具体的な区別は(119)で示す。

(118)

	カラ	ノデ
接続形式	断定形＋カラ	連体形＋ノデ
文末用法 /終助詞的用法	○	×
倒置の用法	○	×
特に提示する用法 (＋ハ、コソなど)	○	×
述語化（＋ダ）	○	×
ノダ、ノデス＋	○	×
推量、未来＋	○	×
使用文体	ぞんざいな 表現でよく 使われる	丁寧な文体で よく使われる
二義性	因果、含意	因果
後件の主観・客観性	主観/客観	ほとんど客観

(119)

	カラⅠ・ノデⅠ		カラⅡ・ノデⅡ	
	原因	理由	判断	態度
接続形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従属節の主語＋ガ</li> <li>・主節に状態を表す表現が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従属節の主語＋ハ</li> <li>・主節に話し手の意志や意志的動作を表す表現が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主節に判断を表すモダリティが使われる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主節に話し手の命令、依頼、勧誘、質問、働きかけ表現、意志、希望などの表現が使われる</li> </ul>
「どうして？」 質問文について	どうしてそうしたのですか？		どうしてそう判断できるのですか？	
構文の変換	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PカラQ ⇒ QノハPカラダ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・PカラQ（判断） ⇒ QカラP（原因・理由）</li> <li>・PカラQ＋「わかる、判断する…」</li> <li>・PカラQ ⇒ Q＋ト「判断する、わかる…」ノハPカラダ</li> </ul>	
意味用法	事態P、Qの因果関係を表す	なぜそのような動作を行うのかを表す	なぜ話し手がそのように判断するのかを表す	なぜ話し手がそのような発言をしたり、そのような態度をとったりするのかを表す

## 第二節 中国語の原因・理由文

中国語の因果複文は基本的に因果関係を表す接続詞によって因果関係を表す。中国語での複文と単文の区別は、日本語と同じくその基準が従来多く議論されてきたが、一般的に、句点のない一つの文と見なすことができる文は単文であり、句点によって区切られている文は複文であるとされている。

接続辞（または関連詞）<sup>1)</sup>は、複文を構成する単文をつなぐ役割をし、前件と後件の関係を表す。前件に現れるのは日本語の副詞に当たる語が多く、後件に現れるのは日本語の接続(助)詞に当たる語が多い。

### 1 中国語の複文の分類

#### 1.1 邢福義（2001）の分類

邢福義（2001）は、中国語の複文を“因果类复句”、“并列类复句”と“转折类复句”の3種類に分けている。そのうち、“因果类复句”と“并列类复句”は“顺接复句”としており、“转折类复句”は“逆接复句”としている。この3種類の複文をさらに下位分類すると、次のようになる。

- ①因果类复句：因果句、推断句、假定句、条件句、目的句
- ②并列类复句：并列句、连贯句、递进句、选择句
- ③转折类复句：转折句、让步句、假转句

本稿で取り上げている因果複文について詳しく見てみよう。

- ・因果句：“说明性因果句”（本稿では説明性因果複文と呼ぶ）の略称。物事の因果関係を説明する形式である。代表的な表現として“因为 p，所以 q”がある。日本語の事態・行為の原因・理由を表すカラ・ノデ文に近い表現である。
- ・推断句：“据实性因果推断句”（本稿では推論性因果複文と呼ぶ）の略称。事実を根拠に物事の関連を判断する形式である。代表的な表現として“既然 p，那么 q”がある。日本語の判断の根拠を表すカラ・ノデ文やナラ条件文に近い表現である。
- ・假定句：“假设性因果推断句”の略称。仮説を根拠にある結果を推論する形式である。代表的な表現として“如果 p，就 q”がある。日本語の仮定条件文及び反事実的仮定文に近い表現である。
- ・条件句：“条件性因果推断句”の略称。条件を根拠にある結果を推論する形式である。

<sup>1)</sup> 复句研究一般都主要以关联词语为突破点。关联词语，又叫关系词语，有广义和狭义的区分。狭义的关联词语在语言学中一般用来称谓在复句内部各个分句之间起关联作用，并表示一定语义关系的词语。也就是说，关联词语在复句中主要有两个方面的作用：一是用以连接不同分句，故称关联词语；一是用以表明分句间的语义关系，故又称关系词语，并且有些关联词语还往往被视为用以表示特定语义关系的标志。例如：

①因为他不去，所以我不想去。（彼は行かないから、私も行きたくない。）

②虽然他不去，但我去。（彼は行かないけど、私は行く。）

③如果他不去，那么我去。（彼が行かなければ、私が行く。）

上例加着重号的都是复句内部起关联分句的作用的词语，并可视为分别用以表示特定语义关系的语形标志。“因为 p，所以 q”表明分句间具有因果关系，“虽然 p，但 q”表明分句间具有转折关系，“如果 p，那么 q”表明分句间具有假设关系。（徐阳春 2002）

訳：複文に関する研究は主に関連詞による研究である。狭い意味では、関連詞は複文の各分節を連結し、一定の意味関係を表す語のことを指す（関係詞とも呼ぶ）。つまり、関連詞は複文の中で、各分節を連結する、及び文節間の意味関係を表すという2つの作用がある。また、一部の関連詞は特定の意味関係を表す標識と見なされる。上記①の“因为 p，所以 q”は因果関係を表す（「から、ので」の相当する）。②の“虽然 p，但 q”は逆接関係を表す（「けれども、が」に相当する）。③の“如果 p，那么 q”は仮定関係を表す（「もし、ば」に相当する）。

る。代表的な表現として“只要 p, 就 q”と“只有 p, 才 q”がある。日本語の条件文「さえならば」などに近い表現である。

- ・目的句：“目的性因果隐含句”の略称。ある行為およびその目的を叙述する形式である。代表的な形式として“p, 以便 q”がある。日本語の条件文「ために」などに近い表現である。

## 1.2 張斌 (2010) の分類

張斌 (2010) は、二つあるいは二つ以上の意味的に関連している単文から構成された文が複文であると指摘した。そして、中国語の複文を“联合复句”、“偏正复句”、“多重复句”と“紧缩复句”の4種類に分けている。

### ①联合复句

構文的に各節の地位が平等で、主次の区別のない複文である。“等立复句”とも言う。下位分類として、“并列复句”、“连贯复句”、“递进复句”、“选择复句”、“取舍复句”、“解注复句”の6種類がある。

#### ・并列复句

前件と後件が関連のあるいくつかの事柄や状況、または同じ事物のいくつかの面を叙述する複文である。代表的な表現として“p, 并且 q”、“一边 p, 一边 q”などがある。日本語の「そして」、「ながら」などで結びつく複文に近い表現である。

(120)海面起风了, 并且天色也黯淡下来。

海面は風が起こった、そして、空模様も暗くなった。

(121)赵书记一面说着, 一面搜寻这个发言的人。

趙書記が話しながら、発言した人を搜した。

#### ・连贯复句

“承接复句”、“顺承复句”、“顺递复句”とも言う。連続的に発生する事件や動作または関連している物事や道理を叙述する複文である。各節の順序は、普通、変更できない。代表的な表現として“p, 接着 q”、“一 p, 就 q”などがある。日本語の「それから」、「と」などで結びつく複文に近い表現である。

(122)去年去了英国, 接着今年又去了法国。

去年はイギリスへ行った、それから、今年はまたフランスへ行った。

(123)我一开口, 他就瞪我。

私は口を開くと、彼に睨まれる。

#### ・递进复句

“进层复句”、“推进复句”とも言う。範囲、程度、数量、時間などの面で、後件が前件より意味的にさらに一步進むことを表す複文である。代表的な表現として“不但 p, 而且 q”などがある。日本語の「だけでなく」などで結びつく複文に近い表現である。

(124)她不但漂亮, 而且聪明。

彼女はきれいなだけでなく、頭もいい。

・ 选择复句

二つ以上の事物や状況を叙述して、聞き手に選んでもらう複文である。代表的な表現として“p, 或者 q”、“不是 p, 就是 q”などがある。日本語の「また」「あるいは」などで結びつく複文に近い表現である。

(125) 这项工作不是你做, 就是我做。

この仕事、あなたがやる、または私がやる。

・ 取舍复句

“优选复句”とも言う。話し手が二つ以上の可能項から、明確な選択を示す複文である。選択はすでに決まっていて、実際に選択するという働きはない。この点、上記の“选择复句”と区別される。代表的な表現として“与其 p, 不如 q”などの表現がある。日本語の「より…の方が…」などで結びつく複文に近い表現である。

(126) 与其说它是湖, 不如说是一个水池。

湖であるというより、池であると言ったほうが適切だ。

・ 解注复句

“解说复句”、“解证复句”、“注释复句”とも言う。後件が前件に対する解釈、説明、補充またはまとめなどを表す複文である。代表的な表現として“p, 总之 q”などがある。日本語の「とにかく」などで結びつく文に近い表現である。

(127) 她的性格完全变了: 平时喜怒无常, 讲话喋喋不休, 办事丢三落四, 总之, 不到一年的时间就像换了一个人。

彼女の性格が完全に変わった。いつもは喜怒常なしで、おしゃべりやで、よく物忘れだった。とにかく、一年足らずの時間で、別人になったようだ。

② 偏正复句

構文的に各節の地位が不平等で、主次の区別がある複文である。主節は“正句”と呼び、日本語の複文の主節に相当する部分である。次節は“偏句”と呼び、日本語の複文の従属節に相当する部分である。“主从复句”とも言う。下位分類として“因果复句”、“目的复句”、“条件复句”、“假设复句”、“转折复句”、“让步复句”の6種類がある。

・ 因果复句

偏句が原因を、正句が結果を説明する。前後節に原因—結果の関係（因果関係）を持つ複文である。代表的な表現として“因为 p, 所以 q”、“既然 p, 就 q”などがある。日本語の事態・行為の原因・理由を表す原因・理由文および判断の根拠を表す原因・理由文に近い表現である。

(128) 因为天冷, 缸里的水都结了冰。

寒いから、水がめの中の水が全部結氷する。

(129) 既然他天不亮就已经从家里动身了, 那么, 他一定能在天亮前赶到工地。

彼はまだ暗いうちにすでに家から出たので、夜明けになる前にきっと現場に着くだろう。

- ・ 目的復句

偏句がある動作や行為を述べ、正句がその目的を説明する複文である。代表的な表現として“p, 以便 q”などがある。日本語の目的を表す「ために」などで結びつく複文に近い表現である。

(130) 稿件字迹要清楚, 以便工人能顺利排版。

植字工が順調に製版できるように、原稿の筆跡をはっきりさせてください。

- ・ 条件復句

偏句がある条件を提出し、正句がその条件を前提に現れる結果を説明する複文である。代表的な表現として“只要 p, 就 q”などがある。日本語の条件文「さえ～ならば」などで結びつく複文に近い表現である。

(131) 只要姐姐在这里, 那肯定非常热闹。

お姉ちゃんさえここにいれば、きっととても賑やかになる。

- ・ 假设復句

偏句がある仮説を提出し、正句がその結果を説明する複文である。代表的な表現として“如果 p, 就 q”などがある。日本語の假定条件文及び反事実的假定文に近い表現である。

(132) 如果没有你, 我早就死了。

あなたがいなければ、私はとっくに死んでいた。

- ・ 转折復句

偏句がある事態を述べ、正句が偏句の事態とは逆の事態を説明する複文である。代表的な表現として“p, 虽然 q”などがある。日本語の逆接を表す「けれど」などで結びつく複文に近い表現である。

(133) 听不清他说了什么, 虽然他的嗓音很清楚。

彼の声ははっきりしているけど、何を言ったかははっきり聞こえない。

- ・ 让步復句

偏句が譲歩する条件を提出し、正句がその条件で現れる結果を説明する複文である。代表的な表現として“即使 p, 也 q”などがある。日本語の逆条件を表す「としても」などで結びつく複文に近い表現である。

(134) 即使这一次没及格, 也不要泄气。

今回不合格になっても、気を落とさないで。

### ③ 多重復句

三つあるいは三つ以上の分節からでき、二つあるいは二つ以上の構文的階層を持つ複文である。

(135) 即使人们疑心，也只能怀疑他是新到城里来的乡下佬儿，大概不认识路，所以讲不出价钱来。

[[人々が疑ったとしても、[彼が町に来たばかりの田舎者で、道を知らないだろうから、値段を言い出せない]のではないかと疑うだけだ。]]

“即使 p，也 q”は譲歩関係を表す。その q はさらに、“x，所以 y”の構造を持ち、因果関係を表す。つまり、(135)の構造は“即使 p，也[x，所以 y]”である。

#### ④紧缩复句

単文に似ている構造で複文の意味を表す特殊な複文である。

(136) 看我岁数小蒙我。 (因果)

私が若く見えるから騙した。

(137) 吃块雪糕降降温。 (目的)

アイスを食べて温度を下げる。

(138) 他一端酒杯脸就红。 (条件)

彼はワイングラスを持つと顔が赤くなる。

### 1.3 複文の意味関係について

王維賢 (1994) は中国語の複文の意味関係に“事理关系 (factual relation)”、“认识关系 (cognitive relation)”と“心理关系 (psychological relation)”の三種類があると指摘している。

- ・事理关系 (factual relation): 客観的な事物の間にある事実的な関係。
- ・认识关系 (cognitive relation): 事理関係に反応するとき、主観的な認識や選択などを加えてから反応すること。
- ・心理关系 (psychological relation): 客観的な事物あるいは関係に対する主観的態度。

さらに、張斌 (1998、2002) は中国語の複文の意味関係を“事理关系”、“逻辑关系”と“心理关系或语用关系”の三種類に分類した。

- ・事理关系: 客観事実の間にある関係を指す。“并列关系”、“连贯关系”などがある。
- ・逻辑关系: 判断と判断の間にある関係を指す。“因果关系”、“假设关系”と“条件关系”などがある。
- ・心理关系或语用关系: 話し手の主観的認識を指す。“递进关系”、“转折关系”などがある。

## 2 中国語の因果複文

前節で述べたように、中国語の因果複文は“偏正复句”に属すると張斌 (2010) が指摘している。因果複文とは、偏句が原因を、正句が結果を説明する。前後節に原因—結果の関係 (因果関係) を持つ複文で、説明性因果複文と推論性因果複文の二種類がある。

### ①説明性因果複文

すでに成立した事実によって原因と結果を説明する複文である。述べている事実は、一般に、すでに実現したものであり、つまり、客観的に存在する因果関係に対する説

明、描写である。代表的な表現として“因为 p, 所以 q”などがある。日本語のカラ I・ノデ I で表す原因・理由文に近い表現である。すでに成立した事実を陳述する。また、前後節の間に因果関係がある。原因を先に述べ、後に結果が来るのが普通であるが、先に結果を述べ、後に原因が来る場合もある。この場合、“之所以 q, 是因为 p”などで表す。日本語の「Q のは、P からだ」に近い。

- (139) 事実の原因 因为天冷，缸里的水都结了冰。  
寒いから、水がめの中の水が全部結氷する。
- (140) 行為の理由 因为儿子昨天回来了，所以她要准备许多好菜。  
息子が昨日帰ったから、おいしい料理をたくさん用意する。
- (141) 推論の根拠 中国美女一定长得很可怕，所以他才逃到巴西来。  
中国の美女がきっとかなり怖かったから、彼はブラジルへ逃げてきた。
- (142) 命名の根拠 因为是在黄昏时开花，晚饭前后开的最为闹哄，故又名晚饭花。  
夕方に咲く花で、夕食の前後に一番賑やかに咲くので、夕食の花とも呼ぶ。

## ②推論性因果複文

一定の事実や知識を根拠（または理由）に、新たな結果を推測する。この結果は、実現したことでも、実現していないことでもある。代表的な表現として“既然 p, 就 q”などがある。日本語のカラ II・ノデ II で表す原因・理由文に近い表現である。根拠節では、客観的に発生した事情や出された決定を述べる。一方、判断節は主観性を持ち、話し手の主観的判断を述べる。また、説明性因果複文と同じように、前後節に因果関係がある。推論性因果複文は単に客観的に因果関係を説明するのではなく、ある事実を根拠に、因果関係によって、話し手なりの結論を推測する。

ここで、説明性因果複文と推論性因果複文の違いを見てみよう。

- ・推論性因果複文は推論を表し、前後節の関係が必然的である。一方、説明性因果複文は因果関係を説明して、前後節の関係が偶然である場合もある。
- ・推論性因果複文の前節は話し手と聞き手が共有する情報であり、後節が話し手の観点や考えを表すため、主観性を持つ。説明性因果複文の前節は必ずしも話し手と聞き手が共有する情報とは限らない。また、後節は客観性を持つ。
- ・語順の点から見ると、説明性因果複文の前後節はそれぞれ独立した単文であり、前節が原因で後節が結果である形式も、前節が結果で後節が原因である形式もある。一方、推論性因果複文の前後節は普通離れることができない。前節が判断で後節が根拠である形式はほとんどない。

## 3 接続辞

### 3.1 接続辞の形式と作用

#### 3.1.1 接続辞の形式

中国語の複文の前後節の関係を表す接続辞には、5つの使い方があると張斌（2010）が述べた。

- ①一つの接続辞だけで複文の意味関係を表す。“単用”と呼ぶ。例えば、“p, 接着 q”（「それから」に相当する）などがある。
- ②二つの接続辞が共起して複文の意味関係を表す。共起する接続辞は普通、ほかの接

続辞で置き換えることができない。“対用”と呼ぶ。例えば、“因为 p，所以 q”（「から」、「ので」に相当する）などがある。

- ③並列しているいくつかの分節で、同じ接続辞を重複して用いることで強調の意を表す。“连用”と呼ぶ。

(143) 虽然我曾在课堂上公表过我的意思，虽然我的文章那时也无处发表，虽然我是早已不说话，但这都不足以做我的辩解。

講堂で私の考えを発表したことがあるけれど、どこも私の文章を載せてくれなかったけれど、とくに話さなくなったけれど、私の弁解になるにはまだ不十分だ。

- ④上記②の共起する接続辞の間にほかの意味関係を表す接続辞を入れることで、複文の二つ以上の意味関係を同時に表す。“复用”と呼ぶ。

(144) 如果她承袭了这笔财产，即使是合法的，但也不光彩。

彼女がこの財産を受け継いだら、たとえ合法的であっても、面目を施すことではない。

“即使 p，也 q”は譲歩関係を表す。“但”は逆接関係を表す。この二つの接続辞の“复用”によって、(144)は譲歩と逆接の二つの意味関係を持つ。

- ⑤二つまたは二つ以上の接続辞が、それぞれ異なる階層の分節の意味関係を表す。“套用”と呼ぶ。“套用”関係を持つ接続辞が表している意味関係の種類の同異によって、“套用”を同類“套用”と異類“套用”の二種類に分けることができる。

(145) 同類“套用” 因为他脾气古怪，生性多疑，所以经常惹是生非，因此大家只好敬而远之。

あの人は、気性が変だし、疑いやすいから、よく悶着を起こす。それ故、みんなから敬遠された。

(146) 異類“套用” 虽然今年我们取得了很大的成绩，但如果因为有了这些成绩，就认为差不多了，并且松一口气，那就成问题了。

今年は大きな業績を得たが、これぐらいの業績を得たからって満足して、ほっとしていたら、かえって問題になる。

(145)の“因为”、“所以”、“因此”は全部因果関係を表す。一方、(146)の“虽然 p，但 q”は逆接関係、“如果 p，那就 q”は仮説関係、“因为”は因果関係、“并且”は順接関係を表す。

また、接続辞の直線的な距離によって、連続“套用”と間隔“套用”に分けることができる。上記(146)の“但如果因为”は連続“套用”であり、(145)の各接続辞の間には間隔があるため、間隔“套用”である。更に、接続辞が作用する分節の位置によって、“前辖套用”と“后辖套用”に分けることができる。(145)の“因此”は前に位置する“因为他脾气古怪，生性多疑，所以经常惹是生非”に作用するため“前辖套用”である。一方、(146)の“但”は後に位置する“如果因为有了这些成绩，就认为差不多了，并且松一口气”に作用するので“后辖套用”である。

### 3.1.2 接続辞の作用

中国語の複文の接続辞の作用は、概ね以下の3つにまとめられる。

- ①複文の前後節の単純な意味関係を明らかに表現する。
- ②複文の前後節の意味関係に複数の解釈がある場合、接続辞を用いることによって、一つの意味関係を選んで表すことができる。
- ③複文の前後節の意味関係に複数の解釈がある場合、接続辞の“复用”（3.1.1の④を参照）によって、その複数の意味関係を同時に表すことができる。

### 3.2 有標複文

接続辞を用いる複文を本稿では有標複文と呼ぶことにする。

前節から分かるように、日本語のカラ・ノデ原因・理由文は中国語の因果複文の「説明性因果複文」と「推論性因果複文」に対応する。その代表的な表現として“因为p，所以q”があげられる。ここでは、接続辞の“因为”、“所以”で表現する有標複文を例に、その特徴について見てみることにする。

李晋霞，王忠玲(2013)では“因为”と“所以”の文法的意味と機能の相違について次のようにまとめている。

“所以”は前後節の因果関係を顕在化する標識であり、“因为”は原因(原因・理由節)を顕在化する役割をする。つまり、“因为”を用いないと、原因がはっきりしなかったり、因果関係が不明瞭になったりするが、原因を顕在化する“因为”を用いることで、読み手の論理的思考の構築を助ける役割をする。従って、因果関係の顕在度が高いほど、“因为”を用いないで“所以”だけで表す傾向があり、因果関係の顕在度が低いほど“因为”を多用する傾向がある<sup>2</sup>。

この点について、少し例を挙げながら説明していくことにする。

- ① “p，所以 q”での“所以”は前後節の因果関係を顕在化する標識である。

(147) 感冒了(x)，没上班(y)，朋友来看我了(z)。

風邪を引いた、会社を休んだ、友達が訪ねてきた。

- a. 感冒了(x)，没上班(y)，所以朋友来看我了(z)。

風邪を引いた、会社を休んだから、友達が訪ねてきた。

- b. 感冒了(x)，所以没上班(y)，朋友来看我了(z)。

風邪を引いたから会社を休んだが、友達が訪ねてきた。

(147)の無標文の場合は、「会社を休んだ(y)」から「友達が訪ねてきた(z)」のか、それとも「風邪を引いた(x)」から「会社を休んだ(y)」のかがはっきりしない。つまり、原因節が(Y)であるか、(X)であるかがはっきり判断できない。“所以”を用いることでそういった関係がはっきりする。即ち(147a)は“(X，Y)＋所以(Z)”で、(147b)は“(X)＋

---

<sup>2</sup>原文：“因为”重在提示原因。如果不用，读者可能会不大注意到或不大明白事件之间的因果关系。“所以”有所不同，其前后事件间的因果关系往往比较显豁。……“因”有提示原因的作用。当前后小句间的因果联系不明晰时，用“因”（或“因为”）可以帮助建立因果联系，提示读者思考、打通这种联系。……简言之，“因为”与“所以”在因果联系的显豁度上有所不同，因果联系的显豁度越高，越倾向于单用“所以”，因果联系的显豁度越低，则“因为”使用的倾向越大。

所以(Y)”である。

従って、“所以”を用いることで、その前後節の因果関係が明確になり、原因を表す“因为”を用いなくても因果複文として十分に成り立つ。しかし、(147a)の(X)、(Y)がともに原因節になるのか、それとも(Y)だけが原因節であるのかははっきりしない。

② “因为 p, q”での“因为”は原因(原因節)を取り立てる機能を果たす。

(148) 因为感冒了(x), 没上班(y), 朋友来看我了(z)。

a. 因为感冒了(x), 没上班(y), 朋友来看我了(z)。

風邪を引いたから、会社を休んだ、友達が訪ねてきた。

b. 因为感冒了(x), 没上班(y), 朋友来看我了(z)。

風邪を引いて会社を休んだから、友達が訪ねてきた。

前で述べたように(147)の無標複文の場合は、前後の因果関係がはっきりしないものの、(148)のように“因为”を用いることで、原因節が(X)か(X, Y)になることがはっきり分かるようになる(148a, b)。しかし、原因節が(X)か(X, Y)のどちらかであるとしても、“所以”がないため、因果関係を表す前後節が一体、“因为(X) + (Y)”なのかそれとも“因为(X, Y) + (Z)”なのかがはっきりしない。

従って、“因为”だけを用いる文では、“因为”で原因を取り立てるものの、因果関係は不明瞭である。

③ “因为 p, 所以 q”での“因为”は原因(原因節)のスコープを顕在化する。

(149) 感冒了(x), 没上班(y), 所以朋友来看我了(z)。

a. 因为感冒了(x), 没上班(y), 所以朋友来看我了(z)。

風邪を引いて会社を休んだから、友達が訪ねてきた。

b. 感冒了(x), 因为没上班(y), 所以朋友来看我了(z)。

風邪を引いた、会社を休んだから、友達が訪ねてきた。

(149)では“所以”がある(Z)節が結果を表すことは間違いないが、原因節が一体、(X, Y)なのかそれとも(Y)なのかがはっきりしない。そこに“因为”を加えることで原因節のスコープがはっきりする。即ち(149a)は“因为(X, Y) + 所以(Z)”で、(149b)は“因为(Y) + 所以(Z)”になる。

従って、“所以”と“因为”を併用することによって原因(原因節)のスコープがはっきりする。

以上の三点から分かるように、原因・理由を表す中国語の表現“(因为)p, (所以)q”の“前標”と“後標”はそれぞれ異なる役割をする。つまり、“所以”は複文における構文的意味(前後節の因果関係の確定)を表す役割を果たし、“因为”は構文的階層分類としての原因節のスコープを画定し、取り立てる(原因節の画定・取立)役割を果たす。

### 3.3 無標複文について

日本における中国語研究者は概ね以下の2種類に分けることができる。つまり、日本語母語話者で中国語を研究する人と中国語母語話者で中国語を研究する人である。前者は膠着語である日本語から見て異質と思われる中国語の文法に関して問題提起する場合

が多く、後者は中国語母語話者が日本で中国語を教えるにあたって問題になっていることを研究対象に論ずる場合が多いといえよう。複文及び原因理由文に関する研究で前者に属する研究には、大河内（1967）、長谷川（2011）<sup>3</sup>などがあげられるが、いずれも接続辞を用いない複文の特徴を捉えようとしたものである。膠着語である日本語を母語とする日本人研究者からすると、接続辞を用いないで複文を構成する中国語の「意合法」は奇異に感じるかもしれない。その一方、中国国内の中国語学者らは接続辞を用いないで前後節の意味合いから複文関係を表す「意合法」が中国語の主な特徴だとした上で、接続辞の出現の必要性（接続辞の機能）についての研究が複文研究の主流となっている<sup>4</sup>。即ち、中国語における接続辞は必要に応じて使うものであり、複文における必須項ではない。

つまり、接続辞の使用によって、複文の前後節の関係を明らかに表すことができる。一方、複文の前後節の関係が明らかで、ほかの関係に解釈できない場合、接続辞を用いなくても大丈夫である。つまり、二つの文を並べるだけで、前後節の意味関係がはっきり理解できる。この場合、接続辞を用いない複文を本稿では無標複文と呼ぶことにする。

(150) a 昨天天气不好，没去长城。 (李 2011)

昨日はいい天気でなかった、万里の長城に行かなかった。

b 因为昨天天气不好，所以没去长城。

昨日はいい天気でなかったから、万里の長城に行かなかった。

以上のことから、本稿では、中国語の複文接続辞を用いる有標複文のみを対象にカラ・ノデ原因・理由文との対応関係を考察することにする。

#### 4 まとめ

本節では、中国語の複文の特徴について述べた。先行研究を踏まえて、中国語の複文の分類を次の(151)にまとめる。因果複文の特徴について次の(152)にまとめる。更に、中国語の因果複文の形態的な分類を(153)で示す。

<sup>3</sup> 長谷川（2011）が取り上げた関連詞を用いない文の例の殆どが“p, 就 q”であり、中国国内における中国語研究ではこの形式が条件および原因・理由を表す典型的形式の一つとして扱われている。また、反事実条件文について「…命題全体を否定する文などについては、接続詞無しで反事実の節を形成できる」としているが、これは坂原（1985）などという誘導推論のことであり、「p だから q である」という原因・理由文から「¬p ならば¬q である」を導くことはどの言語でも同様な解釈が可能だと考えられる。その点李光赫（2011）が指摘していることとほぼ一致しており、同氏の主張することの殆どは井上（2003）で既に指摘されていることである。

<sup>4</sup> 高在蘭（2013）指出：汉语语法学界早就认识到汉语连词可以省略。王力（1940）指出：“子句与子句的关系, 在中国语里, 往往让对话人意会, 而不用连词。” 吕叔湘（2014）也指出：“词结和词结的结合既然凭着种种关系, 这些关系可以用关系词明白表示, 也可以含蓄着不言而喻。”

訳：高在蘭（2013）：中国語学の研究において、接続辞は省略が可能である。

王力（1940）：中国語では、分節間の関係は、接続辞を用いないで、文脈によって理解することが多い。

呂叔湘（2014）：分節間の関係は接続辞で表すこともできるし、接続辞を使わず表現することもできる。

(151)

邢福義（2001）による分類															
并列类						因果类					转折类				
取舍复句	解注复句	并列复句	连贯复句	递进复句	选择复句	因果复句	推断复句 *1	假定复句	条件复句	目的复句	转折复句	让步复句	假转复句 *2		
联合复句						偏正复句								多重复句	紧缩复句
張斌（2010）による分類															

\*1 “推断复句”は張斌(2010)の分類にはないが、実際に張斌の因果複文に対する説明によると、“推断复句”は因果複文に属する一類であると思われる。

\*2 “假转复句”は張斌(2010)の分類にはないが、“假转复句”は意味的に逆接を表すため、本稿では、“假转复句”が“转折复句”に属する一類であることにする。

(152)

	説明性因果複文	推論性因果複文
代表表現	因为 p, 所以 q	既然 p, 就 q
対応する日本語	カラ I ・ ノデ I 原因・理由文	カラ I ・ ノデ II 原因・理由文
意味	因果関係の説明	推論
前後節特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>前後節の関係：偶然、必然</li> <li>前節の情報：共有、非共有</li> <li>後節の内容：客観性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前後節の関係：必然</li> <li>前節の情報：共有</li> <li>後節の内容：話し手の観点や考え、主観性</li> </ul>
語順	因—果、果—因	因—果

(153)

	接続形式	代表的表現
有標複文	接 <sub>前</sub> p, 接 <sub>后</sub> q <sup>*1</sup>	因为 p, 所以 q; 既然 p, 就 q
	接 <sub>前</sub> p, q	因为 p, q; 既然 p, q
	p, 接 <sub>后</sub> q	p, 就 q; p, 只好 q
無標複文	p, q	p, q

\*1 接<sub>前</sub>は前節の前に位置して、前節の最初に用いられる接続辞のことを指す。

接<sub>后</sub>は前後節の間に位置して、後節の最初に用いられる接続辞のことを指す。

### 第三章 カラ I における日中対照と関数検定

カラ I で表す原因・理由文を、中国語では典型的な形式“因为 p, 所以 q”のほか、“因为 p, q”と“p, 所以 q”で表す場合も少なくない(154~156)。また、継起関係を表す“p, 就 q”で表す場合もある(157、158)。本章では、「事態の原因」と「行為の理由」を表すカラ I と中国語の因果複文の対応関係を考察する。

- (154) 体重が四肢にかかるから楽である。 井伏鱒二『黒い雨』  
因为重量落在四肢上, 感到挺舒服。 柯毅文颜景镐译《黑雨》
- (155) 別に監視人もいませんから、本当に危険のない遊び道具だけが置いてあるんですが、…… 赤川次郎『三毛猫ホームズの怪談』  
因为没有专人特别看管, 所以只设置了一些不具危险性的玩具。…… 叶蕙译《三色猫怪谈》
- (156) 男もそれがわかっているから、暴力をふるうときも、人には見せにくい場所を選ぶ。あるいは跡が残らないようにやる。 村上春樹『1Q84 BOOK1』  
男人也知道这点, 所以用暴力的时候, 都选择别人看不到的地方。或不留痕迹地做。 施小炜译《1Q84 BOOK1》
- (157) こんなに明るい月を見たのは久しぶりだったから電灯を消してみたんですよ。 村上春樹『ノルウェイの森』  
好久没看见过这么亮的月光, 就把灯关了。 林少华译《挪威的森林》
- (158) 見るとすごく汗かいているから、私一所懸命背中さすってやったの。 村上春樹『ノルウェイの森』  
一看, 汗出得很厉害, 我就使劲给她搓背。 林少华译《挪威的森林》

「事態の原因」と「行為の理由」を表すカラ I が、中国語では“(因为)p, (所以)q”類か“p, 就 q”類で訳される傾向があることが今回の調査で分かった。その対訳例の整理から、「事態の原因」が“因为 p, (所以)q”類に、「行為の理由」が“(因为)p, 所以 q”と“p, 就 q”類にそれぞれ対応する傾向がうかがわれる。それは、主観的な意図を表す場合に好んで使われる“p, 就 q”は客観的事態の羅列になる「事態の原因」にはあまり馴染まない表現になるからである。

そこで、本章では文中に現れるカラ I で表す事態の原因と行為の理由がそれぞれ中国語でどう対応するかを整理し、その対応関係を明らかにしたい。

#### 第一節 カラ I の意味・用法と中国語での表し方

本稿では今までの日本語の原因・理由文の研究で議論されてきた問題点をまとめて概説的に書くことを目的にしながら、中国語との対応関係もなるべく分かり易く簡潔にまとめる。蓮沼など(2001)は書名通りセルフマスターに相応しい本であり、われわれ日本語学習者及び日本語教師のための覚書ともいえる本である。更に、原因・理由文の本質をとらえるのに最も典型的な例を用いて分かり易く説明している。従って本節では、蓮沼など(2001)の分類をもとに、まずカラ I における意味と用法及びそれに対応する中国語形式について簡潔に述べていく(従って出典が特に明記されていない例は蓮沼など(2001)による)。

原因・理由を表すカラは事態・行為の原因・理由を表す用法(カラ I)、判断・発言・

態度の根拠を表す用法（カラⅡ）と主節の事態の実現を助ける用法（即ち、原因・理由を表さない用法）の三種類に分けられている。カラⅠは更に「事態の原因」（原因）と「行為の理由」（理由）に分けている

## 1 事態の原因を表すカラⅠ

事態の原因とは、事実と分かっている事態 P と Q が原因—結果の関係（因果関係）を持っていて、前節が後節の事態を引き起こす原因を表すことを指す。そのため、後節の述語は一般的に状態を表す述語文になる。この場合、中国語では（因为）p，（所以）q で表すことが多い。また、後節は、“才”、“就”、“于是”などで表す場合もある。

ここは海に近い	原因	カラ	風が強い	結果
因为这里离海很近所以风很大。				

(159) このあたりは環境がよくて買い物にも便利だから、家賃が高い。

因为这附近环境不错购物也方便，所以房租贵。

(160) あのレストランは高くてまずいから、あまり人気がありません。

因为那家饭店又贵又难吃，所以不怎么有人气。

(161) この学生はよく勉強するから、成績がいい。

这个学生学习努力，所以成绩好。

(162) 純良アルコールだから匂がいい

井伏鱒二『黒い雨』

因为是好酒精。所以味道还算不错。

柯毅文、颜景镐译《黑雨》

(163) 私はとくべつ扱いだから今こうして自由にしてるけれど。

村上春樹『ノルウェイの森』

我受特殊优待，现在才这样自由自在。

林少华译《挪威的森林》

以上（159～163）から分かるように、事態の原因を表すカラⅠの前節と後節はどちらも客観的な事態を述べている。中国語でも、事態の原因を表す場合、前後節が表している事態は客観的な状態であり、前節が原因節で、後節が結果節になる。

また、呂叔湘(2014)は、因果複文の前後節が表している事態の間に、因果関係のほか、時間的な前後関係もあることを指摘した<sup>5</sup>。つまり、日本語の原因・理由文の前後節の間にも、時間的な前後関係があると言えるだろう。事態の原因を表すカラⅠ文の場合、持続的な事態ではあるが、事態の起こる順序から考えると、前節の事態が後節より先に起こっていると思われる。

## 2 行為の理由を表すカラⅠ

行為の理由とは前件が後件で行う行為に対する理由を説明する文である。そのため、行為を表す後件の述語は意志動詞である。このような行為の理由を表すカラⅠ文の後節には、未来の行為についての話し手の意志や、過去の意志的動作を表す表現が使われる。この場合、中国語は一般的に“因为 p，所以 q”で表せるが、後節には“才”、“就”、“于是”などが現れる場合が多い。

<sup>5</sup> 原文:两件事情一先一后发生,可以是偶然的,也可以不是偶然的。如果我们不特别注重其间的因果关系,我们不妨仍然用时间关系词来连系。这类句子,表面上以时间相连系,但先后两事之间实亦因果相关。这些句子里,如果改用“故”、“以此”及“以”、“为”等词,因果关系就明确的表示出来了。

少し熱がある 行為の理由 カラ お風呂に入るのはやめておこう 意志的動作 有点发烧就別去洗澡了
--

(164) 今日是用事があるから、お先に失礼します。

今天还有事，就先告辞了。

(165) 宿題が終わったから、そろそろ寝よう。

作业做完了就睡吧

(166) 彼女も男というものを憎んでいましたから、私の愛に応えてくれました。

赤川次郎『三毛猫ホームズの追跡』

她恨男人，所以接受我的爱。

叶蕙译《三色猫追踪》

(167) 暇になったから、床屋に行く。

村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』

因为有时间，所以去理发

林少华译《舞！舞！舞！》

この用法では、上記の（164～167）のようにすでに成立している P を理由に Q を行うという関係ばかりでなく、未来に成立する P を理由に、前もって Q を行うという関係を表すこともできる（168、169）。この場合、P の述語には基本形が使われる。

元気が出る (P) カラ 今日の晩ご飯はウナギにしよう (Q) <u>因为</u> 能打起精神， <u>所以</u> 今天的晚饭做鳗鱼
--

⇒現実に来る事の成立する順序：

今日の晩ご飯はウナギにする (Q) → 元気が出る (P)

(168) 来週から試験だから、アルバイトを休んで準備している。

因为下周有考试，所以暂停了打工准备考试。

(169) 夕方から雨になりそうだから、傘を持って出かけた。

傍晚开始好像要下雨，所以带着伞出门了。

上記から見ると、行為の理由を表すカラ I の後節には、意志的動詞が出ることが多い。前節で述べた時間的順序の点から見ると、前後節の起こる順序が一定ではない。しかし、前節が表している事態が未来に起こる事態であっても、その状況を前提に、後節の行為を行うことになるので、やはり前後節に時間的な順序があるといえるだろう。

### 3 原因と理由の違い

本節では、カラ I が表す「事態の原因」と「行為の理由」について述べた。原因と理由の違いについて次のようにまとめる（170）。

- ①・原因文では前節も後節も状態を表す述語で、持続的な状態を表している。
  - ・理由文の前節は、状態であることも、一時的な動作であることも可能。後節は意志的動詞で、一時的な動作を表す。
- ②・原因文では前後節の事態の起こる順序が決まっている。前節が先に起こり、後節の状態を引き起こす。
  - ・理由文の場合、前節が未来に起こる事態であることも可能である。この場合、未来に起こる前節の事態のために、先に後節の動作を行うことを表す。

(170)

	原因	理由
内容	・前節：状態 ・後節：状態	・前節：状態、動作 ・後節：動作
事態の順序	前節 → 後節	前節 → 後節 後節 → 前節

## 第二節 カラ I の対訳例調査

### 1 はじめに

前節で述べたように、蓮沼など(2001)及び前田(2009)などでは、原因・理由を表すカラを、事態・行為の原因・理由を表す用法(カラ I)、判断・発言・態度の根拠を表す用法(カラ II)と主節の事態の実現を助ける用法(即ち、原因・理由を表さない用法)の三種類に分けている。

本稿で論じるカラ I は「事態の原因」(原因)と「行為の理由」(理由)に、カラ II は「判断の根拠」(判断)と「発言・態度の根拠」(態度)にさらに分けることができる。

カラ I を更に「事態の原因」(原因)と「行為の理由」(理由)に分けたが、「事態の原因」は、事実と分かっている事態 p と q が原因-結果の関係(因果関係)であることを表し、「行為の理由」は、なぜそのような行為をするのかに対する理由を説明する。以下、本論では前者を原因文、後者を理由文と呼ぶことにする。

(171)ここは海に近いから風が強い。 <事態の原因>

(172)頭が痛かったから、医者に行った。 <行為の理由>

また、邢福義(2001)、張斌(2010)は、中国語の因果複文を「説明性因果複文」と「推論性因果複文」の2種類に分けている。カラ I 原因・理由文は、意味的に中国語の「説明性因果複文」に対応すると思われる。「説明性因果複文」の代表的な表現として“因为 p, 所以 q”が挙げられる。この“因为 p, 所以 q”には、第2章で述べたように、次の三点の特徴がある。

- ① “p, 所以 q”での“所以”は前後節の因果関係を顕在化する標識である。
- ② “因为 p, q”での“因为”は原因(原因節)を取り立てる機能を果たす。
- ③ “因为 p, 所以 q”での“因为”は原因(原因節)のスコープを顕在化する。

以上の三点から分かるように、原因・理由を表す中国語の形式“(因为)p, (所以)q”の“前標”と“後標”はそれぞれ異なる役割をする。つまり、“所以”は複文における構文的意味(前後節の因果関係の確定)を表す役割を果たし、“因为”は構文的階層分類としての原因節のスコープを画定し、取り立てる(原因節の画定・取立)役割を果たす。

そこで、本節では、カラ I における「事態の原因」と「行為の理由」と中国語の対応関係を中心に考察する。

### 2 対訳例から見る原因文と“(因为)p, (所以)q”の対応傾向

#### 2.1 カラ I の対訳例から見る中国語の原因・理由文

本論では21編の日本の小説<sup>6</sup>とその中国語訳についてカラの対訳例を調査した。本来

<sup>6</sup> 1. 大岡昇平『野火』、尚侠等译《野火》2. 井伏鱒二『黒い雨』、柯毅文、顔景鎬译《黑雨》3. 太宰治『斜陽』、張嘉林译《斜阳》4. 村上春樹『ノルウェイの森』、林少华译《挪威的森林》5. 村上春樹『羊をめぐる冒険』、林少华译《寻羊冒险记》6. 村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』、林少华译《舞! 舞! 舞! 》7. 村上春樹『国境の南、太陽の西』、林少华译《国境以南, 太阳以西》8. 村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』、林少华译《世界尽头与冷酷仙境》9. 村上春樹『1Q84 BOOK1』、施小炜译《1Q84 BOOK1》10. 村上春樹『1Q84 BOOK2』、施小炜译《1Q84 BOOK2》11. 村上春樹『1Q84 BOOK3』、施小炜译《1Q84 BOOK3》12. 赤川次郎『三毛猫ホームズの登山列車』、叶蕙译《三色猫登山列车》13. 赤川次郎『三毛猫ホームズのびっくり箱』、叶蕙译《三色猫奇异箱》14.

ならば中国語の因果類関連詞文（有標の因果複文）が日本語でどう翻訳されているかを調査すべきであるが、現代中国語（特に口語文）の複文では接続辞を用いないで表すのが一般的であるため、ここでは日本語のカラ I とそれに対応する中国語形式を統計してみることにする<sup>7</sup>。つまり、中国語（中国語訳者）から見た日本語のカラ I 原因・理由文は一体どんなものか、或いはカラ I のような原因・理由文を中国人がどのような中国語で表すかを浮彫りにする。

原因・理由を表すカラの例は全部で 940 例(カラ I :550 例、カラ II :390 例)あり、そのうち 550 例のカラ I があった(173)。

(173) カラ I (550 例) :

有標複文 256 例 : 46.5%、無標複文 294 例 : 53.5%。

カラ II (390 例) :

有標複文 147 例 : 37.7%、無標複文 243 例 : 62.3%。

カラ I の対訳例 550 例のうち、無標形式 294 例以外の 256 例は、①“因为”類、②“因为所以”類、③“所以”類、④“才”類、⑤“就”類、⑥その他といった 6 種類の有標形式に訳されている<sup>8</sup>。それを纏めると次の (174、175) のようになる。なお、無標複文 (294 例、53.5%) の例が大半を占めているが、第 2 章でも述べたように、中国語複文では接続辞が必須ではなく、無標複文で表す場合が一般的であるため、本論ではまず中国語の複文の有標複文のみを対象にカラ I と対照することにする。

(174)

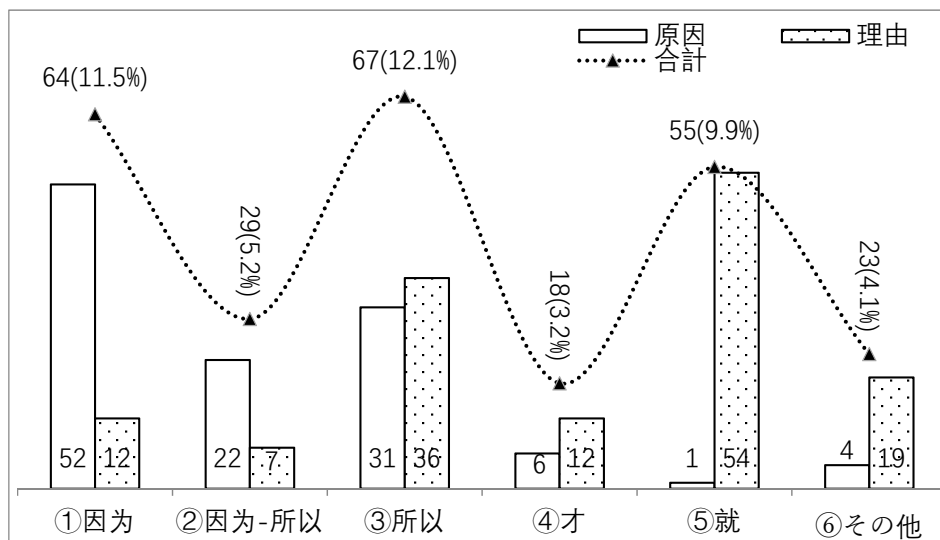
	因为	因为所以	所以	才	就	その他	無標	合計
原因	52	22	31	6	1	4	194	310
理由	12	7	36	12	54	19	100	240
合計	64	29	67	18	55	23	294	550

赤川次郎『三毛猫ホームズのクリスマス』、叶蕙译《三色猫的圣诞节》15. 赤川次郎『三毛猫ホームズの駆落ち』、叶蕙译《三色猫之私奔》16. 赤川次郎『三毛猫ホームズの恐怖館』、叶蕙译《三色猫恐怖馆》17. 赤川次郎『三毛猫ホームズの推理』、叶蕙译《三色猫推理》18. 赤川次郎『三毛猫ホームズの幽霊クラブ』、叶蕙译《三色猫幽灵俱乐部》19. 赤川次郎『三毛猫ホームズの追跡』、叶蕙译《三色猫追踪》20. 赤川次郎『三毛猫ホームズの怪談』、叶蕙译《三色猫怪谈》21. 赤川次郎『三毛猫ホームズの感傷旅行』、叶蕙译《三色猫伤感旅行》

<sup>7</sup>原文：在现代汉语口语中，不出现小句标记是普遍现象，故汉语不能只根据其显性标记“因为”等来断定一定篇章中有多少因果复句。当“因为”“所以”等因果标记没有出现时，仍有可能是因果复句，然而这样的因果复句到底有多少，实际上很难统计。因此，只从“因为”“所以”等标记来统计汉语因果复句数量的做法不符合汉语这种主从小句标记可选择性出现类语言的类型特点。高在兰（2013）

<sup>8</sup> “因为”類：因为 p, q、由于 p, q。“因为，所以”類：因为 p, 所以 q。“所以”類：p, 所以 q、p 因此 q。“才”類：p, 才 q、(因为) p, (所以) 才 q。“就”類：p, 就/便 q、(因为) p, (所以) 就/便 q、p, 于是就/便 q。その他類：因为 p, 只好 q、既然 p, 那么 q、其他。

(175) <sup>9</sup>

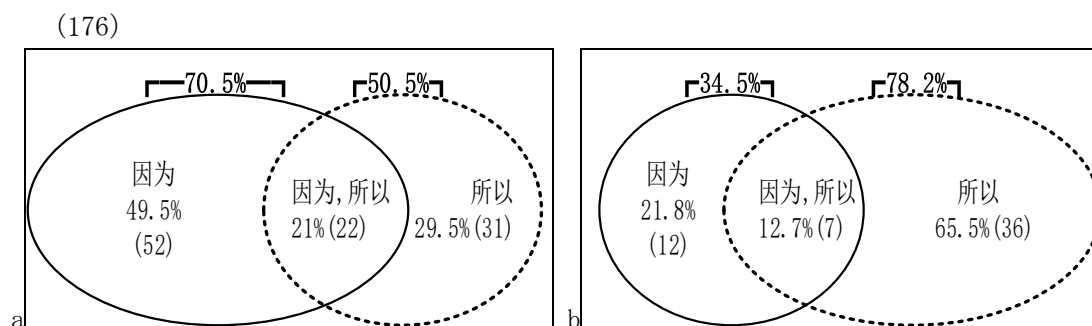


(175) から分かるように、文中のカラ I の対訳例の多くは“所以”類 (12.1%)、“因为”類 (11.5%) と“就”類 (9.9%) の三類に集中している。つまり、これら三形式がカラ I 原因理由文と意味的に最も近いことを示している。

## 2.2 原因節を焦点化する“因为”について

(175)からは、原因文には“因为”が好んで使われていて、理由文では“所以”と“就”が好んで使われているように見える。ここでまず明らかにしなければならないことは“因为”と“所以”がカラ I の原因・理由文と一体どう対応するかということである。それを明らかにするため、ここではカラ I が“因为 p, q”“因为 p, 所以 q”“p, 所以 q”といった三形式に訳されている場合のみを対象に分析してみる。

“因为 p, q”、“因为 p, 所以 q”、“p, 所以 q”の三種類の対訳例のうち、原因文 105 例(=52+22+31)、理由文 55 例(=12+7+36)の“前後標”の分布状況を図で示すと次の(176)のようになる。



上記から分るように原因文は“因为”を含んだ形式“因为 p, q”と“因为 p, 所以

<sup>9</sup>事態の原因文を“p, 就 q”形式で訳したのは次の1例しかない。「ないね。何もないんだ。何もないから観光客も来ない。だから町もどんどんさびれていく。」村上春樹『羊をめぐる冒険』／“没有, 什么都没有。因为什么都没有, 也就没有游客。所以镇子一天比一天衰落。”林少华译《寻羊冒险记》。この例の中国語訳からすると“就”を用いることで強い主観性が付与され、その場で見て判断するような感じを与える。つまり、“就”を用いると判断文としてしか捉えられない。事態の原因を現象描写文として叙述すべき場合は“什么都没有, 所以游客也不怎么来。”で表すのが妥当だと考えられる。

q”で表す場合が圧倒的に多く、理由文は“所以”を含んだ“p, 所以 q”と“因为 p, 所以 q”で表す場合が圧倒的に多い。つまり、中国語における“前後標”“因为”と“所以”が日本語のカラ原因・理由文とどう対応するかについては次のような結論が得られる。

(177) “因为”は意味的に原因を表すカラ I に近く、“所以”は意味的に理由を表すカラ I に近い。

但し、これはあくまでも“因为”と“所以”がカラ I の原因・理由文とどう対応するかといった分析にすぎず、カラ I と中国語の因果複文全体を視野に入れた結論ではない。つまり、カラ I 対訳例全体図である(175)から見ても、“因为”、“所以”だけを対象にした(176)から見ても“因为”が原因を表すカラ I に近く、原因を表すカラ I も“因为”に近いといえるが、“所以”は必ずしも理由を表すカラ I に近いといえない。それは理由を表すカラ I は“所以”よりも“就”で表されるほうがずっと多いからである(175を参照)。(175)における“所以”67例と“就”55例からすると原因文と理由文での比率はそれぞれ 46.3%:53.7%と 1.8%:98.2%になる(178)。

(178) “所以”と“就”が原因・理由を表す比率

- a. “所以”67例：原因文31例(31/67=46.3%)、理由文36例(36/67=53.7%)。
- b. “就”55例：原因文1例(1/55=1.8%)、理由文54例(54/55=98.2%)。

前にも述べたように、李晋霞・王忠玲(2013)は、“所以”は前後節の因果関係を顕在化する標識であるとしていることから、“所以”と理由文には意味的に直接的な関係はないように思われる。それで次のような結論が得られる。

(179) カラ I 原因文では事態の原因として原因節が焦点になるが、中国語では“因为”を用いて原因節を焦点化する。

ここで、上記の原因節の焦点化について少し説明する。(180)のような無標文の場合、その前後の意味関係がはっきりしないため、いろんな解釈が可能である。X、Y、Z 事態(行為)を因果関係として捉えることも可能であり、単純な継起として捉えることも可能である。つまり、X、Y、Z 三つの事態(行為)の因果関係が不明瞭である。

(180) 感冒了(x), 没上班(y), 朋友来看我了(z)。

風邪を引いた、会社を休んだ、友達が訪ねてきた。

- a. 感冒了(x), 没上班(y)。
- b. 因为感冒了(x), 没上班(y)。

(180a)の場合はXとYの二つの事態のみの羅列になるから(180)よりは少し因果関係が強まる感じがする。しかし、(180a)に因果関係が感じられても、無標文である以上、「風邪を引いた」と「会社を休んだ」の間に直接的な因果関係は感じにくい。話題の焦点が前節にあるか後節にあるかもはっきり判断できない。

しかし“因为”を用いた(180b)では少し解釈が違ってくる。「風邪を引いた」のが「会社を休んだ」という事態の直接的な原因になる。つまり「風邪を引いたから会社を休んだ」という解釈にしかない。このような(180b)の場合は前節が新情報であり、

話題の焦点になる。この点は日本語のカラ I 文と同じ特徴を持っているといえるだろう。日本語のカラ I 文について前田(2009)では、「事態・行為の原因・理由文は前節に、根拠を表す原因・理由文は後節に、プロミネンスが置かれる」とされている。つまり、カラ I は原因・理由節が構文的に焦点になるということである。したがって、次の結論が得られる。

(181) “因为”は原因節を焦点化する役割をするが、カラ原因文は(カラ以外の)特定の形式を用いなくても原因節が構文的に焦点となる。

## 2.3 原因節のスコープ画定機能を果たす“因为”について

前に述べたように“p, 所以 q”の“所以”は、前後節の間に位置して因果関係を顕在化する標識である。この点カラも、構文的に前後節の間に位置して、前後節における因果関係を表すものと言える。しかし、日本語ではカラだけで因果関係を表すのに対して、中国語では“所以”以外に“因为”という“前標”が存在する。この“因为”は原因(原因節)のスコープを顕在化する機能を果たすと考えられる。(182)では“所以”がある(Z)節が結果を表すことには間違いがないが、原因節が一体、(X, Y)なのかそれとも(Y)なのかははっきりしない。そこに“因为”を加えることで原因節のスコープがはっきりする。即ち(182a)は“因为(X, Y) + 所以(Z)”で、(182b)は“因为(Y) + 所以(Z)”になる。

(182)感冒了(x), 没上班(y), 所以朋友来看我了(z)。

a. 因为感冒了(x), 没上班(y), 所以朋友来看我了(z)。

風邪を引いて会社を休んだから、友達が訪ねてきた。

b. 感冒了(x), 因为没上班(y), 所以朋友来看我了(z)。

風邪を引いた、会社を休んだから、友達が訪ねてきた。

つまり“所以”と“因为”を併用することによって原因(原因節)のスコープが確定できる。従って、“所以”がカラと同じく前後節の間に位置して前後の因果関係を顕在化する一方、“因为”は(カラを用いるカラ節と同じく)原因節のスコープ画定機能を果たす。

日本語のカラは前後節の因果関係の顕在化と原因節のスコープ画定機能をどちらも果たすが、中国語では“所以”が因果関係の顕在化、“因为”が原因・理由節のスコープ画定化といったそれぞれ異なる文法的機能を果たしているという結論が出られる。

## 2.4 カラ理由(意志動詞)文と“就”について

以上の2.1から2.3までは主に原因・理由文における“因为”、“所以”の機能を考察してきたが、ここでは“就”の機能について見ることにする。カラ I 理由文は行為の理由を表すため、後節は意志動詞文になる。このような意志動詞文は中国語ではよく“就”を用いて表す。この“就”が複文の接続辞として持つ意味について、邢福義(2001)は継起関係、因果関係、根拠による推論、純粋な仮定、仮定表現の五つの意味を挙げているが、そのほとんどが動作主の意志動作か命令・依頼表現及び判断であった(183~187)。

(183) 雷磊第一个交了卷，就匆匆忙忙地走了。 <継起> (邢福義 2001)

雷磊は最初に解答用紙を提出して、あわてて出ていった。

(184) 妈妈手脚不便，无法照料儿子，就由父亲陪床。 <因果> (邢福義 2001)

母は手足が不便で、息子の世話ができないから、父が面倒を見る。

(185) 事情已经过去，就不要再提他了。 <根拠による推論> (邢福義 2001)

もう過ぎたことだから、彼のことはもう二度と話さないでくれ。

(186) 我死了，就埋在八斗丘，行嘍？ <純粹な仮定> (邢福義 2001)

私が死んだら、八斗丘に埋めてちょうだい、いい？

(187) 人活着，就有希望。 <仮定> (邢福義 2001)

生きてさえいれば、希望は必ずある。

中国語の原因・理由文における“就”は主観的な判断を表すと考えられる。「どうしてあなたはインフィニティを選ぶのか」という質問に“就”を用いない(188a)は淡々としてインフィニティ QX70 を選ぶ理由を説明しているのに対して、“就”を用いる(188b)は自分の行為に対する強調になる。

(188) a. 因为爱，所以选择英菲尼迪 QX70。

愛するから、(みんなは) インフィニティ QX70 を選ぶことになる。

b. 因为爱，所以就选择英菲尼迪 QX70。

愛するから、(私は躊躇うことなく) すぐインフィニティ QX70 を選ぶのだ。

張斌(2010)でも、複文における“就”は主観的意図と判断を表すとされている。事態の原因を表す場合も同じことが言えるだろう。単なる事態の原因を述べる(189a、190a)に対して“就”を用いた(189b)は判断文であり、判断の根拠を表す文になり、(190a)は行為の理由を表す文になる。

(189) a. 因为下雨了，所以地湿了。 <事態の原因>

雨が降ったから、地面が濡れている。

b. 因为下雨了，所以地就湿了。 <判断の根拠>

雨が降ったから、地面が濡れているのだ。

(190) a. 因为感冒了，所以(他)没去学校。 <事態の原因>

風を引いたから、彼は学校に行かなかった。

b. 因为感冒了，所以(我)就没去学校。 <行為の理由>

風を引いたから、私は学校に行くことを諦めた。

(191) カラ I 理由文は文末の意志動詞によってその理由を顕在化するのに対して、中国語では“就”で意志動作と主観的判断を顕在化する。

### 3 まとめ

本節では、因果関係を表す中国語の“前標”、“後標”の立場から日本語のカラ I で表す原因・理由文の日中対応をまとめてみた。カラ I で表す原因・理由文は「事態の原因」と「行為の理由」に分けられるが、対訳例の統計から見ると、「事態の原因」が“因为 p, (所以) q”類に、「行為の理由」が“(因为) p, (所以) 就 q”にそれぞれ意味的に対応することが分かった。

原因節を焦点化するカラ I 原因文は意味的には“因为”で表す因果複文に最も近い、しかし、“因为”が原因節を焦点化する役割をするのにたいして、カラ原因文では特定の形式を用いなくても原因節が構文的に焦点となる。

中国語の“所以”は前後節の間に位置して前後節の因果関係を顕在化する一方、“因为”は原因節の前に位置して、「ここからが原因節である」と原因節を焦点化、顕在化、スコープを画定化する機能を果たす。つまり“前標”と“後標”がそれぞれ異なる役割を分担しているといえる。それに対して、日本語では、カラ形式が“所以”のように前後節の間に位置して前後節の因果関係を顕在化する傍ら、原因節の後ろに位置することで「ここまでが原因節である」と原因節を焦点化、顕在化、スコープを画定化する（“因为”のような）機能も果たす。

また、中国語では“就”で意志動作と主観的判断を顕在化するが、日本語では意志動詞によりその行為を顕在化する。

カラ I 及び“因为”、“所以”の機能をまとめてみると(192)のようになる。

(192)

	カラ I	因为	所以
位置	p カラ I、q	因为 p, 所以 q	
原因節の焦点化	○	○	—
因果関係の顕在化	○	—	○
原因節提示	○	○	—
スコープ画定	○	拵用	
主観性表示	後節の意志動詞	(因为) p, (所以) <u>就</u> q	

### 第三節 カラ I とその中国語訳における定量分析

本節では、偏差値の概念を導入する。“前後標”および接続辞の立場から、カラ I 原因・理由文の対訳例で用いる各接続辞の偏差値を計算して、カラ I 原因・理由文と中国語の因果複文との対訳傾向を正確に分析することを目指す。

#### 1 偏差値とは

偏差値とは、ある数値がサンプルの中でどれくらいの位置にあるかを表した無次元数のことを指す。平均値が 50、標準偏差が 10 となるように標本変数を規格化したものであると定義している。日本では、学力を測定する値として、偏差値が広く用いられる。

成績を見る方法としては、点数、順位、平均などがよく使われる。点数なら、70 点より 80 点の方が良い成績。順位なら、10 番の人は 20 番の人より良い成績。平均点なら、平均点より上の人は良い成績、平均より低ければ悪い成績。こんなにわかりやすい基準がちゃんとあるのに、どうして、偏差値のような難しい数字を使うのか？ それは、偏差値は異なる試験の成績でも比べることができるからだ。

例えば、A さんが第一回の模擬試験で、合計点数が 500 点満点中の 350 点だった。第二回の模擬試験で、合計点数が 385 点で、第一回よりも 35 点アップした。この二回の点数だけでは、第二回より第一回の成績がよかったが、これだけで A さんの学力が伸びたと判断することはできない。それは、各回の受験生全体の平均点や受験生全体の得点のバラツキ具合がわからないからである。ここで、標準偏差と言う尺度が用いられる。

自然的、社会的ないろいろな現象のなかには、その観測結果が正規分布するものが少なくないが、分布のヤマの型は観測の種類によって異なる、観測値のバラツキ状況に、一定のルールに従って処理をほどこした数値を用いれば、平均点からの離れ具合と、その出現率の関係を算出ことができる。この観測値をもとにして生まれたのが「標準偏差」というものである。

学力テストの場合、標準偏差は次の式から求められる。

(193)

$$\text{標準偏差} = \sqrt{\frac{(\text{個々の受験生の得点} - \text{平均点})^2 \text{の総和}}{\text{受験生の総数}}}$$

分布曲線のヤマのすその幅が広いというのは、標準偏差が大きいことであり、それは、そのテストを受けた受験生の集団の成績に大きなバラツキがあることを表している。反対に標準偏差が小さいということは、受験生集団の成績が平均点の近くにかかり集中していて、学力格差が少ないことを意味している。

「偏差値」とは、このようなヤマ型の得点分布のなかで平均点と標準偏差の 2 つの条件を用いて、基準を同一にして(ヤマの型を同じにして)各受験生の得点から導き出された“全体のなかでの学力位置”を示す値である。偏差値を導く公式は、

(194)

$$\text{偏差値} = \frac{10 \times (\text{得点} - \text{平均点})}{\text{標準偏差}} + 50$$

となる。

前述したように、「偏差値」とは、バラツキのある得点分布のなかで中心から、どれくらいの分量で偏っているかを表す数値である。従って「得点」や「順位」のような加算的な数値ではない。成績をいつも同じ基準で表現できる最も利にかなった「モノサシ」といえるだろう。

本節では、カラ I 原因・理由文と対訳する各接続辞の偏差値を計算することによって、カラ I 原因・理由文と中国語の因果複文との対訳傾向を詳しく見てみたい。まず原因のカラ I と理由のカラ I を二回の試験と見なす。これによって、原因のカラ I と理由のカラ I の対訳傾向をまとめてみる。更に、原因のカラ I と理由のカラ I の対訳傾向を区別することもできるだろう。

## 2 “前後標”の立場から見る対訳傾向

まず、“前標”、“後標”の立場から、カラ I の対訳例を①“因为”類（“前標”）、②“因为所以”類（“前後標”共起）、③“所以”類（“後標”）、④“才”類（特殊“後標”<sup>10</sup>）、⑤“就”類（特殊“後標”）、⑥その他の6種類に分ける（195）。さらに、それぞれの偏差値を計算すると、次の(196)のようになる。

(195)

	因为	因为所以	所以	才	就	その他
原因	52	22	31	6	1	4
理由	12	7	36	12	54	19
合計	64	29	67	18	55	23

(196)

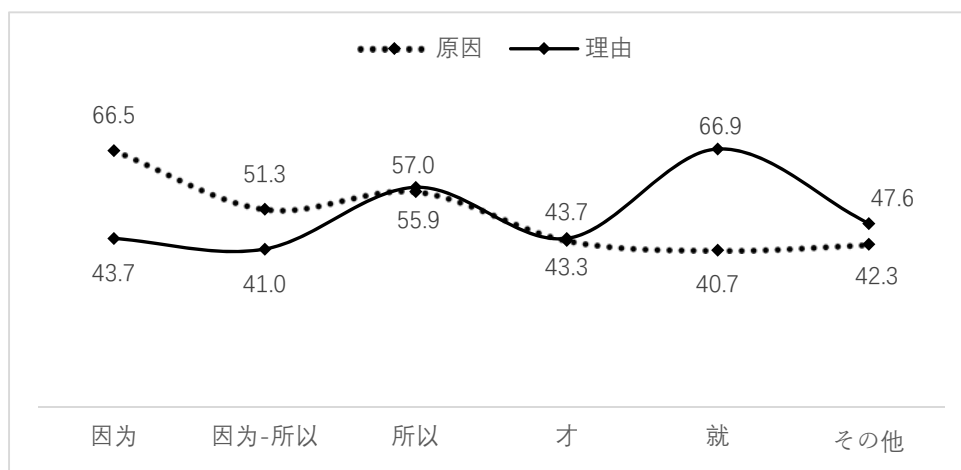
	因为	因为所以	所以	才	就	その他	平均値	標準偏差
原因	<u>66.5</u>	<u>51.3</u>	<u>55.9</u>	43.3	40.7	42.3	19.3	19.8
理由	43.7	41.0	<u>57.0</u>	43.7	<u>66.9</u>	47.6	23.3	18.1
合計	<u>59.8</u>	43.7	<u>61.2</u>	38.7	<u>55.7</u>	41.0	42.7	21.8

50<偏差値<60<偏差値<70

(196)によって、偏差値から原因文と理由文における“前後標”の使用頻度を比較すると次の(197)のようになる。

<sup>10</sup> 中国語の接続辞のうち、“才”、“就”類のような“後標”は、“所以”類の“後標”の後で、“所以”類“後標”と一緒に用いることができる。そこで、本稿では、このような“後標”を特殊“後標”と呼ぶことにする。

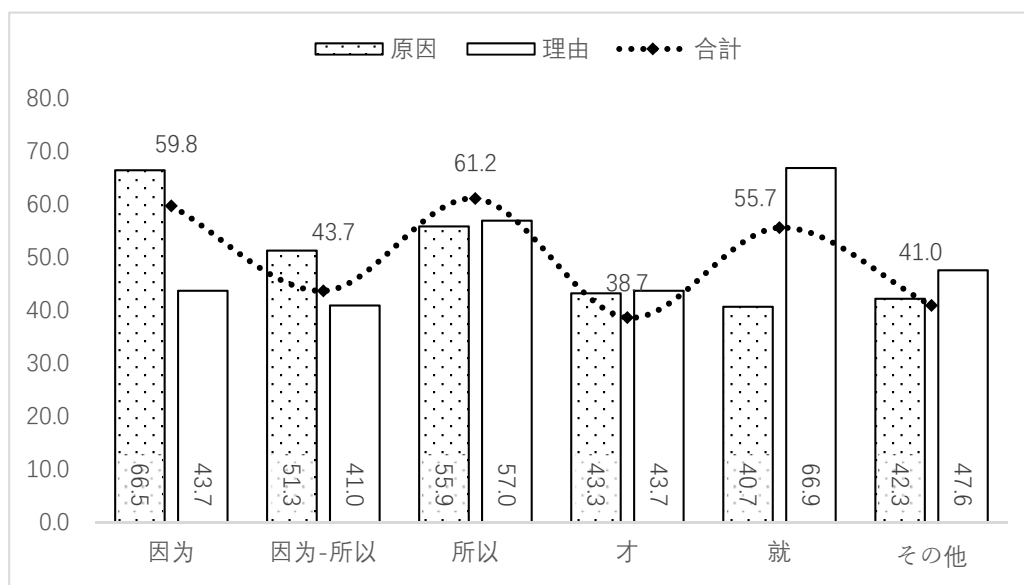
(197)



(197)から分かるように、原因文の場合、中国語では単純な因果関係を表す“前標”を含む“因为” (66.5) “因为所以” (51.3)が多く用いられ、理由文の場合、因果関係のほか、継続関係も表す後標の“就” (66.9)が多く用いられる。そのほか、原因文でも、理由文でも“所以” (57.0&55.9)の使用率が高い。

さらに中国語で原因理由を表す“前後標”の日本語のカラ I に対応する場合の使用状況を分析すると次の(198)のようになる。

(198)



(198)から、カラ I の対訳例のうち、中国語で因果関係を表す一番普通な形式である後標“所以” (61.2)と“前標”“因为” (59.8)のほか、継続関係など話し手の主観的意志を表す後標“就” (55.7)も多く用いられることが分かる。

### 3 対訳接続辞の立場から見る対訳傾向

ここでは、中国語で原因理由を表す各接続辞形式が日本語のカラ I とどのように対応

しているかを見てみる。カラ I と対訳する接続辞形式は概ね次の(199)のように示すことができる。

(199)<sup>11</sup>

	原因	理由	合計		原因	理由	合計		原因	理由	合計
因为	34	7	41	才	3	5	8	其他	3	1	4
由于	18	5	23	(+)才	3	7	10	于是	1	7	8
因为所以	22	7	29	就	0	42	42	(+)只好	0	6	6
所以	18	24	42	(+)就	1	8	9	既然	0	5	5
因此	13	12	25	于是就	0	4	4				

それぞれの接続辞がカラ I と対訳するときの偏差値を(200)で示す。

(200)

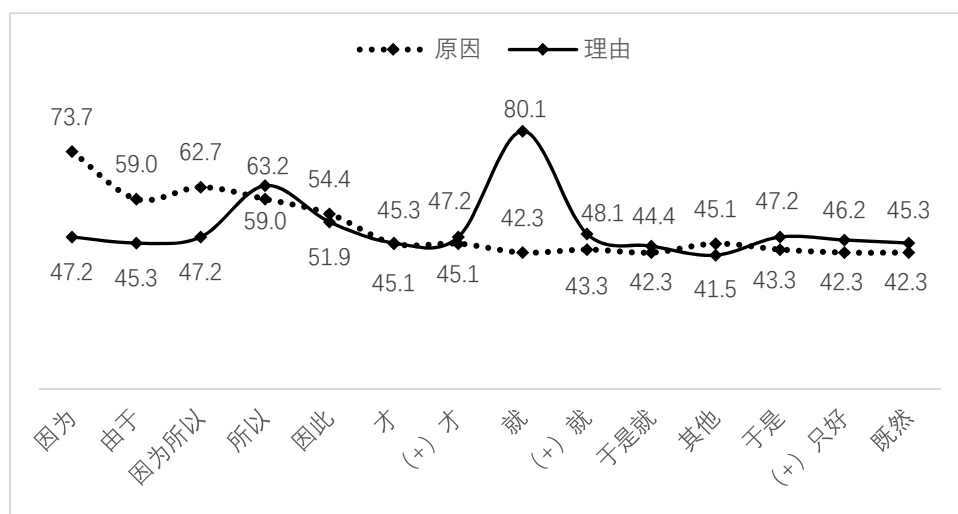
	原因	理由	合計		原因	理由	合計		原因	理由	合計
				平均 値	8.3	10.0	18.3	標準 偏差	10.8	10.6	15.0
因为	<u>73.7</u>	47.2	<u>65.1</u>	才	45.1	45.3	43.1	其他	45.1	41.5	40.5
由于	<u>59.0</u>	45.3	<u>53.1</u>	(+)才	45.1	47.2	44.5	于是	43.3	47.2	43.1
因为所以	<u>62.7</u>	47.2	<u>57.1</u>	就	42.3	<u>80.1</u>	<u>65.8</u>	(+)只好	42.3	46.2	41.8
所以	<u>59.0</u>	<u>63.2</u>	<u>65.8</u>	(+)就	43.3	48.1	43.8	既然	42.3	45.3	41.1
因此	<u>54.4</u>	<u>51.9</u>	<u>54.5</u>	于是就	42.3	44.4	40.5				

50≤偏差値<60≤偏差値<70≤偏差値

(200)によって、偏差値から原因文と理由文における各接続辞の使用頻度を比較すると(201)のようになる。

<sup>11</sup> (+) 才は“(因为) p, (所以) 才 q”の略記; (+) 就は“(因为) p, (所以) 就 q”の略記; (+) 只好は“(因为) p, 只好(只能) q”の略記; 既然“(既然) p, 那么(那) q”の略記である。

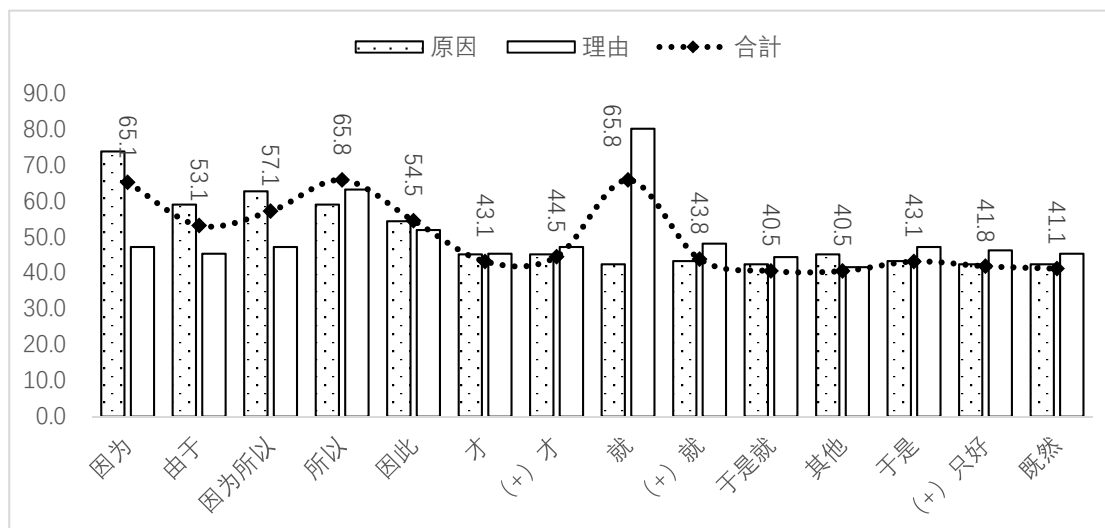
(201)



(201)から分かるように、原因文の場合、“因为”(73.3)、“因为所以”(62.7)、“由于”(59.0)、“所以”(59.0)の使用頻度が高く、理由文の場合、継続関係も表す“就”(80.1)および単純な因果関係を表す“所以”(63.2)の使用頻度が高い。そのほか、原因文でも、理由文でも“因此”(54.4&51.9)の使用率は低くない。

さらに中国語で原因理由を表すそれぞれの接続辞が日本語のカラ I と対応する際の使用状況を分析してみる(202)。

(202)



(202)から、カラ I 原因・理由文が中国語の因果複文と対訳する場合、よく用いられる接続辞として“所以”(65.8)、“就”(65.8)、“因为”(65.1)などがあることがわかる。その使用頻度は格段に高い。また、“因为所以”(57.1)、“因此”(54.5)、“由于”(53.1)などの接続辞を用いる場合も少なくない。

#### 4 まとめ

本節では、日中対訳コーパスによるカラ I の対訳例の“前後標”の偏差値及び対訳す

る接続辞の偏差値を計算した。カラ I 原因・理由文と中国語の因果複文の対訳傾向は次の(203)のようにまとめられる。

(203)

	前標	後標	前後標	特殊後標
原因	<u>因为</u> 、由于	所以、因此	<u>因为所以</u>	—
理由	—	<u>所以</u> 、因此	—	<u>就</u>
カラ I	<u>因为</u> 、由于	<u>所以</u> 、因此	因为所以	<u>就</u>

50≤偏差値<60≤偏差値<70≤偏差値

以上からわかるように、カラ I 原因・理由文との対訳形式として、“前標”の“因为”、後標の“所以”および特殊後標の“就”が一番頻繁に用いられる。更に詳しく見てみると、原因文は“因为”、“因为所以”、理由文は“就”、“所以”に対訳する頻度が高い。つまり、原因文の場合、“前標”の接続辞を用いる傾向があるのに対して、理由文の場合、後標や特殊後標の接続辞を用いる傾向がある。よって、中国語の因果複文を分析する場合、“前標”を用いるか後標を用いるかで、中国語の説明性因果複文を意味的に分類することが可能になるだろうと思われる。

## 第四章 カラⅡにおける日中対照と関数検定

本章では、「判断の根拠」と「発言・態度の根拠」を表すカラⅡと中国語の因果複文との対応関係を考察する。中国語ではこのような因果複文は普通“因为 p，所以 q”で表すというのが一般的な記述となっているが、実際の対訳例からすると、そのほかに“p，才 q”と“因为 p，所以才 q”などで訳されている場合が多いことが分かる。(204～206)

(204) 全身が火ぶくれになっているということでもありますから、怪我人に対しまして、より以上の苦痛を与えさせないよう、御注意のほどお願いする次第であります。  
井伏鱒二『黒い雨』

因为都是全身烧起了泡的人，所以希望你们多加注意，不要给伤员再添加痛苦。  
柯毅文、颜景镐译《黑雨》

(205) 「そんなこと言ってるから、いまだに独身なのよ」  
赤川次郎『三毛猫ホームズのクリスマス』

“你就是这样死脑筋，才会到现在还打光棍儿！” 叶蕙译《三毛猫的圣诞节》

(206) 人は要するに死ぬ理由がないから、生きているにすぎないだろう。  
大岡昇平『野火』  
人不过是因为没有死的理由，所以才活着。  
尚侠等译《野火》

つまり、カラⅡと“因为 p，所以 q”が必ずしも一対一で対応するとは限らない。今までの原因・理由文に関する研究は主に日中両語ともそれぞれの単一言語内部での意味用法に関する研究が殆どであり、両者の対応関係についての研究は今のところ少ないと言えよう。そこで、本章では対訳コーパスにおける対訳傾向を基にカラⅡの原因・理由文に対する日中対応関係を明らかにしたい。

### 第一節 カラⅡの意味・用法と中国語での表し方

第2章でも述べたように、判断・発言・態度を表すカラⅡは「判断の根拠」（判断）と「発言・態度の根拠」（態度）の2類に分けられる。

#### 1 判断の根拠を表すカラⅡ

判断の根拠とは、話し手がなぜそのように判断を下すのかを説明するための根拠を示すことであり、後節に話し手による判断が現れることが必要である。つまり、文末に「(の) だろう／(の) かもしれない／にちがいない／はずだ／ようだ／らしい／そうだ」などといった話し手の判断を表す表現が用いられる場合が多い<sup>12</sup>。中国語では、“(因为) p，(所以) q”などで表すことが多い。また、後節は、“才”、“就”などで表す場合もある。

新幹線が定刻に発着している 判断の根拠 カラ 大した積雪ではないだろう 話し手の判断  
新干线正点运行，就不是什么严重的积雪吧。

<sup>12</sup> 前田直子 (2009) は、後節が判断を表していても、事態・行為の原因・理由であって、根拠を表さない場合もあると指摘した。「[道路が混んでいなかったから、バスは定時にちゃんと来た]んだ。」の場合、カラの後件は判断部分を含まない「バスは定時にちゃんと来た」であり、この場合のカラは原因・理由を表すカラⅠである。

(207) さっき新聞配達の声がしたから、5時を過ぎたころだろう。

因为刚才听到了送报纸的声音，已经过了5点了吧

(208) 車の鍵がおいてあるから、課長はまだ会社のどこかにいるはずです。

因为车钥匙还放在这，课长应该还呆在公司的什么地方。

(209) 教師としては有能なようだが、週に数日しか働かないから、多くの収入を得ているわけではなさそうだ。 村上春樹『1Q84 Book3』

作老师很有能力，但是每周不过工作几天，所以收入似乎不高。

施小炜译《1Q84 BOOK3》

(210) 人は要するに死ぬ理由がないから、生きているにすぎないだろう。

大岡昇平『野火』

总之，人不过是因为没有死的理由，所以才活着。

尚侠等译《野火》

(211) 誰にも言わんでくれということだから事情でもあるんだろうよ。

村上春樹『羊をめぐる冒険』

既然叫我别讲给任何人，想必自有情由。

林少华译《寻羊冒险记》

また、前田直子（2009）では、上記（207～211）のような「判断の根拠」を表すカラⅡ文の後節には判断（つまり推量）のモダリティ形式がくるとされている。つまり、前件が表している事態は既に成り立っている事実であるのに対して、後件が表している事態はまだ事実かどうか確定できない事態である。しかし、前件が（発話時にある程度決まっている）未実現の事態の場合もある（212）。

(212) 社長も来るらしいから、今日の食事はきっと豪華だろう。

（前田 2009）

社长好像也会来，所以今天的餐食一定会很豪华吧。

（筆者訳）

更に、(213a)のように、「判断の根拠」を表す原因・理由文は、前件と後件を入れ替えると「事態や行為の原因・理由」を表す文になる（南 1993）。また、(213b)のように後件に「わかる、判断する」などの動詞が付け加えられる場合も、「判断根拠文」から「事態や行為の原因・理由文」になる（言語学研究会 1985）。

(213) バスが定時にちゃんと来たから、道路は混んでいないんだ。 （判断の根拠）

a 道路は混んでいないから、バスが定時にちゃんと来た。 （事態の原因）

b バスが定時にちゃんと来たから、道路は混んでいないとわかる。

（「わかる」と言う行為の理由）

この点に関して姫野（1995）は、「P から、Q。」を「Q のは、P からだ。」に変換できるかどうかの違いがあると指摘している。つまり、「事態・行為の原因・理由」を表す(214a)は(214b)のようにそういった変換ができるが、「判断の根拠」を表す(215a)は(215b)のようにそういった変換が不可能である。

(214) a. 熱が出たから、昨日仕事を休んだ。 （行為の理由）

b. 昨日仕事を休んだのは熱が出たからです。

(215) a. バスが定時にちゃんと来たから、道路は混んでいないだろう。 （判断の根拠）

b. \*道路が混んでいないのはバスが定時にちゃんと来たからです。

以上のことから、「判断の根拠」を表すカラⅡの特徴を次の(216)のように纏めること

ができる。

(216)「判断の根拠」文を「事態・行為の原因・理由」文に変換するには、下記の三つの規則がある。

- a 前件と後件を入れ替えて表す（「p カラ q」判断→「q カラ p」原因）。
- b 後件に「わかる、判断する」などを付け加えて表す。
- c 「q ノハ、p カラダ」には変換不可。

## 2 発話・態度の根拠を表すカラ II

「発言・態度の根拠」とは、話し手がなぜそのような発言をしたり、そのような態度をとったりするのかを説明するための根拠である。そのため、まだ実現していない事態の実現を聞き手に働きかける場合は、文末に命令・依頼・勧誘・質問などの形式が来る（217～222）。また実現を望む話し手の態度を表す場合は、文末に希望、意志などの表現が用いられる（223～226）。中国語では、“因为 p, q”、“p, 所以 q”、“p, 就 q”などで表す場合が多い。

(217) 風邪をひくといけないから、厚着して出かけなさい。 (命令)  
感冒了就不好了，所以穿多点出门。

(218) 写真を仏壇へ祀るなど、縁起が悪いから止めなさい。 (命令)  
井伏鱒二『黒い雨』

因为把相片摆在佛堂里祭奠不吉利，不要这样做。 柯毅文、颜景镐译《黑雨》

(219) 他人に知られるとまずいから、このことは誰にも言わないでください。(依頼)  
被别人知道了就不好了，所以这件事儿不要对任何人说。

(220) アナウンスがありますから、気をつけていてください。 (依頼)  
村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』  
因为有广播通知，请留意听。 林少华译《舞！舞！舞！》

(221) 公園の桜、この週末が一番見ごろになりそうだから、いっしょにお花見しませんか。 (勧誘)

这个周末，公园里的樱花应该就能到最佳观赏时间了，我们一起去赏花吧。

(222) 今日の予定は全部終わったから、もう帰ってもいいですか。 (質問)  
今天的计划已经都完成了，所以我可以回去了吧。

(223) 今夜は寒くなりそうだから、早めに帰ろう。 (意志)  
今晚似乎会转冷，所以早点回家吧。

(224) 肘で地面を突くから、タオルを巻け。 (意志) 井伏鱒二『黒い雨』  
因为要手肘着地，包上毛巾吧！ 柯毅文、颜景镐译《黑雨》

(225) とてもおなかがすいているから、今 すぐ晩ご飯が食べたいな。 (希望)  
因为非常的饿，好想现在马上就吃晚饭啊。

(226) 牛河っていう理事が今そこにいるかどうか。今はいないって言われるはずだから、何時だったらそちらに戻っているか尋ねてもらいたい。 (希望)

村上春樹『1Q84 BOOK2』

再问那个姓牛河的理事在不在。对方应该会说不在，你就再问问几点回来。

施小炜译《1Q84 BOOK2》

### 3 判断と態度の違い

本節では、カラⅡが表す「判断の根拠」と「発話・態度の根拠」の特徴をまとめてみたが、カラⅡはカラⅠと違って単純な因果関係を表すのではなく、前節の原因を根拠に、後節で判断や推論を行うことを表す。判断文と態度文の違いは下記のように纏められる(227)。

- ①・「判断の根拠」を表すカラⅡは、後節に「(の) だろう／(の) かもしれない／にちがいない／はずだ／ようだ／らしい／そうだ」などといった話し手の判断表現が現れるのが一般的である。つまり、客観的な事態を基になんらかの判断を下すことを表す用法であり、カラⅡ判断文は、判断モダリティ文である<sup>13</sup>。
- ・これに対して、「発言・態度の根拠」を表すカラⅡは、後節に命令・依頼・勧誘・質問といった働きかけ表現が来る場合と、意志・希望などを表出する表現が来る場合がある。このようなカラⅡ態度文は働きかけ・表出モダリティ文である。
- ②・判断文の場合、前節が先に起こり、それを根拠に後節の事態を判断する。つまり、ある原因からその結果を判断する。また、前節を根拠に、それが引き起こされる理由を後節で判断する。つまり、ある結果からそれを引き起こす原因を判断する。
- ・態度文の場合、前節を根拠に、後節の事態の実現を望む話し手の態度を表す。

(227)

	判断	態度
後節のモダリティ	判断	働きかけ・表出
事態の順序	前節→後節 後節→前節	前節→後節
事態の確定性	前節：確定(実現・未実現) 後節：未確定	前節：確定(実現・未実現) 未確定 後節：未確定(実現希望)

<sup>13</sup> 日本語記述文法研究会(2003)におけるモダリティの種類に関する記述は次のようにまとめられる。

①文の伝達的な表しわけを表すもの：働きかけ・表出のモダリティ、情報系(叙述のモダリティ、疑問モダリティ)、行為系(意志のモダリティ、勧誘のモダリティ、行為要求のモダリティ)。  
 ②命題が表す事態のとらえ方を表すもの：評価のモダリティ(a 真偽判断のモダリティ、b 価値判断のモダリティ)、認識のモダリティ。  
 ③文と先行文脈との関係づけを表すもの：説明のモダリティ。  
 ④聞き手に対する伝え方を表すもの：伝達のモダリティ、丁寧さのモダリティ、伝達態度のモダリティ。

## 第二節 カラⅡの対訳例調査

本節では、日中対訳コーパスによる対訳例によって、カラⅡが表す判断文及び態度文と中国語の因果複文の対訳関係を考察する。

### 1 はじめに

#### 1.1 カラⅡ原因・理由文に関する研究

前節で述べたように、蓮沼昭子など(2001)と前田(2009)では原因・理由を表すカラを事態・行為の原因・理由を表す用法(カラⅠ)、判断・発言・態度の根拠を表す用法(カラⅡ)と主節の事態の実現を助ける用法(すなわち原因・理由を表さない用法)の三種類に分けている。本稿では、更に、カラⅠを「事態の原因」(原因)と「行為の理由」(理由)に、カラⅡを「判断の根拠」(判断)と「発言・態度の根拠」(態度)に分けることにする。

本稿で論じるカラⅡを更に「判断の根拠」(判断)と「発言・態度の根拠」(態度)に分けたが、「判断の根拠」は、なぜそのような判断をするのかに対する根拠を説明する。「発言・態度の根拠」は、なぜそのような発言をしたり、そのような態度をとったりするのかに対する根拠を説明する。以下、本論では前者を判断文、後者を態度文と呼ぶことにする(227～228)。

(227) 顔色が悪いから、どこか体に悪いところがあるのかもしれない。〈判断の根拠〉

(228) ほかのお客さんの迷惑になりますから、携帯電話のご使用はご遠慮ください。

〈発言・態度の根拠〉

本節では、カラⅡにおける「判断の根拠」と「発言・態度の根拠」と中国語の対応関係を中心に考察する。

### 2 中国語の因果複文の接続表現について

中国語で因果関係を表す接続辞には原因を表す“前標”と結果を表す“後標”がある。そのうち、“因为、由于”などは“前標”の最も典型的な接続辞である。“所以、因此、就、才、既然”などは“後標”の最も典型的な接続辞である。

#### 2.1 “因为p, 所以q”形式について

“因为p, 所以q”は因果複文の最も典型的な形式であり、“前標”“因为”と“後標”“所以”を共に用いて因果関係を表すこともあり(229)、“前標”“因为”か“後標”“所以”だけで因果関係を表すことも可能である(230、231)。

(229) 它是被火焰龙卷风吸上去，因为滴溜乱转了一阵，所以圆得象团子一样了。

柯毅文、颜景镐译《黑雨》

火焰の大竜巻に吸いあげられて、きりきり舞いしたから団子のように丸まったらしい。

井伏鱒二『黒い雨』

(230) 因为他在深感兴趣之处贴了标签，恐怕便于找出合适的地方朗读吧。

施小炜译《1Q84 BOOK1》

興味深い箇所に付箋を貼ってあったから、適当な場所だけを拾い読みすることができる。

村上春樹『1Q84 Book1』

(231) 他的举动必然会引起仓持医生怀疑。所以一定是从外面把盖子关好的。

叶蕙译《三色猫之私奔》

倉持医師に見られれば怪しまれるだろうから、何とかして、外から、この蓋を閉めたのに違いないのだ。  
赤川次郎『三毛猫ホームズの駆落ち』

“因为 p，所以 q”は主に、物事の因果関係を客観的に述べる用法であると邢福義(2001)が述べている。また、“因为”が(“所以”ではなく)“才、就”といった“後標”と共起する場合もある(232、233)。

(232) 正因为你两肩绷得紧，才这样看待问题。

林少华译《挪威的森林》

肩に力が入ってるから、そんな風に構えて物事を見ちゃうんだ。

村上春樹『ノルウェイの森』

(233) 因为时间还早，他们就在车站外面的一片空地上并肩漫步着。

(邢 2001)

まだ早いから、駅外の空地で肩を並んで歩いていた。

(筆者訳)

## 2.2 “p 就 q”形式について

邢福義(2001)は、中国語の“p 就 q”には主に5つの意味用法があるとしているが(i: 前後節の継続関係、ii: 前後節の因果関係、iii: 物事を推断する用法、iv 純粹な假定、v 仮定的条件)、そのうち、i 前後節の継続関係、ii 前後節の因果関係が本稿の因果関係と関連を持っているといえる。

そのうち、i 前後節の継続関係は文の前節と後節の継続関係を表し、“接着/然后”などと置き換えることができる。“接着/然后”は日本語の「それから/そして」の意味に近い。

(234) 雷磊第一个交了卷，就匆匆忙忙地走了。

(邢福義 2001)

雷磊は最初に解答用紙を提出して、あわてて出た。

(筆者訳)

ii 前後節の因果関係は文の前節と後節の因果関係を表し、“因此”と置き換えることができる。“因此”は日本語の「だから」の意味に近い。

(235) 妈妈手脚不便，无法照料儿子，就由父亲陪床。

(邢福義 2001)

母は手足が不自由で息子の世話ができないから、父が息子の面倒を見る。

(筆者訳)

## 2.3 “p，才 q”形式について

邢福義(2001)は、“才”の意味用法を継起、条件、因果の三類にまとめた。

(236) 支好车子，谭谟才忽然记起这个功夫到朋友家串门，实在是来讨饭的。

(継起)

車が準備できたら、譚謨は急に気づいた。この時間に友達の…

(筆者訳)

(237) 至少他得做到这个，才能像个男子汉。

(条件)

せめてこれぐらいできてこそ、男らしい男といえる。

(筆者訳)

(238) 病人幸被当地群众及时发现，才免遭冻死的厄运。

(因果)

周りの人に見つかったからこそ、凍死の悪運を免れた。

(筆者訳)

また、王楠(2013)は、“才”は限定を表し、原因や理由が唯一で排他的であると発話者が主観的に思うという意味を表すとしている。

(239) 因为彼此是朋友，才能这样见情面。

互いに友達だからこそ、このように配慮してくれるんだ。(筆者訳)

高再蘭(2013)では、因果複文の前後節において時間的継起が明らかな場合は、一般的に後節に時間連結副詞“才”を用いて時間的前後関係を表すとされている。つまり(240、241)での“因为”は因果節を取り立てる機能、“正”はまさにそれが原因であるといった原因節を強調する機能を果たすが、“才”は前後節の時間的継起関係を表す。

(240) いや、ピカドンが落ちたから降伏することになったのだ。 井伏鱒二『黒い雨』

不，正因为扔了原子弹，所以才投降的。 柯毅文、颜景镐 《黑雨》

(241) 肩に力が入ってるから、そんな風に構えて物事を見ちゃうんだ。

村上春樹 『ノルウェイの森』

正因为你两肩绷得紧，才这样看待问题。 林少华 译《挪威的森林》

## 2.4 まとめ

以上のことから分かるように、中国語の因果複文の“前標”には主に“因为”類があり、“後標”には主に“所以”類と“就”類があることが分かった。日本語では前節に付くノデ類だけで原因・理由を表す。そのため、カラも中国語の“因为”のような“前標”に当たると考えられる。その一方、形態論の立場からすると中国語の“後標”の“所以、才、就”などに対応する形式は日本語にはないといえるだろう。

## 3 対訳例から見るカラⅡの日中対照

### 3.1 対訳例概況

本論では21編の日本の小説とその中国語訳についてカラの対訳例を調査した。そのうち、原因・理由を表すカラの例は全部で940例(カラⅠ:550例、カラⅡ:390例)あり、そのうち390例のカラⅡがあった(242)。

(242) カラⅠ (550例) :

有標複文 256例 : 46.5%、無標複文 294例 : 53.5%。

カラⅡ (390例) :

有標複文 147例 : 37.7%、無標複文 243例 : 62.3%。

カラⅡの対訳例390例のうち、無標形式243例以外の147例の有標形式は、①“因为”類、②“因为，所以”類、③“所以”類、④“才”類、⑤“就”類、⑥その他といった6種類の形式で訳されている<sup>14</sup>。

<sup>14</sup> “因为”類: 因为 p, q、由于 p, q。“因为，所以”類: 因为 p, 所以 q。“所以”類: p, 所以 q、p 因此 q。“才”類: p, 才 q、(因为) p, (所以) 才 q。“就”類: p, 就/便 q、(因为) p, (所以) 就/便 q。その他類: p, 反正 q、既然 p, 那么 q、其他。

### 3.2 分析

対訳例の統計をもとに、カラⅡが表す判断の根拠と発言・態度の根拠の中国語訳の分布状況をまとめると、次の(243、244)のようになる。

(243)

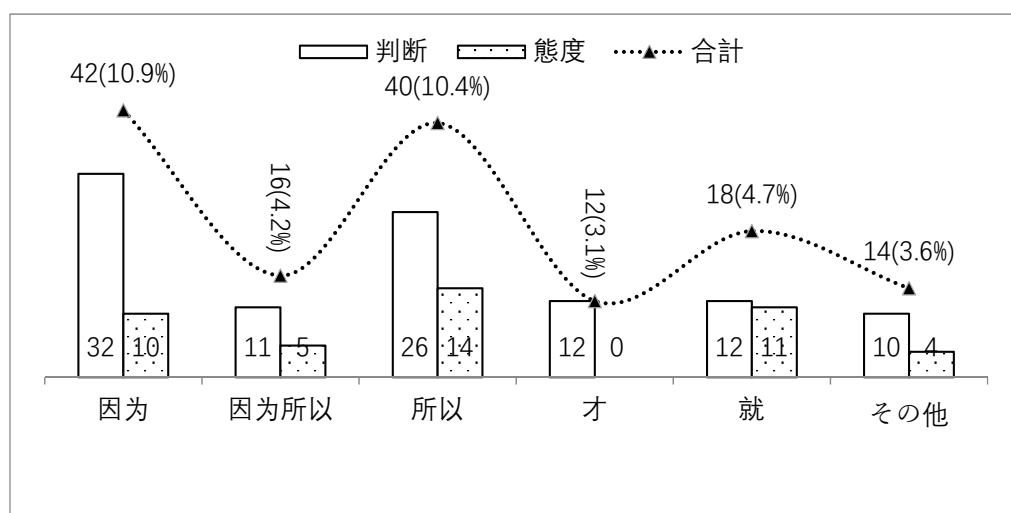
パターン	判断	態度	合計	パターン	判断	態度	合計
因为 p, q	24	10	34	(因为)p, (所以)就 q	5	1	6
由于 p, q	8	0	8	p, 就(便)q	7	10	17
因为 p, 所以 q	11	5	16	反正 p, q	0	1	1
p, 因此 q	11	1	12	既然 p, (那么) q	4	1	5
p, 所以 q	15	13	28	其他	6	2	8
(因为)p, (所以)才 q	10	0	10				
p, 才 q	2	0	2				

(244)

	因为	因为所以	所以	才	就	その他	無標	合計
判断	32	11	26	12	12	10	153	256
態度	10	5	14	0	11	4	90	134
合計	42	16	40	12	23	14	243	390

カラⅡ全体における「判断の根拠」と「発言・態度の根拠」の分布状況は(245)に示す。

(245)



(245)から分かるように、文中のカラⅡの対訳の多くは典型的な接続表現を用いる“因为”類(10.9%)、“所以”類(10.4%)の二類に集中している。そのほかにも、“就”類(4.7%)、“因为所以”(4.2%)類などの対訳例も少ないとは言えない。「判断の根拠」が“才”類で訳されている例はあるものの、「発言・態度の根拠」が“才”類で訳されて

いる例は見当たらない。カラⅡの用例の(“就”類を除いて)殆どの対訳形式で「判断の根拠」が多い傾向が見られる。そのうち“才”類は「判断の根拠」だけである。

それでは、カラⅡで表す原因・理由文の日中対訳を詳しく見ることにする。冒頭でも述べたように、中国語の因果複文は“因为 p, 所以 q”のように“前標”と“後標”が共起する場合もあれば、“因为 p, q”、“p, 所以 q”のようにどちらか一つだけの標識で表す場合もあれば、“前後標”を一切使わない無標形式“p, q”で表す場合もある。

- (246) 昨日は熱が出たから、仕事を休んだ。 (前田直子 2009)  
a. 因为昨天发烧了, 所以没去上班。 (因为 p, 所以 q)  
b. 昨天发烧了, 没去上班。 (p, q)  
c. 因为昨天发烧了, 没去上班。 (因为 p, q)  
d. 昨天发烧了, 所以没去上班。 (p, 所以 q)

次の例は実際の対訳例に見られる“前後標”共起の“因为 p, 所以 q” (247)、無標因果文“p, q” (248)、“前後標”どちらかだけ現れる“因为 p, q” (249)、“p, 所以 q” (250) の例である。

- (247) 貴方は救護班員でないですから、ここで待っておって下さい。  
井伏鱒二『黒い雨』

因为你不是救护班的成员, 所以还得请你在这里等一下。

柯毅文、顔景鎬译《黒雨》

- (248) 出ていく時にまあ、まとまった金をもらったから、それで何かやってるのかもしれないな。  
村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』  
离开时, 得到一笔数目可观的钱款, 估计用它做什么去了吧。

林少华译《舞! 舞! 舞! 》

- (249) おかげでございますから、しずかにしていらっしゃると、間もなくおかげが抜けますでしょう。

太宰治『斜陽』

因为是上感, 只需静养当可痊愈

张嘉林译《斜阳》

- (250) 川奈天吾は代々木の進学予備校で数学を教えている。教師としては有能なようだが、週に数日しか働かないから、多くの収入を得ているわけではなさそうだ。

村上春樹『1Q84 Book3』

川奈天吾在代代木的补习学校教数学。作老师很有能力, 但是每周不过工作几天, 所以收入似乎不高。

施小炜译《1Q84 BOOK3》

2.1 でも触れたように“因为 p, 所以 q”は主に物事の客観的な因果関係を表すが、上記の例(246~250)からすると“因为 p, 所以 q”は推論的因果も表せると考えられる。この点について王維賢など(1994)も“(因为) p, (所以) q”は「事態の原因」、「行為の理由」、「推理の理由」といった三つの意味を表すと指摘している。

### 3.3 “就”と“才”

典型的な“前標”(因为/由于)、“後標”(所以/因此)のほかに、“就/才”でカラⅡの意味を表す対訳例も少なくない。“前標”と組み合わせて“(因为) p, (所以) 就/才 q”のように用いる場合もあるし(251)、単独で“p, 就/才 q”のように用いる場合もある(252)。

- (251)a. 年をとって、いろんなものをなくしちゃったから、そうする必要が出てきた  
 んだろうな。 村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』
- b. 大概是因为有那种必要吧。年齢増大以后我失却了很多很多东西，因而才有那  
 种必要。 林少华译《舞！舞！舞！》
- b' 大概是因为有那种必要吧。年齢増大以后我失却了很多很多东西，因而就有那  
 种必要。
- (252)a. ここは、涼しくて静かだから、この板の上でお昼寝でもしていて下さ  
 い。 太宰治『斜陽』
- b. 这儿又凉快又安静，就在这木板上睡一个午觉吧。 张嘉林译《斜阳》
- b'. \*这儿又凉快又安静，才在这木板上睡一个午觉吧。

そして、(245)が示すように、“後標”“才”類のほとんどが「判断の根拠」を表すのに  
 対して“就”類は「発言・態度の根拠」を表すのに用いられている。(251)は「判断の  
 根拠」を表すカラ文で、(252)は「発言・態度の根拠」を表すカラ文である。「判断の根  
 拠」を表す場合は、“才”も“就”も用いられるが、(251b)の“才”は「からこそ」の  
 意味を表していると思われ、前節の根拠を強調するニュアンスがある。一方、“才”を  
 “就”で入れ替えた(251b')の“就”はそのような意味を表していない。「発言・態度  
 の根拠」を表す場合、“就”が用いられ(252b)、“就”を“才”で入れ替えると、不自然  
 な文になる(252b')。つまり、前後節が時間的前後関係を表さない「発言・態度の根  
 拠」文では“才”を用いることができないのである。

#### 4 結論

本節では、文中のカラⅡを中心に、カラで表す原因・理由文の日中対照研究をした。  
 カラⅡが表す原因・理由文は「判断の根拠」と「発言・態度の根拠」の2種類に分かれ  
 ているが、両方とも、前件の事態が後件の事態または働きかけの根拠であることから、  
 日本語のカラⅡで表す原因・理由文は中国語の推論性因果複文に対応すると言えるだろ  
 う。カラⅡは中国語ではいろんな形式で訳されている。中国語の説明性因果複文の典型  
 的表現である“因为p, 所以q”は、説明性因果複文のほか、推論性因果複文を表すのに  
 も用いられることが分かった。また、「発言・態度の根拠」を表す場合は「就」類が多く  
 用いられるのに対して、「判断の根拠」を表す場合は「才」類で表す傾向がある。

### 第三節 カラⅡとその中国語訳における定量分析

本節では、偏差値の概念を導入する。“前後標”および接続辞の立場から、カラⅡ原因・理由文の対訳例で用いられる各接続辞の偏差値を計算して、カラⅡ原因・理由文と中国語の因果複文の対訳傾向を正確に分析することを目指す。

#### 1 偏差値とは

第三章で述べたように、偏差値とは平均が 50、標準偏差が 10 になるように、正規化したものであり、出来る限り評価基準を統一する手段である。日本の学校の入学試験では、合格可能性を表すものとして偏差値が広く使われている。日本で広く用いられる偏差値は「(得点 - 平均点) / 標準偏差 × 10 + 50」で求められ、ある人の得点が、平均点と同じだった場合、その人の偏差値は 50 となる。一般には教科の違いや問題の難易度の違いにより、各試験の平均点や標準偏差は異なるため、様々な試験の成績を、単なる 100 点満点等の点数だけで、単純に比較することは出来ない。従って、それらを常に平均が 50、標準偏差が 10 となるスコアに変換し、比較可能な数値にするために用いられる。

本節では、カラⅡ原因・理由文と対訳する各接続辞の偏差値を計算することによって、カラⅡ原因・理由文と中国語の因果複文との対訳傾向を詳しく見てみたい。まず原因のカラⅡと理由のカラⅡを二回の試験と見なす。これによって、判断のカラⅡと態度のカラⅡの対訳傾向をまとめてみる。更に、判断のカラⅡと態度のカラⅡの対訳傾向を区別することもできるだろう。

#### 2 “前後標”の立場から見る対訳傾向

まず、“前標”、“後標”の立場から、カラⅠの対訳例を①“因为”類（“前標”）、②“因为所以”類（“前後標”共起）、③“所以”類（後標）、④“才”類（特殊後標）、⑤“就”類（特殊後標）、⑥その他の 6 種類に分ける（253）。さらに、それぞれの偏差値を計算すると、次の(254)のようになる。

(253)

	因为	因为所以	所以	才	就	その他
判断	32	11	26	12	12	10
態度	10	5	14	0	11	4
合計	42	16	40	12	23	14

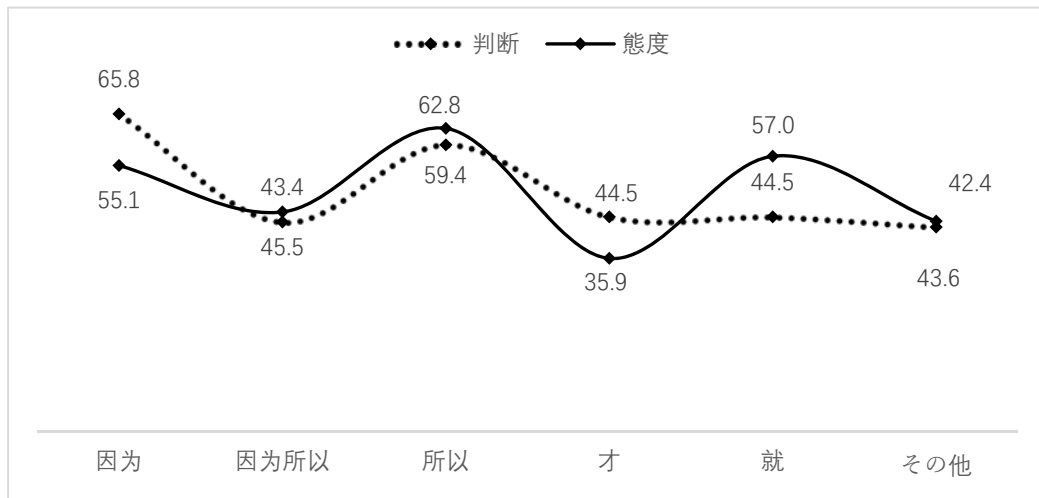
(254)

	因为	因为所以	所以	才	就	その他	平均値	標準偏差
判断	<u>65.8</u>	43.4	<u>59.4</u>	44.5	44.5	42.4	17.2	9.4
態度	<u>55.1</u>	45.5	<u>62.8</u>	35.9	<u>57.0</u>	43.6	7.3	5.2
合計	<u>63.1</u>	43.6	<u>61.6</u>	40.6	48.9	42.1	24.5	13.3

50 ≤ 偏差値 < 60 ≤ 偏差値 < 70

(254)によって、偏差値から判断文と態度文における“前後標”の使用頻度を比較してみると次の(255)のようになる。

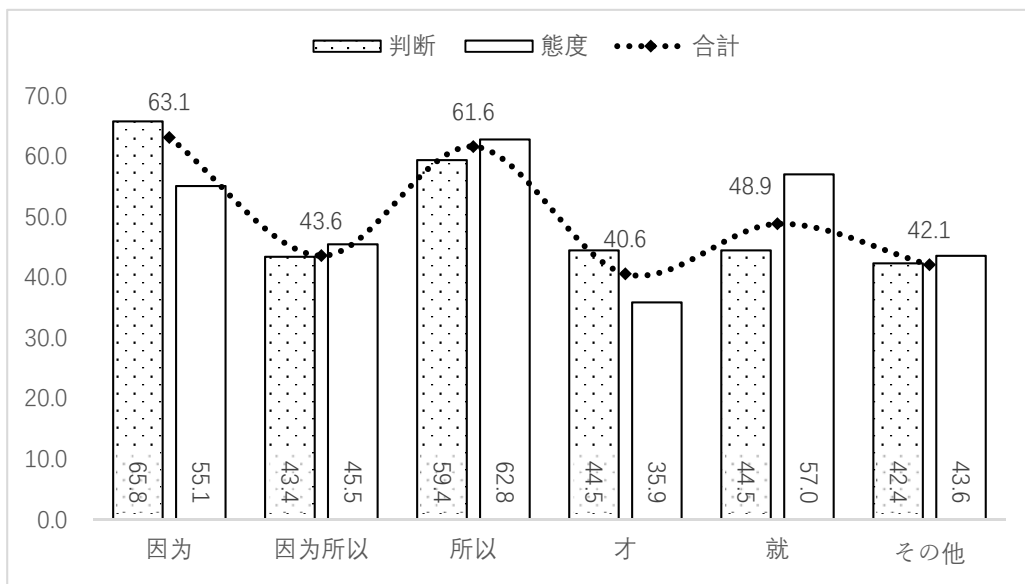
(255)



上記から、判断文の場合、中国語では単純な因果関係を表す“前標”“因为”(65.8)が多く用いられ、態度文の場合、因果関係及び継続関係も表す後標の“就”(57.0)が多く用いられる。また、単純な因果関係を表す“前標”の“因为”(55.1)も少なくはない。そのほか、判断文でも、態度文でも“所以”(59.4&62.8)の使用率が高い。

さらに中国語で推論的因果関係を表す“前後標”が日本語のカラⅡに対応する際の使用状況を分析すると次のようになる。

(256)



上記から、カラⅡの対訳例のうち、中国語で因果関係を表す一番普通な形式である“前標”“因为”(63.1)と“後標”“所以”(61.6)が多く用いられていることが分かる。

### 3 対訳形式の立場から見る対訳傾向

ここでは、中国語で推論的因果関係を表す各接続辞形式が日本語のカラⅡとどのように対応しているかを見てみる。カラⅡと対訳する接続辞形式は概ね次の(257)で示すことができる。

(257)<sup>15</sup>

	判断	態度	合計		判断	態度	合計		判断	態度	合計
因为	24	10	34	所以	15	13	28	就	7	10	17
由于	8	0	8	(+)才	10	0	10	反正	0	1	1
因为 所以	11	5	16	才	2	0	2	既然	4	1	5
因此	11	1	12	(+)就	5	1	6	其他	6	2	8

それぞれの接続辞がカラⅡと対訳するときの偏差値を(258)で示す。

(258)

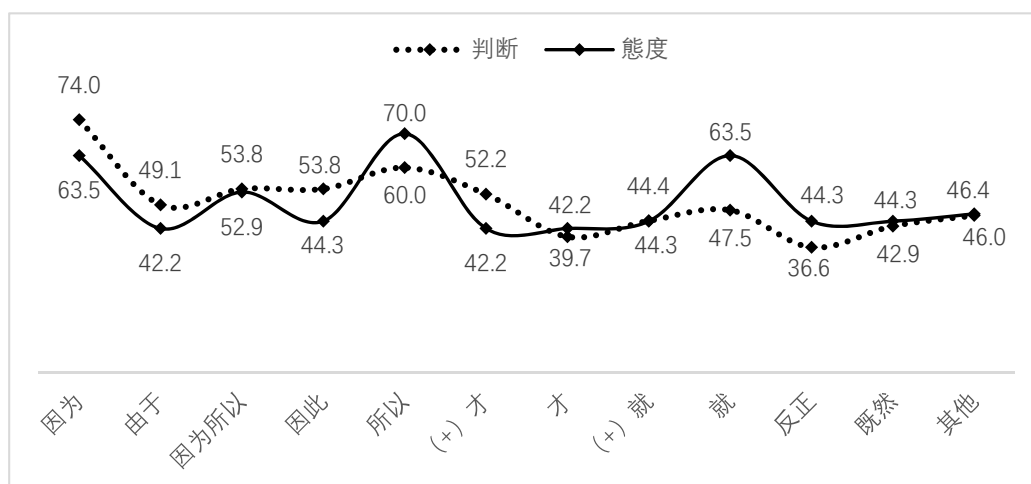
				平均 値	8.6	3.7	12.3	標準 偏差	6.4	4.7	10.1
	判断	態度	合計		判断	態度	合計		判断	態度	合計
因为	<u>74.0</u>	<u>63.5</u>	<u>71.5</u>	所以	<u>60.0</u>	<u>70.0</u>	<u>65.6</u>	就	47.5	<u>63.5</u>	<u>54.7</u>
由于	49.1	42.2	45.8	(+)才	<u>52.2</u>	42.2	47.8	反正	36.6	44.3	38.9
因为 所以	<u>53.8</u>	<u>52.9</u>	<u>53.7</u>	才	39.7	42.2	39.9	既然	42.9	44.3	42.8
因此	<u>53.8</u>	44.3	49.8	(+)就	44.4	44.3	43.8	其他	46.0	46.4	45.8

50≤偏差値<60≤偏差値<70≤偏差値

(258)によって、偏差値から判断文と態度文における各接続辞の使用頻度を比較すると次の(259)のようになる。

<sup>15</sup> (+)才は“(因为)p, (所以)才q”の略記; (+)就は“(因为)p, (所以)就q”の略記; 既然  
“既然p, 那么(那)q”の略記である。

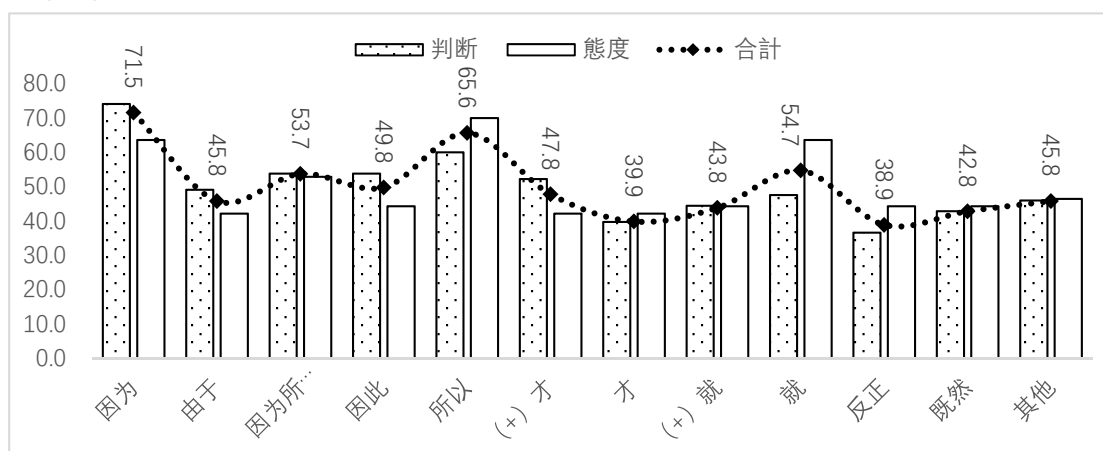
(259)



(259)から分かるように、判断文でも、態度文でも“因为”(74.0&63.5)及び“所以”(60.0&70.0)の使用頻度が高い。また、態度文では、“就”(63.5)の使用率もかなり高い。そのほか、判断文での“因为所以”(53.8)、“因此”(53.8)、“(因为)p, (所以)q”(52.2)及び態度文での“因为所以”(52.9)の使用率も低くない。

さらに中国語で原因理由を表すそれぞれの接続辞が日本語のカラⅡと対応する際の使用状況を分析してみる(260)。

(260)



(260)から、カラⅡで表す判断文・態度文が中国語の因果複文と対訳する場合、よく用いられる接続辞として“因为”(71.5)、“所以”(65.6)などがあることがわかる。その使用頻度も格段に高い。また、“就”(54.7)、“因为所以”(53.7)などの接続辞を用いる場合も少なくない。

#### 4 まとめ

本節では、日中対訳コーパスによるカラⅡの対訳例の“前後標”の偏差値及び対訳する接続辞の偏差値を計算した。カラⅡ判断・態度文と中国語の因果複文の対訳傾向は次の(261)のようにまとめられる。

(261)

	前標	後標	前後標	特殊後標
判断	<u>因为</u>	<u>所以、因此</u>	因为所以	(+)才
態度	<u>因为</u>	<u>所以</u>	因为所以	<u>就</u>
カラⅡ	<u>因为</u>	<u>所以</u>	因为所以	就

50≤偏差値<60≤偏差値<70≤偏差値

以上からわかるように、カラⅡ判断・態度文の対訳形式として、“前標”の“因为”、後標の“所以”および特殊後標の“就”が一番頻繁に用いられる。更に詳しく見ると、判断文は“因为”、“所以”、態度文は“所以”、“因为”、“就”で対訳する頻度が高い。判断文の場合、“前標”の接続辞を用いる頻度が比較的高いのに対して、態度文の場合、後標接続辞を用いる頻度が比較的高い。よって、カラⅡ判断文は主観的な判断を表すが、それが表わしている前後節の事態は客観的な因果関係（または推論関係）を持つことが多いだろうと思われる。

## 第五章 ノデ I における日中対照と関数検定

本章では、「事態の原因」と「行為の理由」を表すノデ I と中国語の因果複文の対応関係を考察する。日本語の原因・理由を表す代表的な形式にはカラ・ノデがあり、それらは中国語では“因为 p, 所以 q”で表されるのが普通だが、実際の対訳例から見ると必ずしもその通りではない。

(262) 昨夜が徹夜に近かったので、大欠伸が出る。

赤川次郎『三毛猫ホームズの登山列車』

因为昨晚几乎通宵工作，片山不由得打个大哈欠。 叶蕙译《三色猫登山列车》

(263) 昼間は家にいないので、救護班のものはその顔を滅多に見ることがない。

井伏鱒二『黒い雨』

因为白天不在家里，所以救护班的人很难见到他。 柯毅文 颜景镐译《黒雨》

(264) お母さまをほっといて上京する事は、どうしても出来ませぬので、それで、お手紙で申し上げる事に致しました。

太宰治『斜陽』

丢下母亲跑到东京是无论如何不可能的，所以决定写封信给您。张嘉林译《斜阳》

このように、ノデ I で表す原因・理由文を中国語では典型的な形式“因为 p, 所以 q”のほか、“因为 p, q”と“p, 所以 q”で表す場合も少なくない (262~264)。つまり、ノデと“因为 p, 所以 q”は必ずしも一対一で対応するとは限らない。また、継起関係を表す“p, 就 q”で表す場合もある (265)。

(265) でもあの子がいなくなってしまったので、ここに持ってきました。

村上春樹『1Q84 Book1』

那孩子不见了，我就把它拿到这里来。

施小炜译《1Q84 BOOK1》

「事態の原因」と「行為の理由」を表すノデ I は、中国語では“(因为)p, (所以)q”類、“p, 就 q”類、“p, 于是 q”類、“p, 只好 q”類で訳される傾向がある。その対訳例の整理から、「事態の原因」が“因为 p, (所以)q”類に、「行為の理由」が“(因为)p, 所以 q”、“p, 就 q”類、“p, 于是 q”類、“p, 只好 q”類にそれぞれ対応する傾向がうかがわれる。

そこで、本章では文中に現れるノデ I が表す事態の原因と行為の理由がそれぞれ中国語とどう対応するかを整理し、その対応関係を明らかにしたい。

### 第一節 ノデ I の意味・用法と中国語での表し方

第二章でも述べたように、事態・行為の原因・理由を表すノデ I は更に「事態の原因」(原因)と「行為の理由」(理由)に分けられる。

#### 1 事態の原因を表すノデ I

前後節 P、Q の間における因果関係を表す。P が Q を引き起こす原因である。Q の述語は状態を表す述語であることが多い。この場合、中国語では“(因为)p, (所以)q”で表すことが多い。また、後節は、“才”、“就”、“于是”、“只好”などで表す場合もある。

夕べお酒をたくさん飲んだ <sup>原因</sup> ノデ 今朝は頭が痛い <sup>結果</sup> 因为昨晚喝了很多酒所以今早头疼
--

- (266) 今日は日曜日なので、デパートはとても混んでいます。  
 因为今天是星期天，商场很拥挤。
- (267) あの人は誰に対しても親切なので、みんなから信頼されている。  
 那个人待人很亲切，所以很受大家信任。
- (268) お金がないので、外国旅行に行けません。  
 因为没钱，不能去国外旅游。
- (269) フライパンみたいで、こりゃどう見たって熱いものに決まっとる。しかし、ともかく仕方ないので、フラッペというやつを注文した。  
 赤川次郎『三毛猫ホームズの怪談』  
 谁会想到 Frappe 就是刨冰？它像平底锅一样。我还以为是热的。没法子，我只好叫了 Frappe。  
 叶蕙译《三色猫怪谈》
- (270) 鏡で左右逆になっているので、ここにいると十一時に見える。  
 赤川次郎『三毛猫ホームズの怪談』  
 由于镜子左右反转，于是把十一时看作是一时。  
 叶蕙译《三色猫怪谈》

以上から分かるように、カラ I と同じように、事態の原因を表すノデ I の前節と後節はどちらも客観的な事態を述べている。中国語でも、事態の原因を表す場合、前後節が表している事態は客観的な状態であり、前節が原因節で、後節が結果節になる。

また、呂叔湘(2014)がしてくるように、時間的な関係から見ると、事態の原因を表すノデ I 文の前節の事態は後節より先に起こっている。

## 2 行為の理由を表すノデ I

Q で行う行為に対する理由を P で説明する。Q の述語の多くは意志動詞である。また、Q には、未来の行為についての話し手の意志や、過去の意志的動作を表す表現が使われる。この場合、中国語は一般的に“因为 p, 所以 q”で表せるが、後節には“才”、“就”、“于是”、“只好”などが現れる場合も多い。

頭が痛かった <sup>行為の理由</sup> ノデ 医者に行った <sup>意志的動作</sup> 因为头疼就去看了医生。
---

- (271) あまり体調が よくないので、スキー旅行には参加しないつもりです。  
 因为身体状态不大好，就打算不去参加滑雪旅行了。
- (272) 仕事がたまっているので、少し早く出勤した。  
 还有工作没完成，所以早点来上班。
- (273) でも私が毎日エサをやるのはとても無理なので、あのレストランの子に頼んだのよ。  
 赤川次郎『三毛猫ホームズの登山列車』  
 但是，我实在是不可能天天去饭给它们，所以才拜托那位餐厅的小姐啊。  
 叶蕙译《三色猫登山列车》
- (274) 料理はとてもゆっくり出てきたので、僕らはワインを飲みながらいろんな話をした。  
 村上春樹『ノルウェイの森』  
 菜上得非常之慢，我们便边喝葡萄酒边聊天。  
 林少华译《挪威的森林》

この用法では、上記の(271～274)のようにすでに成立しているPを理由にQを行うという関係ばかりでなく、未来に成立するPを理由に、前もってQを行うという関係を表すこともできる(275、276)。この場合、Pの述語には基本形が使われる。

週末にお客さんが来る <sub>p</sub> ノデ 今日じゅうに家の掃除をしておこう <sub>q</sub> 因为周末有客人要来, 所以今天把家里打扫一下吧。
--

現実に来客事の成立する順序：

今日じゅうに家の掃除をする<sub>q</sub> → 週末にお客さんが来る<sub>p</sub>

(275) 週末に家でパーティをするので、ビールを注文しておいた。

周末家里开派对, 所以提前订了啤酒。

(276) あした朝 早く出かけなければならないので、今日は早寝しよう。

明早必须要早点出门, 今天就早点睡吧。

上記から見ると、カラ I と同じように、行為の理由を表すノデ I の後節には、意志的動詞が出ることが多い。前節で述べた時間的順序の点から見ると、前後節の起こる順序は一定ではない。しかし、前節が表している事態が未来に起こる事態であっても、その状況を前提に、後節の行為を行うことになるので、やはり前後節に時間的な順序があるといえるだろう。

## 第二節 ノデⅠの対訳例調査

本節では、日中対訳コーパスによる対訳例によって、ノデⅠ原因・理由文と中国語の因果複文における対訳関係を考察する。

### 1 はじめに

蓮沼など(2001)及び前田(2009)などでは原因・理由を表すノデを、事態・行為の原因・理由を表す用法(ノデⅠ)、判断・発言・態度の根拠を表す用法(ノデⅡ)と主節の事態の実現を助ける用法(即ち、原因・理由を表さない用法)の三種類に分けている。

ノデⅠは「事態の原因」(原因)と「行為の理由」(理由)に分かれる。「事態の原因」は事実と分かっている事態 p と q が原因-結果の関係(因果関係)をもつことを表し、「行為の理由」はなぜそのような行為をするかに対する理由の説明である。

(277) タベお酒をたくさん飲んだので、今朝は頭が痛い。 <事態の原因>

(278) 少し熱があるので、お風呂に入るのはやめておこう。 <行為の理由>

邢福義(2001)、張斌(2010)は、中国語の因果複文を「説明性因果複文」と「推論性因果複文」の2種類に分けている。ノデⅠ原因・理由文は、意味的に中国語の「説明性因果複文」に対応すると思われる。「説明性因果複文」の代表的な表現として“因为 p, 所以 q”が挙げられる。この“因为 p, 所以 q”には、第2章で述べたように、次の三点の特徴がある。

- ① “p, 所以 q”の“所以”は前後節の因果関係を顕在化する標識である。
- ② “因为 p, q”の“因为”は原因(原因節)を取り立てる機能を果たす。
- ③ “因为 p, 所以 q”の“因为”は原因(原因節)のスコープを顕在化する。

つまり、原因・理由を表す中国語の形式“(因为)p, (所以)q”の“前標”と“後標”はそれぞれ異なる役割をする。“所以”は複文における構文的意味(前後節の因果関係の確定)を表す役割を果たし、“因为”は構文的階層分類としての原因節のスコープを画定し、取り立てる(原因節の画定・取立)役割を果たす。

そこで、本節では、ノデⅠにおける「事態の原因」と「行為の理由」と中国語の対応関係を中心に考察する。

### 2 対訳例から見る原因文と“(因为)p, (所以)q”の対応傾向

#### 2.1 ノデⅠの対訳例から見る中国語の原因・理由文

本論では21編の日本の小説とその中国語訳についてノデの対訳例を調査した。中国人(中国語訳者)から見た日本語のノデⅠはどのような中国語に対応するのかを浮彫りにする。

原因・理由を表すノデの例は全部で1100例(ノデⅠ:939例、ノデⅡ:161例)あり、そのうち939例のノデⅠがあった(279)。

(279) ノデ I (939 例) :

有標複文 514 例 : 54.7%、無標複文 425 例 : 45.3%

ノデ II (161 例) :

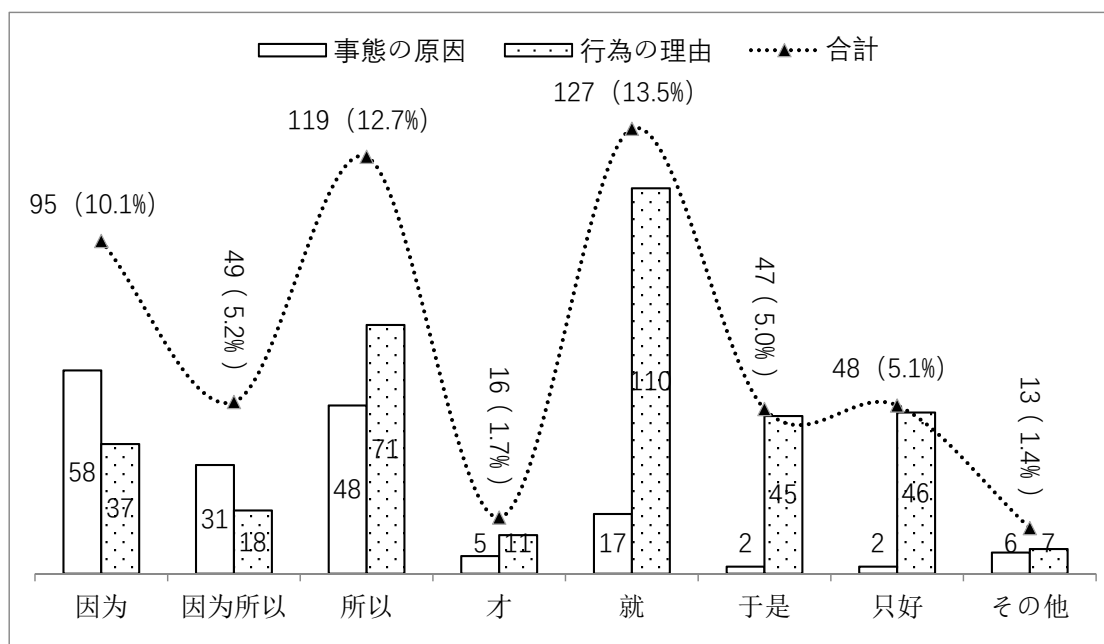
有標複文 72 例 : 44.7%、無標複文 89 例 : 55.3%

ノデ I の対訳例 939 例のうち、無標複文 425 例以外の 514 例の有標複文は、① “因为” 類、② “因为所以” 類、③ “所以” 類、④ “才” 類、⑤ “就” 類、⑥ “于是” 類、⑦ “只好” 類、⑧ その他類といった 8 種類の有標形式に訳されている<sup>16</sup>。それを纏めると次の(280、281)のようになる。

(280)

	因为	因为所以	所以	才	就	于是	只好	その他	無標	合計
原因	58	31	48	5	17	2	2	6	197	366
理由	37	18	71	11	110	45	46	7	228	573
合計	95	49	119	16	127	47	48	13	425	939

(281)



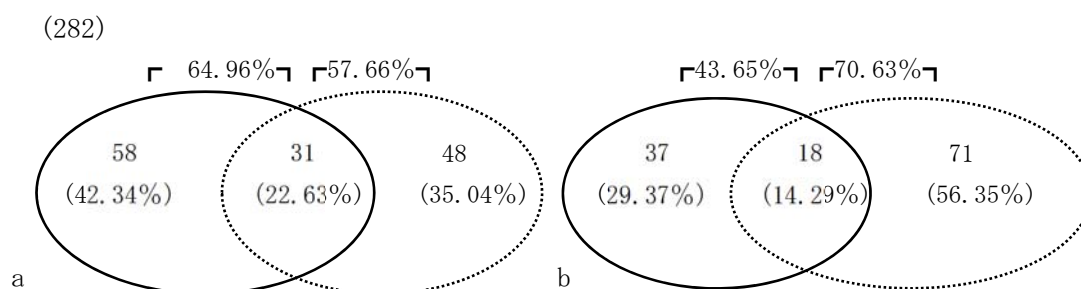
(281)から分かるように、文中のノデ I の対訳例の多くは“就”類 (13.5%)、“所以”類 (12.7%) と“因为”類 (10.1%) の三類に集中している。つまり、これら三形式で表す因果複文がノデ I 原因理由文と意味的に最も近いことを示している。

<sup>16</sup> “因为”類：因为 p, q、由于 p, q。“因为，所以”類：因为 p, 所以 q。“所以”類：p, 所以 q、p 因此 q。“才”類：(因为) p, (所以) 才 q。“就”類：(因为) p, (所以) 就/便 q。“于是”類：(因为) p, 于是 (就) q。“只好”類：(因为/由于) p, (所以) 只好/只能 q。その他類：因为 p, 只好 q、既然 p, 那么 q、其他。

## 2.2 原因節を焦点化する“因为”について

(281)からは、ノデ I で対訳例の大半が理由文であり、理由文では“所以”と“就”、“于是”、“只好”といった“後標”表現が好んで使われているように見える。原因文の場合、基本的な“前後標”“因为”、“所以”で表す傾向がある。ここでまず明らかにしなければならないことは“因为”と“所以”がノデ I の原因・理由文と一体どう対応するのかという問題である。それを明らかにするため、ここではノデ I が“因为 p, q”“因为 p, 所以 q”“p, 所以 q”といった三形式に訳されている場合のみを対象に分析してみる。

“因为 p, q”“因为 p, 所以 q”“p, 所以 q”の原因文 137 例(=58+31+48)、理由文 126 例(=37+18+71)における“前後標”の分布状況を図で示すと次の(282)のようになる。



上記から分るように理由文は後標である“所以”を含んだ“p, 所以 q”か“因为 p, 所以 q”で表す場合が圧倒的に多い。つまり、中国語における“前後標”“因为”と“所以”が日本語のノデの原因・理由文とどう対応するかについては次のような結論が得られる。

(283) “因为”は意味的に原因を表すノデ I に近く、“所以”は意味的に理由を表すノデ I ノデに近い。

但し、これはあくまでも“因为”と“所以”がノデ I の原因・理由文とどう対応するかといった分析にすぎず、ノデ I と中国語の因果複文全体を視野に入れた結論ではない。つまり、ノデ I 対訳例全体図である(281)から見ても、“因为”、“所以”だけを対象にした(282)から見ても、原因を表すノデ I は理由を表すノデ I より“因为”に近いといえるが、“所以”は必ずしも理由を表すノデ I に近いとはいえない。それは理由を表すノデ I は“所以”よりも“就”で訳されるほうがずっと多いからである。“所以” 119 例と“就” 127 例における原因文と理由文での比率はそれぞれ 40.3%:59.7%と 13.4%:86.6%になる。また、“只好”、“于是”の例の 9 割以上も理由文である(284)。

(284) a. “所以” 119 例

原因文 48 例(48/119=40.3%)、理由文 71 例(71/119=59.7%)。

b. “就” 127 例

原因文 17 例(17/127=13.4%)、理由文 110 例(110/127=86.6%)。

c. “于是” 47 例

原因文 2 例(2/47=4.3%)、理由文 45 例(45/47=95.7%)。

d. “只好” 48 例

原因文 2 例(2/48=4.2%)、理由文 46 例(46/48=95.8%)。

前にも述べたように、李晋霞・王忠玲(2013)は、“所以”は前後節の因果関係を顕在化する標識であるとしていることから、“所以”と理由文には意味的に直接的な関係はないようである。そのため次のような結論が得られる。

(285) ノデ I 原因文では事態の原因として原因節が焦点になるが、中国語では“因为”を用いて原因節を焦点化する。

日本語のノデ文の場合、前田(2009)では、「事態・行為の原因・理由文は前節に、根拠を表す原因・理由文は後節に、プロミネンスが置かれる」とされている。つまり、ノデ I は原因・理由節が構文的に焦点になるということである。

(286) “因为”は原因節を焦点化する役割をするが、ノデ原因文は（ノデ以外の）特定の形式を用いなくても原因節が構文的に焦点となる。

### 2.3 原因節のスコープ画定機能を果たす“因为”について

前に述べたように“p, 所以 q”での“所以”は前後節の間に位置して因果関係を顕在化する標識である。この点ノデも、構文的に前後節の間に位置して、前後節における因果関係を表すものと言える。しかし、日本語はノデだけで因果関係を表すのに対して、中国語には“所以”以外に“因为”という“前標”が存在する。この“因为”は原因(原因節)のスコープを顕在化する機能を果たすと考えられる(287)。

(287) 感冒了(x), 没上班(y), 所以朋友来看我了(z)。

a. 因为感冒了(x), 没上班(y), 所以朋友来看我了(z)。

風邪を引いて、会社を休んで、友達が訪ねてきた。

b. 感冒了(x), 因为没上班(y), 所以朋友来看我了(z)。

風邪を引いた、会社を休んだから、友達が訪ねてきた。

つまり“所以”と“因为”を併用することによって原因(原因節)のスコープをはっきりさせる。従って、“所以”がノデと同じく前後節の間に位置して前後の因果関係を顕在化する一方、“因为”は(ノデを用いるノデ節と同じく)原因節のスコープ画定機能を果たす。

日本語のノデは前後節の因果関係の顕在化と原因節のスコープを画定する機能のどちらも果たすが、中国語では“所以”が因果関係の顕在化、“因为”が原因・理由節のスコープの画定化といったそれぞれ異なる文法的機能を果たしているという結論が得られる。

## 3 ノデ理由(意志動詞)文とほかの“後標”について

### 3.1 カラ理由(意志動詞)文と“就”について

以上の2.1から2.3まででは主に原因・理由文における“因为”、“所以”の機能を考察してきたが、ここでは“就”の機能について見ることにする。ノデ I 理由文は行為の理由を表すため、後節は意志動詞文になる。このような意志動詞文は中国語ではよく

“就”を用いて表す。この“就”が複文の接続辞として持つ意味について、第三章で述べたように、邢福義(2001)は継起関係、因果関係、根拠による推論、純粹な仮定、仮定表現の五つの意味を挙げているが、そのほとんどが動作主の意志動作か命令・依頼表現

及び判断であった (288~292)。

- (288) 雷磊第一个交了卷，就匆匆忙忙地走了。 <継起> (邢福義 2001)  
雷磊は最初に解答用紙を提出して、あわてて出ていった。
- (289) 妈妈手脚不便，无法照料儿子，就由父亲陪床。 <因果> (邢福義 2001)  
母は手足が不自由で、息子の世話ができないから、父が面倒を見る。
- (290) 事情已经过去，就不要再提他了。 <根拠による推論> (邢福義 2001)  
もう過ぎたことだから、彼のことはもう二度と話さないでくれ。
- (291) 我死了，就埋在八斗丘，行嘍？ <純粹な仮定> (邢福義 2001)  
私が死んだら、八斗丘に埋めてちょうだい、いい？
- (292) 人活着，就有希望。 <仮定> (邢福義 2001)  
生きてさえいれば、希望は必ずある。

張斌(2010)でも複文における“就”は主観的意図と判断を表すとされている。事態の原因を表す場合も同じことが言えるだろう。単なる事態の原因を述べる (293a、294a) に対して“就”を用いた (293b) は判断の根拠を表す文になり、(294b) は行為の理由を表す文になる。

- (293) a. 因为下雨了，所以地湿了。 <事態の原因>  
雨が降ったので、地面が濡れている。  
b. 因为下雨了，所以地就湿了。 <判断の根拠>  
雨が降ったので、地面が濡れているのだ。
- (294) a. 因为感冒了，所以(他)没去学校。 <事態の原因>  
風邪を引いたので、彼は学校に行かなかった。  
b. 因为感冒了，所以(我)就没去学校。 <行為の理由>  
風邪を引いたので、私は学校に行くことを諦めた。

したがって、

- (295) ノデ I 理由文は文末の意志動詞によってその理由を顕在化するのに対して、中国語では“就”で意志動作と主観的判断を顕在化する。

### 3.2 ノデ理由文と“于是”について

邢福義(2001)は、“于是”には因果関係と継起関係の二つの意味用法があると述べている。因果関係を表す場合、“所以，因此”に似ている。

- ① 前節が気持ちまたは考えを表す場合、後節がその結果を表す。

- (296) a. 她觉得自己好像有必要去跟他说明一下情况，于是亲自去了一趟。  
b. 説明する必要があると思うので、自ら行った。

- ② 前節が事実または判断を述べる場合、後節がその結果を表す。

- (297) a. 千猜不如亲眼看，于是他拔开脚匆忙挤进百货公司的大门。  
b. 自分の目で確かめる方がいいと思うので、彼が百貨店の入口へ走り込んだ。

“（因为）p，于是 q”は前後節の因果関係を表すとともに、前後節の接続関係も表す。ノデにもこういう前後節の接続関係を表す作用があるのではないかと考えられる。

また、陸慶和(2000)は、“于是”を用いる原因理由文では、前節が後節の動作の理由を述べるとしている。つまり、前節の理由があるからこそ、後節の動作が発生する。<sup>17</sup>

(298) a. 罐子村离双水村才几里路, 他也没什么事, 于是就三一回五一回跑个不停。

b. 遠くもないし、特にやることもないので、よく向こうへ行く。

(299) ノデ理由文は文末の意志動詞によってその理由を顕在化するのに対して、中国語では“于是”で意志動作を強調し、顕在化する。

### 3.3 ノデ理由文と“只好”について

多くの辞書は、“只好”が「ほかに選択する余地がないことを表す」と記している。

(300) a. 二時間しないと戻って来ない、というので、仕方なくここで時間を潰しているのである。 赤川次郎『三毛猫ホームズの感傷旅行』

b. 公司的人说他两小时以后才回来, 片山没法子, 只好在这里消磨时间。

叶蕙译《三色猫伤感旅行》

(301) a. 山崎が、どんどん歩いて行くので、片山もついて行くしかなかった。

赤川次郎『三毛猫ホームズの感傷旅行』

b. 山崎往前直走的关系, 片山只好跟着。

叶蕙译《三色猫伤感旅行》

(302) a. しかしそういうところでも運転手はあまりスピードを落とさなかったので、天吾ははらはらしながら、ドアのグリップにずっとしがみついていたなくてはならなかった。

村上春樹『1Q84 Book1』

b. 但司机在这样的地方也不减速, 吓得天吾心惊肉跳, 只好死死抓住车门上的把手一路不放。

施小炜译《1Q84 BOOK1》

(303) a. あの屋敷から飛び出したらしい猫たちの匂いを追って来たのだが、とにかく一匹一匹がてんでんばらばらに四散しているので、一匹ずつの匂いを根気よく追ってみるほかはなかった。

村上春樹『羊をめぐる冒険』

b. 循着从那栋猫屋散发出来的猫味追查出来, 因为是一只一只你东我西地四散逃逸, 所以只得耐着性子一次一只地找。

林少华译《寻羊冒险记》

上記から見ると、“只好”を用いる原因理由文には、「仕方ない」、「するほかない」などのような表現がよく現れる。つまり、“只好”は意志動作を顕在化するとともに、動作主の「仕方ない」という気持ちを表す。

## 4 まとめ

本稿では、因果関係を表す中国語の“前標”、“後標”の立場から日本語のノデ I で表す原因・理由文の日中対応をまとめてみた。ノデ I で表す原因・理由文は「事態の原因」「行為の理由」の2種類に分かれるが、両方とも事態の原因を説明しているので、日本語のノデ I で表す原因・理由文は中国語の「説明性因果複文」に対応すると言えるだろう。対訳例の整理から、「事態の原因」が“因为 p, (所以) q”類に、「行為の理由」が“(因为) p, 所以 q”、“p, 就 q”類、“p, 只好 q”類、“p, 于是 q”類にそれぞれ意味的

<sup>17</sup> 原文：有因而然。前句一般表示于是后面所记述动作的成因，即由于有了前句所说的原因，才会发生后一句记述的动作。

に対応することが分かった。また、ノデⅠは「行為の理由」を表す傾向があることが分かった。

ノデ原因文は意味的に“因为”に最も近く、“因为”も意味的にノデ原因文に最も近いといえる。ただし、“因为”は原因節を焦点化する役割をするが、ノデ原因文は特定の形式を用いなくても原因節が構文的に焦点となる。

中国語では“所以”が前後節の間に位置して前後節の因果関係を顕在化し、“因为”が原因節の前に位置して原因節の焦点化とスコープの画定化機能を果たすというように、それぞれ異なる役割を分担していると言えるが、日本語では、ノデ形式だけでこれらすべての機能を果たせるといえる。また、中国語では“就”、“只好”、“于是”などの表現で意志動作と主観的判断を顕在化するが、日本語では意志動詞によりその行為を顕在化する。

### 第三節 ノデ I とその中国語訳における定量分析

本節では、偏差値の概念を導入する。“前後標”および接続辞の観点から、ノデ I 原因・理由文の対訳例の偏差値を計算して、ノデ I 原因・理由文と中国語の因果複文の対訳傾向を正確に分析することを目指す。

#### 1 偏差値とは

第三章で述べたように、偏差値とは平均が 50、標準偏差が 10 になるように、正規化したものであり、出来る限り評価基準を統一する手段である。日本で広く用いられる偏差値は「(得点 - 平均点) / 標準偏差 × 10 + 50」で求められる。

本節では、カラ I 原因・理由文と対訳する各接続辞の偏差値を計算することによって、カラ I 原因・理由文と中国語の因果複文の対訳傾向を詳しく見てみたい。まず原因のカラ I と理由のカラ I を二回の試験と見なす。これによって、原因のカラ I と理由のカラ I の対訳傾向をまとめてみる。更に、原因のカラ I と理由のカラ I の対訳傾向を区別することもできるだろう。

#### 2 “前後標”の観点から見る対訳傾向

まず、“前標”、後標の観点から、ノデ I の対訳例を①“因为”類（“前標”）、②“因为所以”類（“前後標”共起）、③“所以”類（後標）、④“才”類（特殊後標）、⑤“就”類（特殊後標）、⑥“于是”類（後標）⑦“只好”類（特殊後標）⑧その他の 8 種類に分ける (304)。さらに、それぞれの偏差値を計算すると、次の(305)のようになる。

(304)

	因为	因为所以	所以	才	就	于是	只好	その他
原因	58	31	48	5	17	2	2	6
理由	37	18	71	11	110	45	46	7
合計	95	49	119	16	127	47	48	13

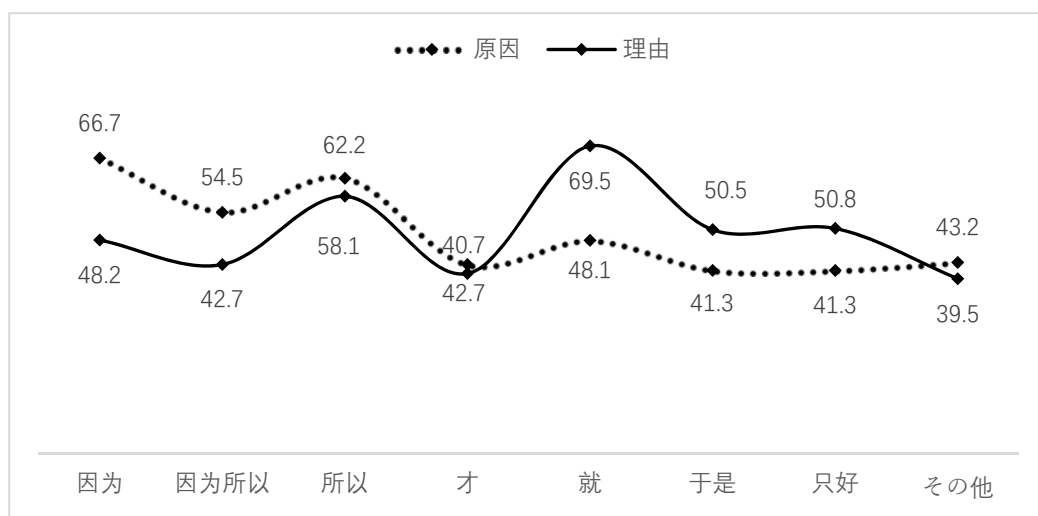
(305)

	因为	因为所以	所以	才	就	于是	只好	その他	平均値	標準偏差
原因	<u>66.7</u>	<u>54.5</u>	<u>62.2</u>	42.7	48.1	41.3	41.3	43.2	21.1	22.1
理由	48.2	42.7	<u>58.1</u>	40.7	<u>69.5</u>	<u>50.5</u>	<u>50.8</u>	39.5	43.1	34.4
合計	<u>57.0</u>	46.5	<u>62.4</u>	39.1	<u>64.2</u>	46.1	46.3	38.4	64.3	44.1

50<偏差値<60<偏差値<70

(305)によって、偏差値から原因文と理由文における“前後標”の使用頻度を比較してみると次の(306)のようになる。

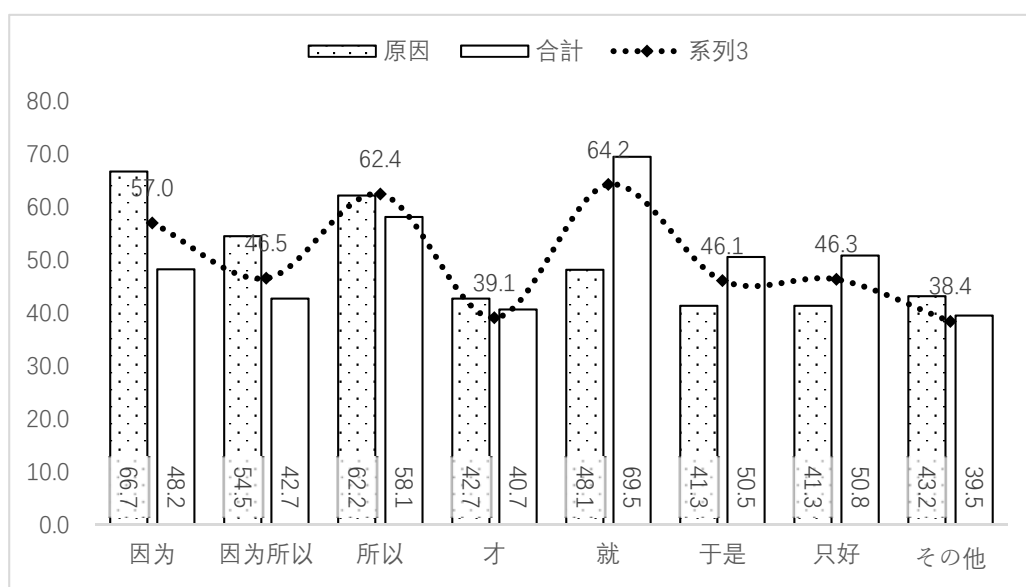
(306)



(306)から分かるように、原因文の場合、中国語では単純な因果関係を表す“前標”を含む“因为”(66.7)“因为所以”(54.5)が多く用いられ、理由文の場合、因果関係のほか、継続関係も表す後標の“就”(69.5)が多く用いられる。また、“只好”(50.8)、“于是”(50.5)の使用頻度も低くない。そのほか、原因文でも、理由文でも“所以”(62.2&58.1)の使用率が高い。

さらに、中国語で原因理由を表す“前後標”が日本語のノデⅠに対応する場合の使用状況を分析すると次の(307)のようになる。

(307)



上記から、ノデⅠの対訳例のうち、中国語で因果関係を表す一番普通な形式である“前標”“因为”(57.0)と“後標”“所以”(62.4)のほか、継続関係など話し手の主観的意志を表す後標“就”(64.2)も多く用いられることが分かる

### 3 対訳形式の観点から見る対訳傾向

ここでは、中国語で原因理由を表す各接続辞形式が日本語のノデ I とどのように対応しているかを見てみる。ノデ I と対訳する接続辞形式は概ねに次の(308)のように示すことができる。

(308)<sup>18</sup>

	原因	理由	合計		原因	理由	合計		原因	理由	合計
因为	20	22	42	(+)才	2	4	6	(+) 于是	1	3	4
由于	38	15	53	才	3	7	10	只好	2	37	39
因为 所以	31	18	49	(+)就	8	25	33	(+) 只好	0	9	9
因此	14	20	34	就	9	85	94	其他	6	7	13
所以	34	51	85	于是 就	1	42	43				

それぞれの接続辞がノデ I と対訳するときの偏差値を次の(309)で示す。

(309)

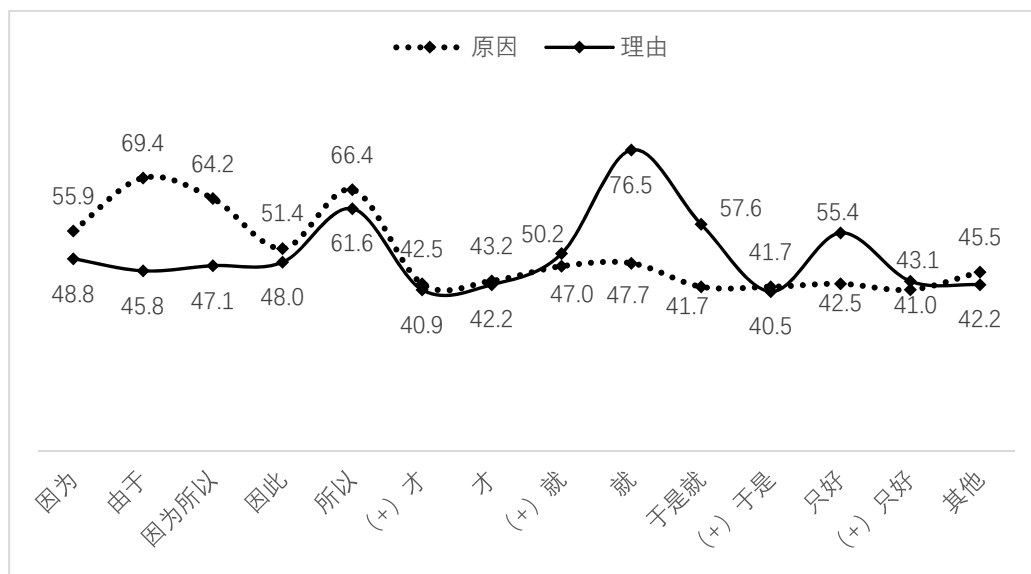
	原因	理由	合計	平均 値	12.1	24.6	36.7	標準 偏差	13.4	22.7	28.0
因为	<u>55.9</u>	48.8	<u>51.9</u>	(+)才	42.5	40.9	39.0	(+) 于是	41.7	40.5	38.3
由于	<u>69.4</u>	45.8	<u>55.8</u>	才	43.2	42.2	40.5	只好	42.5	<u>55.4</u>	<u>50.8</u>
因为 所以	<u>64.2</u>	47.1	<u>54.4</u>	(+)就	47.0	<u>50.2</u>	48.7	(+) 只好	41.0	43.1	40.1
因此	<u>51.4</u>	48.0	49.0	就	47.7	<u>76.5</u>	<u>70.5</u>	其他	45.5	42.2	41.5
所以	<u>66.4</u>	<u>61.6</u>	<u>67.3</u>	于是 就	41.7	<u>57.6</u>	<u>52.2</u>				

50<偏差値<60<偏差値<70<偏差値

(309)の偏差値から原因文と理由文における各接続辞の使用頻度を比較すると次の(310)のようになる。

<sup>18</sup> (+)才は“(因为) p, (所以)才 q”の略記; (+)就は“(因为) p, (所以)就 q”の略記; (+)只好は“因为 p, 只好(只能) q”の略記; 既然(既然 p, 那么(那) q)”の略記である。

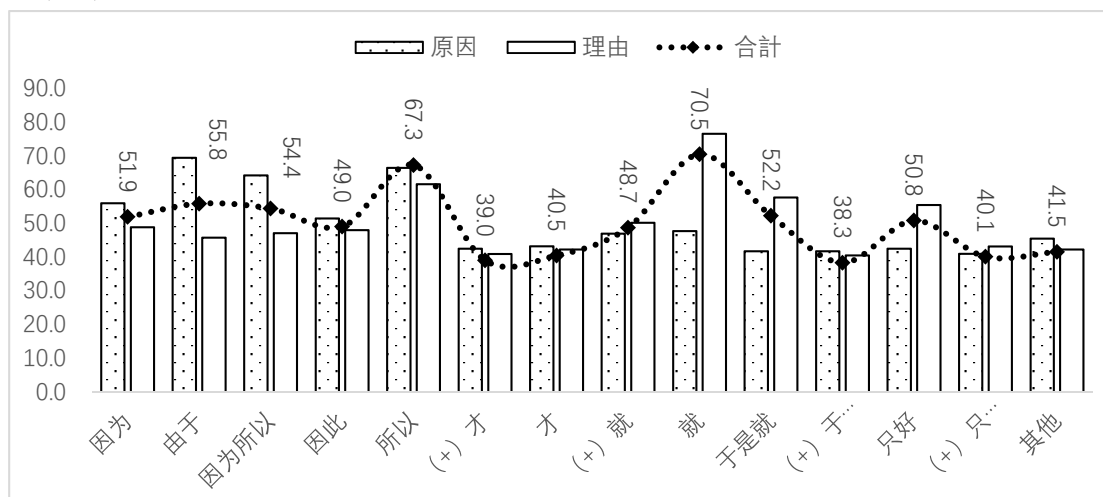
(310)



(310)から分かるように、原因文の場合、“由于”(69.4)、“所以”(66.4)、“因为所以”(64.2)の使用頻度が高く、理由文の場合、継続関係も表す“就”(76.5)および単純な因果関係を表す“所以”(61.6)の使用頻度が高い。そのほか、原因文では、“因为”(55.9)、“因此”(51.4)、理由文では“于是就”(57.6)、“只好”(55.4)、“(因为)p, (所以)就q”(50.2)の使用率は低くない。

さらに中国語で原因理由を表すそれぞれの接続辞が日本語のノデIと対応する場合の使用状況を分析すると次のようになる(311)。

(311)



(311)から、ノデI原因・理由文を中国語の因果複文で対訳する場合、よく用いられる接続辞として“就”(70.5)、“所以”(67.3)などがあることがわかる。その使用頻度は格段に高い。また、“由于”(55.8)、“因为所以”(54.4)、“于是就”(52.2)、“因为”(51.9)、“只好”(50.8)などの接続辞も場合によって用いられることが少なくない。

#### 4 まとめ

本節では、日中対訳コーパスによるノデ I の対訳例の“前後標”の偏差値及びそれぞれの接続辞の偏差値を計算した。ノデ I 原因・理由文と中国語の因果複文の対訳傾向は次の(312)のようにまとめられる。

(312)

	前標	後標	前後標	特殊後標
原因	<u>由于</u> 、因为	<u>所以</u> 、因此	<u>因为所以</u>	—
理由	—	<u>所以</u> 、于是就	—	<u>就</u> 、只好、 (+) 就
ノデ I	由于、因为	<u>所以</u> 、于是就	因为所以	<u>就</u> 、只好、

50<偏差値<60<偏差値<70<偏差値

以上からわかるように、ノデ I 原因・理由文との対訳形式として、“前標”の“由于”、後標の“所以”および特殊後標の“就”が一番頻繁に用いられる。更に詳しく見てみると、原因文は“因为”、“因为所以”、理由文は“就”、“所以”で対訳する頻度が高い。つまり、原因文の場合、単純な因果関係を表す接続辞を用いる傾向があるのに対して、理由文の場合、後標や特殊後標の接続辞を用いる傾向がある。よって、中国語の因果複文を分析する場合、使われる接続辞の違いによって、中国語の説明性因果複文を意味的に分類することが可能になるだろうと思われる。

## 第六章 ノデⅡにおける日中対照と関数検定

日本語の複文は主に条件文、原因・理由文、逆条件・逆原因文の三種類に分けられている。そのうち、原因・理由を表す代表的な形式にはカラとノデがある。従来、カラは主観的な因果関係を表し、ノデは客観的な因果関係を表すとされている。第3、4章ではカラにおける日中対応関係を考察したが、本章では、ノデⅡの日中対応関係を考察する。ノデⅡは中国語では“因为 p、所以 q”で表すというのが一般的な記述であるが、実際の対訳例から見ると必ずしもその通りではない。次の例をみてみよう。

(313) いやホームズが「顔見知り」なのは当たり前だ。店では危険なので、片山と一緒に  
出て来たらしい。 村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』

a. 不，福尔摩斯当然“面善”因为呆在店里有被人“践踏”之虞，所以跟着片山走了  
出来。 林少华译《舞！舞！舞！》

b. 不，福尔摩斯当然“面善”，呆在店里有被人“践踏”之虞，跟着片山走了出来。  
(筆者訳)

(314) 明治六年なら煙草はまだ専売にされてなかったので、百姓は自家栽培して除虫菊  
のように虫除けにも使ったものだろう。 井伏鱒二『黒い雨』

a. 如果是明治六年，烟叶还不是专卖品，可能是农民自己种好之后，当防虫菊一样用  
来防虫的。 柯毅文、颜景镐译《黑雨》

b. 如果是明治六年，因为烟叶还不是专卖品，所以，可能是农民自己种好之后，当防  
虫菊一样用来防虫的。 (筆者訳)

例(313、314)を中国語に訳すと、接続表現を用いる例(313a)と接続表現を用いない例(314a)になる。しかし、接続表現を用いない例(313b)と接続表現を用いる例(314b)も成り立つし、意味も変わらない。

このように、ノデと“因为 p、所以 q”は必ずしも一対一で対応するとは限らない。今までの原因・理由文に関する研究は主にそれぞれの単一言語内部の研究が殆どであり、両者の対応関係についての研究は稀といえる。そこで、本章では文中にノデⅡが現れる原因・理由文に関する日中対応関係を整理し、その対応関係を明らかにしたい。

### 第一節 ノデⅡの意味・用法と中国語での表し方

第二章でも述べたように、判断・発言・態度の根拠を表すノデⅡは更に「判断の根拠」(判断)と「発言・態度の根拠」(態度)に分けられる。本節では、「判断の根拠」及び「発言・態度の根拠」を表すノデⅡについて詳しく見てみる。

#### 1 判断の根拠を表すノデⅡ

話し手がなぜそのように判断を下すのかを説明する用法を「判断の根拠」と呼ぶ。文末に「(の) だろう／(の) かもしれない／にちがいない／はずだ／ようだ／らしい／そうだ」などといった話し手の判断を表す表現が用いられる場合が多い。中国語で、「(因为) p, (所以) q」などで表すことが多い。また、後節には、“才”、“就”などが現れることがある。

顔色が悪い <small>判断の根拠</small> ノデ どこか体に悪いところがあるのだろう <small>話し手の判断</small> 脸色不好，所以是身上哪里不舒服吧。
--

- (315) 病室に面会謝絶と書いてあるので、病気はかなり重いにちがいない。  
 因为病房里写着谢绝探视的字样，一定是病的相当严重。
- (316) 左の薬指に指輪をしているので、この人は既婚者だろう。  
 左手无名指戴着戒指，所以这个人应该是已婚的。
- (317) 地球の引力よりも強い力で動かされたので、そのままの姿で空中を飛んだの  
 う。井伏鱒二『黒い雨』  
 可是炸弹爆炸的力量也许超过了地球对它的吸引力，所以才把它原样不变地刮到天  
 空中去的。柯毅文颜景镐译《黑雨》
- (318) 三次町の場合は、山を隔てているので広島のカラゲ雲は見えなかったろう。  
井伏鱒二『黒い雨』  
 由于三次町和广岛市中间隔着山，也许就没有看到蘑菇云。  
柯毅文颜景镐译《黑雨》

「判断の根拠」を表すノデⅡ文の後節は判断（つまり推量）のモダリティ形式である。つまり、前件が表している事態は既に成り立っている事実であるのに対して、後件が表している事態はまだ事実かどうか確定できない事態である。しかし、前件が（発話時にある程度決まってはいるものの）未実現の事態の場合もある（319）。

- (319) 大崎佐知子が、また殴り込んで来てはいけないというので、石津が用心棒というわけだった。村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』  
 石津为了怕大崎佐知子来打它，所以当起保镖来了。林少华译《舞！舞！舞！》

更に、「判断の根拠」を表す原因・理由文は、前件と後件を入れ替えると「事態や行為の原因・理由」を表す文になる（320）。また、後件に「わかる、判断する」などの動詞が付くと、「判断の根拠文」から「事態や行為の原因・理由文」になる（321）。

- (320) バスが定時にちゃんと来たから、道路は混んでいないんだ。（判断の根拠）  
 道路が混んでいないから、バスが定時にちゃんと来た。（事態の原因）
- (321) バスが定時にちゃんと来たから、道路は混んでいないね。（判断の根拠）  
 バスが定時にちゃんと来たから、道路は混んでいないとわかる。  
（「わかる」と言う行為の理由）

また、「事態・行為の原因・理由」を表す場合は(322b)のように「Pのは、Qからだ」といった形式に変換ができるが、「判断の根拠」を表す場合は(323b)のようにそういった変換が不可能である。

- (322) a. 熱が出たから、昨日仕事を休んだ。  
 b. 昨日仕事を休んだのは熱が出たからです。
- (323) a. バスが定時にちゃんと来たから、道路は混んでいないだろう。  
 b. \*道路が混んでいないのはバスが定時にちゃんと来たからです。

以上のことから、「判断の根拠」を表すノデⅡの特徴は次のように纏めることができる。

(324)「判断の根拠」文を「事態・行為の原因・理由」文に変換するには、下記の三つの規則がある。

- a 前件と後件を入れ替えて表す（「q カラ p デアル」）。
- b 後件に「わかる、判断する」などを付け加えて表す。
- c 「q ノハ、p カラダ」には変換不可。

## 2 発話・態度の根拠を表すノデⅡ

話し手がなぜそのような発言をしたり、そのような態度をとったりするのかを説明する用法を「発言・態度の根拠」と呼ぶ。まだ実現していない事態の実現を聞き手に働きかける場合は、文末に命令・依頼・勧誘・質問などの形式が来る（325～231）。また実現を望む話し手の態度を表す場合は、文末に希望、意志などの表現が用いられる（332～334）。中国語では、“因为 p, q” “p, 所以 q” “p, 就 q” などで表す場合が多い。

(325) 風邪をひくといけないので、厚着して出かけなさい。 (命令)

感冒了就不好了，所以穿多点出门。

(326) 他人に知られるとまずいので、このことは誰にも言わないでください。(依頼)

被别人知道了就不好了，所以这件事儿不要对任何人说。

(327) 六回目のコールで留守番電話のテープが出てきた。ただいま留守にしております

ますので、メッセージがありましたら吹き込んでください。 (依頼)

村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』

铃响第六次时，响起录音电话磁带上的女性声音：现在不在家，请将留言录进磁带。

林少华译《舞！舞！舞！》

(328) 公園の桜、この週末が一番見ごろになりそうなので、いっしょにお花見しませんか。 (勧誘)

这个周末，公园里的樱花应该就能到最佳观赏时间了，我们一起去赏花吧。

(329) 悪いけれど怖いので、ドアの前までついてきてくれないか… (勧誘)

村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』

对不起，因为有点恐怖能否陪我到房间门口… 林少华译《舞！舞！舞！》

(330) 今日の予定は全部終わったので、もう帰ってもいいですか。 (質問)

今天的计划已经都完成了，所以我可以回去了吧。

(331) 今からちょっとお風呂へ入るところなので、一時間ほどしてからでよろしいですか。 (質問) 村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』

现在我想洗个澡，一小时以后可以吗？ 林少华译《舞！舞！舞！》

(332) 今夜は寒くなりそうなので、早めに帰ろう。 (意志)

今晚似乎会转冷，所以早点回家吧。

(333) とてもおなかがすいているので、今すぐ晩ご飯が食べたいな。 (希望)

因为非常的饿，好想现在马上就吃晚饭啊。

(334) 空港でレンタカーを返して料金を精算しなくちゃならないんで、できたら少し早めに着きたいんです。 (希望) 村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』

到机场还要还车结账，可能的话，想提前一点去。 林少华译《舞！舞！舞！》

### 3 まとめ

ノデⅡはノデⅠと違って、単純な因果関係を表すのではなく、前節の原因を根拠に、後節で判断や推論を行うことを表す。そのノデⅡはさらに、「判断の根拠」と「発話・態度の根拠」に分けることができる。

「判断の根拠」を表すノデⅡは、後節に、普通、「(の) だろう・(の) かもしれない・にちがいない・はずだ・ようだ・らしい・そうだ」などといった話し手の判断表現が現れる。つまり、客観的な事態による、なんらかの判断を下すことを表す用法である。こういったノデⅡ判断文は、判断モダリティ文である。

これに対して、「発言・態度の根拠」を表すノデⅡは、後節に命令・依頼・勧誘・質問といった働きかけ表現が来る場合と、意志・希望などを表出する表現が来る場合がある。このようなノデⅡ態度文は働きかけ・表出モダリティ文である。

## 第二節 ノデⅡの対訳例調査

本節では、日中対訳コーパスによる対訳例によって、ノデⅡが表す判断文及び態度文と中国語の因果複文の対訳関係を考察する。

### 1 はじめに

前節で述べたように、蓮沼昭子など（2001）及び前田直子（2009）は原因・理由を表すノデを「事態・行為の原因・理由」を表す用法（ノデⅠ）、「判断・発言・態度の根拠」を表す用法（ノデⅡ）の二種類に分けている。本稿では、さらに、ノデⅠを「事態の原因」（原因）と「行為の理由」（理由）に、ノデⅡを「判断の根拠」（判断）と「発言・態度の根拠」（態度）に分けることにする。

ノデⅡを更に「判断の根拠」（判断）と「発言・態度の根拠」（態度）に分けたが、「判断の根拠」は、なぜそのような判断をするのかに対する根拠を説明する。「発言・態度の根拠」は、なぜそのような発言をしたり、そのような態度をとったりするのかに対する根拠を説明する（335、336）。

(335) 顔色が悪いので、どこか体に悪いところがあるのかもしれない。〈判断の根拠〉

(336) ほかのお客さんの迷惑になりますので、携帯電話のご使用はご遠慮ください。

〈発言・態度の根拠〉

本節では、ノデⅡにおける「判断の根拠」及び「発言・態度の根拠」と中国語の対応関係を中心に考察する。

### 2 中国語の因果複文の接続表現について

#### 2.1 “因为p，所以q”形式について

“因为p，所以q”は因果複文の最も典型的な形式である。“前標”“因为”と“後標”“所以”を一緒に用いることが多く（337），“後標”“因为”か“後標”“所以”だけで用いる場合もある（338、339）。

(337) 因为不知道怎么个吃法，所以至今一直象宝贝似地用纸包着，收藏在柜子里。

柯毅文、颜景镐译《黑雨》

どんなふうにして食べたらいいか知れないので、今まで紙袋に入れて慳食戸棚に蔵っていたそうだ。

井伏鱒二『黒い雨』

(338) 这或许因为天黑以后无所事事以得如此熟悉的吧——尽管可能并不情愿。

林少华译《挪威的森林》

たぶん日が暮れると何もすることがなくなるので嫌でもくわしくなっちゃうんでしょね。

村上春樹『ノルウェイの森』

(339) 那个时候，即使跟别人说起黑雨，谁也不知道它有毒，所以不会引起误解。

柯毅文、颜景镐译《黑雨》

あの頃なら、黒い雨のことを人に話しても、毒素があることは誰も知らないので、誤解されなんでしょう。

井伏鱒二『黒い雨』

“因为p，所以q”は主に、客観的に物事の因果関係を述べる用法であると邢福義（2001）が述べている。また、“因为”が（“所以”ではなく）“才、就”といった“後標”

と共に用いられる場合もある(340、341)。

- (340) 因为福尔摩斯尖叫，他才落荒而逃吧！ 林少华译《舞！舞！舞！》  
ホームズが鳴いたので、あわてて逃げ出したのだろう。  
村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』
- (341) 因为时间还早，他们就在车站外面的一片空地上并肩漫步着。 (邢福義 2001)  
まだ早いので、駅外の空地で肩を並んで歩いていた。 (筆者訳)

## 2.2 “由于 p, q” 形式について

“由于”も原因を表す“前標”である。“由于”は、(342)のように“所以、因此、因而、才、就”などの“後標”と組み合わせて使われる場合もあるが、(343)のように単独で使われる場合が多い。

- (342) 由于每家所剩的麦子都不多，所以今年的麦收没有现出紧张… (邢福義 2001)  
残った麦が多くなかったので、今年の麦収穫はそれほどあわただしい様子ではなかった…。 (筆者訳)
- (343) 由于火势已经迫在眉睫，夫人只好一个人跑了。 柯毅文、颜景镐译《黑雨》  
火がもう近くまで迫っていたので奥さんは止むなく逃げて行かれたそうだ。  
井伏鱒二『黒い雨』

邢福義 (2001) によると、“因为”より“由于”のほうがより書き言葉的な表現であるのに対して(344)、日常会話では、“因为”のほうがより自然であるとされている(345)。

- (344) 由于现代科学文化飞速发展，图书激增，书目的形式不断演变和革新。  
(邢福義 2001)  
現代科学文化の飛躍的な発達により、図書が激増しており、本の形式も変わりつつある。  
(筆者訳)
- (345) a 师：你怎么又迟到？  
生：因为……因为…… (邢福義 2001)  
b\*师：你怎么又迟到？  
生：由于……由于…… (邢福義 2001)  
c 先生：なぜまた遅刻しましたか？  
生徒：だって…だって… (筆者訳)

また、劉楚群 (2002) は、“因为”は後節の原因に焦点を置いているのに対して、“由于”は原因というより、事態の前後の順序に焦点を置くとしている。

## 2.3 “p 就 q” 形式について

邢福義 (2001) は、中国語の“p 就 q”の意味用法に主に5つのがあるとしているが(i：前後節の継続関係、ii：前後節の因果関係、iii：物事を推断する用法、iv 純粹な假定、v 仮定的条件)、そのうち、i 前後節の継続関係、ii 前後節の因果関係が本稿の因果関係と関連を持っているといえる。

そのうち、i 前後節の継続関係は文の前節と後節の継起関係を表し、“接着/然后”などと置き換えることができる。“接着/然后”は日本語の「それから/そして」の意味に近

い。

- (346) 雷磊第一个交了卷，就匆匆忙忙地走了。(邢福義 2001)  
雷磊は最初に解答用紙を提出して、あわてて出た。(筆者訳)

ii 前後節の因果関係は文の前節と後節の因果関係を表し、“因此”と置き換えることができる。“因此”は日本語の「だから」の意味に近い。

- (347) 妈妈手脚不便，无法照料儿子，就由父亲陪床。(邢福義 2001)  
母は手足が不自由で息子の世話ができないから、父が息子の面倒を見る。  
(筆者訳)

#### 2.4 “既然 p, q” 形式について

“既然 p, q” は中国語の推論的因果複文を表す典型的な表し方であると邢 (2001) が指摘しており、“既然 p, q” のほか、“既然 p, (那么) 就 q” “既然 p, 因此/所以 q” などの表し方もあるとされている。

- (348) 既然我是一个比您年纪大的同事，我就认为我有责任给您进一个忠告。  
(邢福義 2001)  
僕のほうが年上だから、忠告をする責任があるだろう。(筆者訳)

“既然 p, q” には、「因から果を推断する」と「果から因を推断する」の二つの用法がある。

「因から果を推断する」場合、事実であることに対して、客観的な判断を行う  
(349)、または、主観的な反応をする (350)。

- (349) 查档案既无结果，还得做调查。(邢福義 2001)  
档案を調べると結果がなかったから、調査を続ける必要があるでしょう。  
(筆者訳)

(349) のように客観的な判断を行う場合、後節には可能性、必要性、確定性などを表す表現が用いられる。例えば、「かもしれない」の意味を表す“可能”、「なければならない」の意味を表す“必须”、「ないといけない」の意味に近い“得”などが使われる。

- (350) 既然上帝不赏脸，只有不在乎这个了。(邢福義 2001)  
神様でも気にしないから、気にしないことにしよう。(筆者訳)

(350) のように主観的な反応をする場合、後節にその事実を受け入れるしかないという意味が含まれ、「ざるを得ない」の意味を表す“只好、只有”などの副詞が用いられる。

他方、「果から因を推断する」場合、事実である結果を引き起こす原因を推測する。推測した原因は必ずしも事実とは限らない。

(351) 既然他不来开会，一定是闹情绪。 (邢福義 2001)  
彼が会議にでないから、きっと機嫌が悪いのでしょう。 (筆者訳)

(351) の場合、「会議に出ない」という事実から、「機嫌が悪い」という判断を導き出している。「機嫌が悪い」ことが「会議に出ない」原因になる可能性は確かにあるが、必ずしも「機嫌が悪い」ことが原因で「会議に出ない」という結果になるとは言えない。

また、邢福義(2001)によれば、“因为 p，所以 q”は主に客観的な事実によって因果関係を説明する場合に用いるが“既然 p，q”は主に主観的な推論によって因果関係を説明する場合に用いる。

## 2.5 まとめ

以上のことから、中国語の因果複文の“前標”には主に“因为”系があり、“後標”には主に“所以”系と“就”系があることが分かった。日本語では前節に付くノデだけで原因・理由を表す。そのため、ノデも中国語の“因为、由于”のような“前標”に当たると考えられる。その一方、形態論の立場からすると中国語の“後標”の“所以、才、就”などに対一に対応する形式は日本語にはないといえるだろう。

## 3 対訳例から見るノデⅡの日中対照

### 3.1 対訳例概況

本稿では 21 編の日本の小説とその中国語訳についてノデの対訳例を調査した。そのうち、原因・理由を表すノデの例は全部で 1100 例(ノデⅠ:939 例、ノデⅡ:161 例)あり、そのうち 161 例のノデⅡがあった(352)。

(352) ノデⅠ (939 例) :

有標複文 514 例 : 54.7%、無標複文 425 例 : 45.3%

ノデⅡ (161 例) :

有標複文 72 例 : 44.7%、無標複文 89 例 : 55.3%

ノデⅡの対訳例 161 例のうち、無標形式 89 例以外の 72 例の有標形式は、①“因为”類、②“因为，所以”類、③“所以”類、④“才”類、⑤“就”類、⑥“于是”類、⑦“只好”類、⑧その他類といった 8 種類の形式で訳されている<sup>19</sup>。

### 3.2 分析

対訳例の統計をもとに、「判断の根拠」を表すノデⅡと「発言・態度の根拠」を表すノデⅡの中国語訳の分布状況をまとめると、次の(353、354)のようになる。

<sup>19</sup> “因为”類: 因为 p, q、由于 p, q。“因为，所以”類: 因为 p，所以 q。“所以”類: p，所以 q、p 因此 q。“才”類: (因为) p，(所以) 才 q。“就”類: (因为) p，(所以) 就/便 q。“于是”類: (因为) p，于是(就) q。“只好”類: (因为/由于) p，(所以) 只好/只能 q。その他類: 因为 p，只好 q、既然 p，那么 q、其他。

(353)

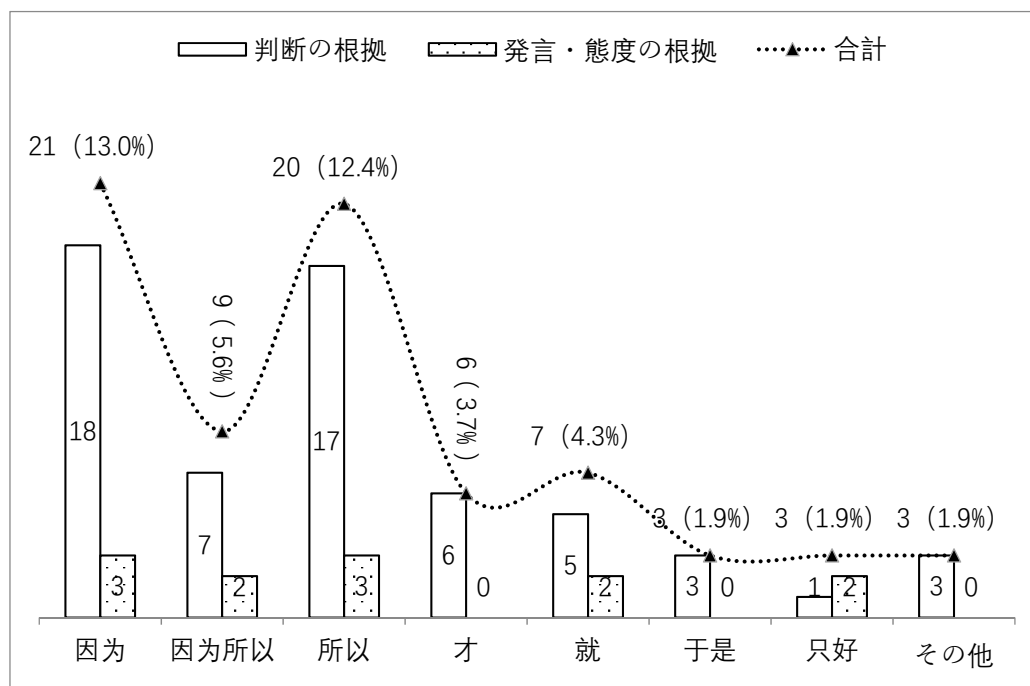
パターン	判断	態度	合計	パターン	判断	態度	合計
因为 p, q	8	3	11	(因为/由于)p, (所以)就 q	2	0	2
由于 p, q	10	0	10	p, 就(便)q	3	2	5
因为 p, 所以 q	7	2	9	p, 于是 q	3	0	3
p, 因此 q	5	0	5	(因为)p, (所以)只好 q	1	2	3
p, 所以 q	12	3	15	其他	3	0	3
(因为/由于)p, (所以)才 q	6	0	6				

(354)

	因为	因为所以	所以	才	就	于是	只好	その他	無標
判断	18	7	17	6	5	3	1	3	56
態度	3	2	3	0	2	0	2	0	33
合計	21	9	20	6	7	3	3	3	89

ノデⅡ全体における「判断の根拠」と「発言・態度の根拠」の分布状況を次の(355)に示す。

(355)



(355)から分かるように、ノデⅡは「判断の根拠」を表す傾向が強いことが言える。文中のノデⅡの対訳の多くは典型的な接続表現を用いる“前標”類(13.0%)、“後標”類(12.4%)の二類に集中している。そのほかに、“前後標”類(5.6%)、“就”類(4.3%)と“才”類(3.7%)などの対訳例も少ないとは言えない。また、「判断の根拠」が“才”類で訳されている例はあるものの、「発言・態度の根拠」が“才”類で訳されている例は見当たらない。また、ノデⅡの用例の殆どの対訳例形式で「判断の根拠」が多い傾向が見られる。そのうち“才”類は「判断の根拠」だけを表す。

それでは、ノデⅡで表す原因・理由文の日中対訳を詳しく見ることにする。

前にも述べたように、中国語の因果複文は“因为 p, 所以 q”のように“前標”と“後標”が共起する場合もあれば、“因为 p, q”、“p, 所以 q”のようにどちらか一つだけの標識で表す場合もあれば、“前後標”を一切使わない無標形式“p, q”で表す場合もある。

- (356) 昨日は熱が出たから、仕事を休んだ。 (前田 2009)  
 a 因为昨天发烧了, 所以没去上班。 (因为 p, 所以 q)  
 b 昨天发烧了, 没去上班。 (p, q)  
 c 因为昨天发烧了, 没去上班。 (因为 p, q)  
 d 昨天发烧了, 所以没去上班。 (p, 所以 q)

次の例は実際の対訳例に見られる“前後標”共起の“因为 p, 所以 q” (357)、無標因果文“p, q” (358)、“前後標”の一方だけが現れる“因为 p, q” (359)、“p, 所以 q” (360)の例である。

- (357) その前々日、八日に、どこかの兵隊が来て病院の薬品や繃帯をごっそり持って行ったので、大阪から来た救護班は地獄に仏だと一人の看護婦が云ったそうだ。

井伏鱒二『黒い雨』

因为前几天, 可能是八日那天吧, 不知从哪里来的士兵, 把医院的药品、绷带全都拿走了。所以一个护士说, 从大阪来的救护班, 才是地狱里的活佛呢!

柯毅文、颜景镐译《黑雨》

- (358) その若者、ジャンパーにジーンズ姿なので、これで葬式に出る気はないらしい。  
 村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』

那小伙子穿着夹克, 牛仔褲的装扮, 似乎不会就此出席葬礼的样子。

林少华译《舞! 舞! 舞!》

- (359) がくがくするほど震えるので、高橋夫人もそれに気がついたらしい。

井伏鱒二『黒い雨』

因为抖得很厉害, 连高桥夫人都发觉了这一点似的。 柯毅文、颜景镐译《黑雨》

- (360) 蛆が動きまわるので、目蓋が動いているように見えるのだ。

井伏鱒二『黒い雨』

在眼球里面也有成堆的蛆虫在爬动, 所以看起来好象眼皮动弹一样。

柯毅文、颜景镐译《黑雨》

上記の例から見ると、“因为 p, 所以 q”は主に、物事の客観的な因果関係を述べるとされているが、推論的因果複文も表すことができると思われる。この点について、王維賢など(1994)も“(因为) p, (所以) q”は「事態の原因」、「行為の理由」、「推理の

理由」といった三つの関係を表すと指摘している。

### 3.3 “就”と“才”

典型的な“前標”(因为/由于)、“後標”(所以/因此)のほかに、“就/才”でカラⅡの意味を表す対訳例も少なくない。“前標”と組み合わせて“(因为)p, (所以)就/才q”のように用いる場合もあるし(361)、単独で“p, 就/才q”のように用いる場合もある(362)。

(361)a. 地球の引力よりも強い力で動かされたので、そのままの姿で空中を飛んだのだろう。 井伏鱒二『黒い雨』

b. 可是炸弹爆炸的力量也许超过了地球对它的吸引力，所以才把它原样不变地刮到天空中去的。 柯毅文、颜景镐译《黑雨》

b'. 可是炸弹爆炸的力量也许超过了地球对它的吸引力，所以就把它原样不变地刮到天空中去的。

(362)a. えーと、だんだん時間が少なくなってきたんで、このあたりで話しあいをそろそろおひらきにしたいんですが、どんなものだろう？

村上春樹『『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』』

b. 时间越来越少了，谈话就到此为止如何？ 林少华译《世界尽头与冷酷仙境》

b'. \* 时间越来越少了，谈话才到此为止如何？

そして、(362)が示すように、“後標”“才”類のほとんどが「判断の根拠」を表すのに対して“就”類は「発言・態度の根拠」を表すのに用いられている。(361)は「判断の根拠」を表すノデ文で、(362)は「発言・態度の根拠」を表すノデ文である。「判断の根拠」を表す場合は、“才”も“就”も用いられるが、(361b)の“才”は「からこそ」の意味を表していると思われ、前節の根拠を強調するニュアンスがある。一方、“才”を“就”で入れ替えた(361b')の“就”はそのような意味を表していない。

「発言・態度の根拠」を表す場合、“就”が用いられ(362b)、“就”を“才”で入れ替えると、不自然な文になる(362b')。つまり、前後節が時間的前後関係を表さない「発言・態度の根拠」文では“才”を用いることができないのである。

## 4 結論

本章では、文中のノデⅡを中心に、ノデで表す原因・理由文の日中対照研究をした。ノデⅡが表す原因・理由文は「判断の根拠」と「発言・態度の根拠」の2種類に分けられるが、両方とも、前件の事態が後件の事態または働きかけの根拠であることから、日本語のノデⅡで表す原因・理由文は中国語の推論性因果複文に対応すると言えるだろう。カラⅡと同じように、ノデⅡは中国語ではいろいろな形式で訳されている。前節で述べたように、“既然，那么”は典型的な推論性因果複文である。そして、“因为/由于，所以/因此”も場合によって、推論性因果複文を表すことができる。中国語の説明性因果複文の典型的表現である“因为p, 所以q”は、説明性因果複文のほか、推論性因果複文を表すのにも用いられることが分かった。また、「発言・態度の根拠」を表す場合は“就”類が多く用いられるのに対して、「判断の根拠」を表す場合は“才”類で表す傾向がある。

### 第三節 ノデⅡとその中国語訳における定量分析

本節では、“前後標”及び接続辞の観点から、ノデⅡ文の対訳例の偏差値を計算し、ノデⅡ文と中国語の因果複文の対訳傾向を正確に分析することを目指す。

#### 1 偏差値とは

第三章で述べたように、偏差値とは平均が 50、標準偏差が 10 になるように、正規化したものであり、出来る限り評価基準を統一する手段である。日本で広く用いられる偏差値は「(得点 - 平均点) / 標準偏差 × 10 + 50」で求められる。

本節では、ノデⅡ原因・理由文と対訳する各接続辞の偏差値を計算することによって、ノデⅡ原因・理由文と中国語の因果複文の対訳傾向を詳しく見てみたい。まず判断を表すノデⅡと態度を表すノデⅡを二回の試験と見なす。これによって、判断を表すノデⅡと態度を表すノデⅡの対訳傾向をまとめてみる。更に、判断のノデⅡと態度のノデⅡの対訳傾向を区別することもできるだろう。

#### 2 “前後標”の観点から見る対訳傾向

まず、“前標”、“後標”の観点から、ノデⅡの対訳例を①“因为”類（“前標”）、②“因为所以”類（“前後標”共起）、③“所以”類（後標）、④“才”類（特殊後標）、⑤“就”類（特殊後標）、⑥“于是”類（後標）⑦“只好”類（特殊後標）⑧その他の 8 種類に分ける (363)。さらに、それぞれの偏差値を計算すると、次の(364)のようになる。

(363)

	因为	因为所以	所以	才	就	于是	只好	その他
判断	18	7	17	6	5	3	1	3
態度	3	2	3	0	2	0	2	0
合計	21	9	20	6	7	3	3	3

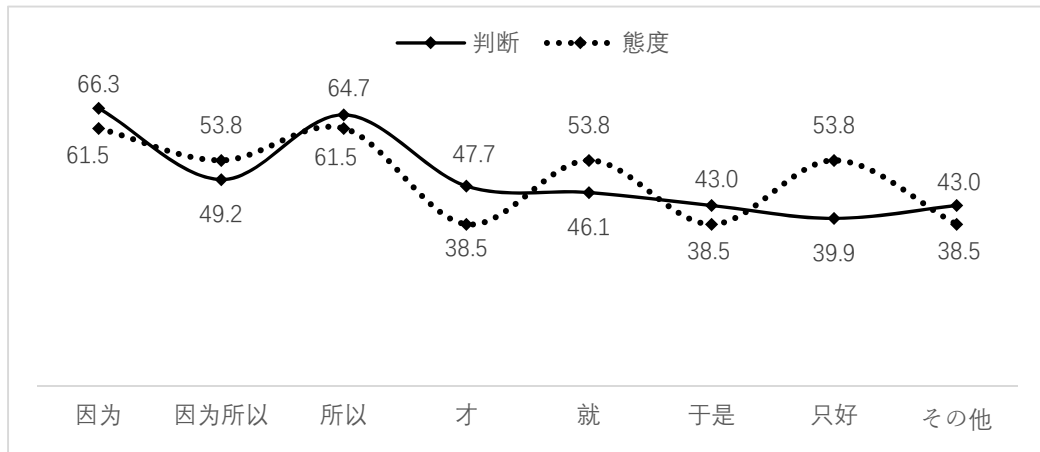
(364)

	因为	因为所以	所以	才	就	于是	只好	その他	平均値	標準偏差
判断	<u>66.3</u>	49.2	<u>64.7</u>	47.7	46.1	43.0	39.9	43.0	7.5	6.5
態度	<u>61.5</u>	<u>53.8</u>	<u>61.5</u>	38.5	<u>53.8</u>	38.5	<u>53.8</u>	38.5	1.5	1.3
合計	<u>66.2</u>	<u>50.0</u>	<u>64.8</u>	46.0	47.3	41.9	41.9	41.9	9.0	7.4

50<偏差値<60<偏差値<70

(364)の偏差値から原因文と理由文における“前後標”の使用頻度を比較してみると(365)のようになる。

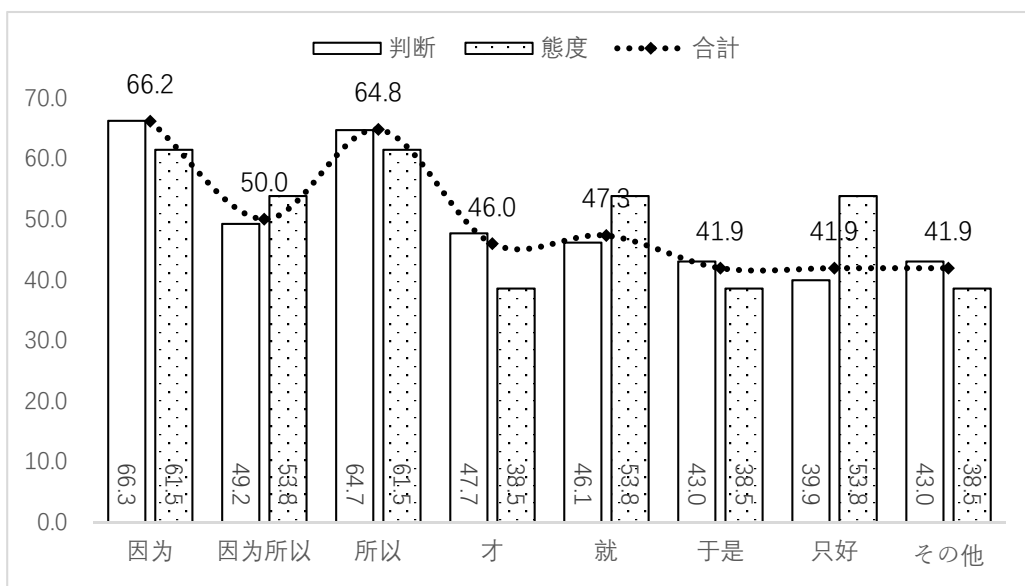
(365)



上記から分かるように、判断文の場合、中国語では単純な因果関係を表す“前標”“因为”（66.3）と後標“所以”（64.7）が多く用いられ、態度文の場合、“因为”（61.3）“才”（61.3）が多く用いられる。また、“因为所以”（53.8）、“就”（53.8）、“只好”（53.8）の使用率も低くない。

さらに、中国語で推論的因果関係を表す“前後標”が日本語のノデⅡに対応する場合の使用状況を分析すると次の(366)のようになる。

(366)



上記から、ノデⅡの対訳例のうち、中国語で因果関係を表す一番代表的な形式“前標”“因为”（66.2）と後標“所以”（64.8）のほか、“因为所以”（50.0）も多く用いられていることが分かる。

### 3 対訳形式の観点から見る対訳傾向

ここでは、中国語で推論的因果関係を表す各形式が日本語のノデⅡとどのように対応しているかを見てみる。ノデⅡと対訳する接続辞形式は概ねに次の(367)で示すことがで

きる。

(367)<sup>20</sup>

	判断	態度	合計		判断	態度	合計		判断	態度	合計
因为	8	3	11	所以	12	3	15	于是	3	0	3
由于	10	0	10	(+)才	6	0	6	(+)只好	1	2	3
因为所以	7	2	9	(+)就	2	0	2	其他	3	0	3
因此	5	0	5	就	3	2	5				

上記のそれぞれの接続辞がノデⅡと対訳するときの偏差値を(368)で示す。

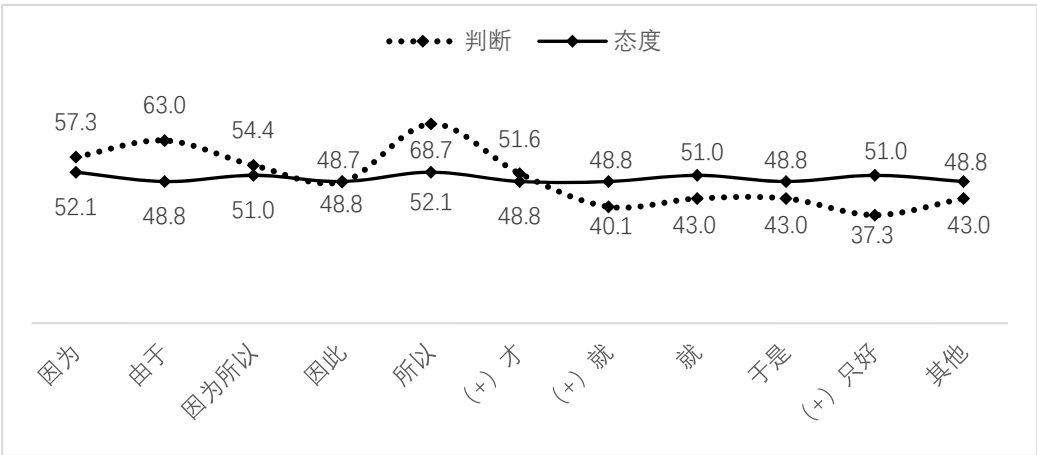
(368)

				平均 值	5.5	1.1	6.5	標準 偏差	3.5	9.3	4.2
	判断	態度	合计		判断	態度	合计		判断	態度	合计
因为	<u>57.3</u>	<u>52.1</u>	<u>60.7</u>	所以	<u>68.7</u>	<u>52.1</u>	<u>70.3</u>	于是	43.0	48.8	41.5
由于	<u>63.0</u>	48.8	<u>58.3</u>	(+)才	<u>51.6</u>	48.8	48.7	(+) 只好	37.3	<u>51.0</u>	41.5
因为 所以	<u>54.4</u>	<u>51.0</u>	<u>55.9</u>	(+)就	40.1	48.8	39.1	其他	43.0	48.8	41.5
因此	448.7	48.8	46.3	就	43.0	<u>51.0</u>	46.3				

50≦偏差値<60≦偏差値<70≦偏差値

上記の偏差値から判断文と態度文における各接続辞の使用頻度を比較すると次の(369)のようになる。

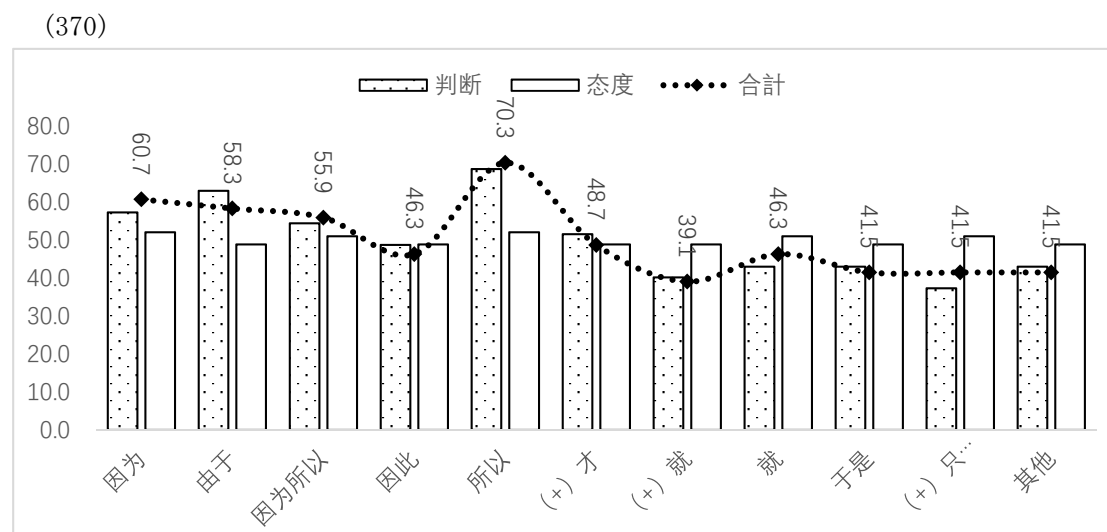
(369)



<sup>20</sup> (+)才は“(因为) p, (所以)才 q”の略記; (+)就は“(因为) p, (所以)就 q”の略記; (+)只好は“(因为) p, (所以)只好 q”の略記である。

(369)から分かるように、判断文の場合、“所以”(68.7)と“由于”(63.0)の使用頻度が高い。そのほか、“因为”(57.3)、“因为所以”(54.4)、“(因为)p,(所以)才q”(51.6)の使用率も低くない。一方、態度文の場合、“因为”(52.1)、“因为所以”(51.0)、“就”(51.0)、“(+ )只好”(51.0)に使用頻度が相対的に高い。判断文との比較では、態度文では“(因为)p,(所以)只好q”(51.0VS37.3)、“(因为)p,(所以)就q”(48.8VS40.1)などが用いられる比率が高いと言えるだろう。

さらに中国語で原因理由を表すそれぞれの接続辞が日本語のノデⅡと対応する場合の使用状況を分析してみると次の(370)でその結果を示す。



(370)から、ノデⅡで表す判断文・態度文が中国語の因果複文と対訳する場合、よく用いられる接続辞として“所以”(70.3)、“因为”(60.7)などがあることがわかる。その使用頻度は格段に高い。また、“由于”(58.3)、“因为所以”(55.9)などの接続辞を用いる場合も少なくない。

#### 4 まとめ

本節では、日中対訳コーパスによるカラⅡの対訳例の“前後標”の偏差値及びそれぞれの接続辞の偏差値を計算した。カラⅡ判断・態度文と中国語の因果複文の対訳傾向は次の(371)のようにまとめられる。

(371)

	前標	後標	前後標	特殊後標
判断	<u>由于</u> 、因为	<u>所以</u>	因为所以	(+) 才
態度	因为	所以	因为所以	就、(+) 只好
ノデⅡ	<u>因为</u> 、由于	<u>所以</u>	因为所以	—

50≦偏差値<60≦偏差値<70≦偏差値

以上からわかるように、ノデⅡ判断・態度文の対訳形式としては、“前標”の“因为”、後標の“所以”が一番頻繁に用いられる。更に詳しく見ると、判断文は“由于”、“所以”で対訳する頻度が高い。態度文の場合、使用頻度が高い接続辞形式がないが、

判断文より“(因为) p, (所以) 只好 q”、“(因为) p, (所以) 就 q”などの接続辞を利用して対訳する傾向があることがわかる。よって、ノデⅡ判断文は主観的な判断を表すが、それが表わしている前後節の事態は客観的な因果関係（または推論関係）を持っていることが多いと考えられる。

## 第七章 カラ・ノデにおける日中対応モデル構築へ

本稿では、日本語のカラ・ノデ原因・理由文と中国語の因果複文との対訳形式を比較しながら、日本語の立場から見える中国語の因果複文の特徴および中国語の立場から見える日本語の原因・理由文の特徴をまとめてみた。第3章から第6章では、事態・行為の原因・理由を表すカラⅠ、判断および発言・態度の根拠を表すカラⅡ、事態・行為の原因・理由を表すノデⅠ、判断および発言・態度の根拠を表すノデⅡのそれぞれについて、中国語の因果複文との対訳傾向をまとめた。カラとノデの違いによって、その対訳傾向も多少の差異を持っていることが分かる。第7章では、以上の結論を踏まえて、日本語の原因・理由を表すカラ・ノデと中国語の因果関係を表す接続辞の対応モデルの構築を目指す。

### 第一節 カラ・ノデが表す原因・理由文の日中対応モデル

本節では、カラ・ノデが表す原因・理由文と対応する中国語の各種の対訳形式の偏差値を計算する。偏差値が50を超える中国語の対訳形式と日本語のカラ・ノデとの対訳傾向をまとめ、日本語のカラ・ノデ原因・理由文と中国語の因果複文を対訳する時の対訳モデルの構築を目指す。

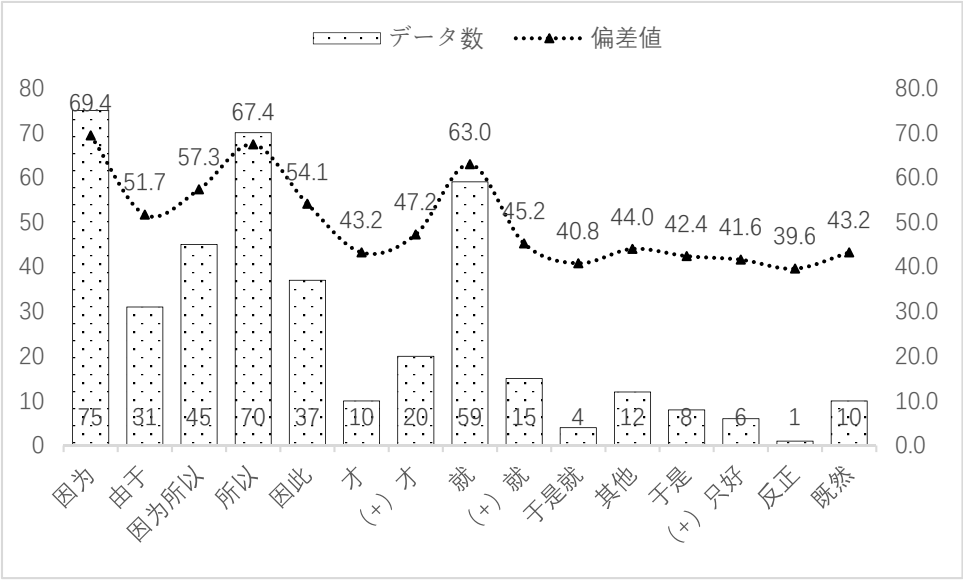
まず、カラ原因・理由文における中国語の対訳形式の偏差値を次の(372、373)で示す。

(372)

対訳形式	データ数	偏差値	対訳形式	データ数	偏差値
因为	75	<u>69.4</u>	(+) 就	15	45.2
由于	31	<u>51.7</u>	于是就	4	40.8
因为所以	45	<u>57.3</u>	于是	8	42.4
所以	70	<u>67.4</u>	(+) 只好	6	41.6
因此	37	<u>54.1</u>	反正	1	39.6
才	10	43.2	既然	10	43.2
(+) 才	20	47.2	其他	12	44.0
就	59	<u>63.0</u>			
合计	403	平均值	26.9	標準偏差	24.8

50≤偏差値<60≤偏差値<70

(373)



以上から分かるように、カラ原因・理由文に対応する主な中国語の対訳形式には“因为 p, q” (69.4)、“p, 所以 q” (67.4)、“p, 就 q” (63.0)、“因为 p, 所以 q” (57.3)、“p, 因此 q” (54.1) と“由于 p, q” (51.7) などがある。

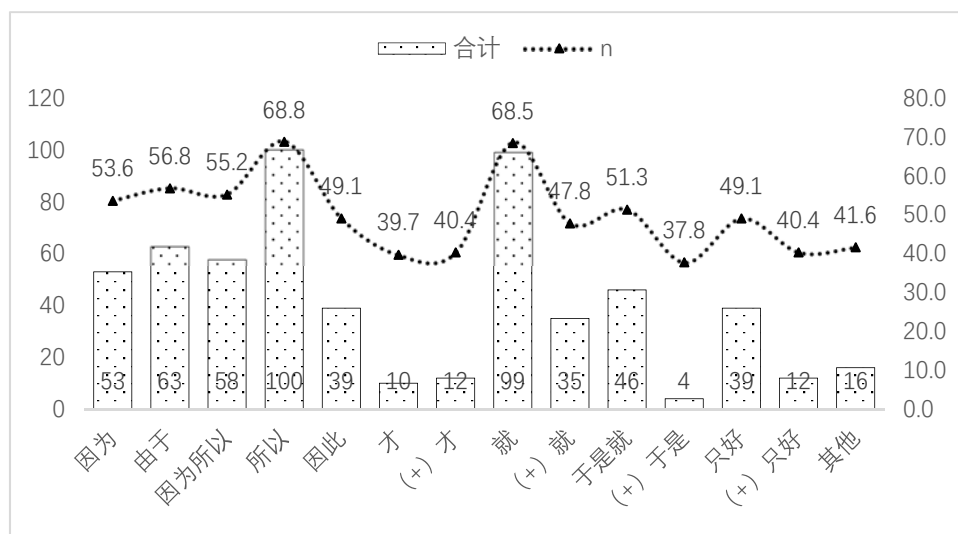
次に、ノデ原因・理由文における中国語の対訳形式の偏差値を次の(374、375)で示す。

(374)

対訳形式	データ数	偏差値	対訳形式	データ数	偏差値
因为	53	<u>53.6</u>	就	99	<u>68.5</u>
由于	63	<u>56.8</u>	(+) 就	35	47.8
因为所以	58	<u>55.2</u>	于是就	46	<u>51.3</u>
所以	100	<u>68.8</u>	(+) 于是	4	37.8
因此	39	49.1	只好	39	49.1
才	10	39.7	(+) 只好	12	40.4
(+) 才	12	40.4	其他	16	41.6
合計	586	平均値	41.9	標準偏差	31.0

50≦偏差値<60≦偏差値<70

(375)

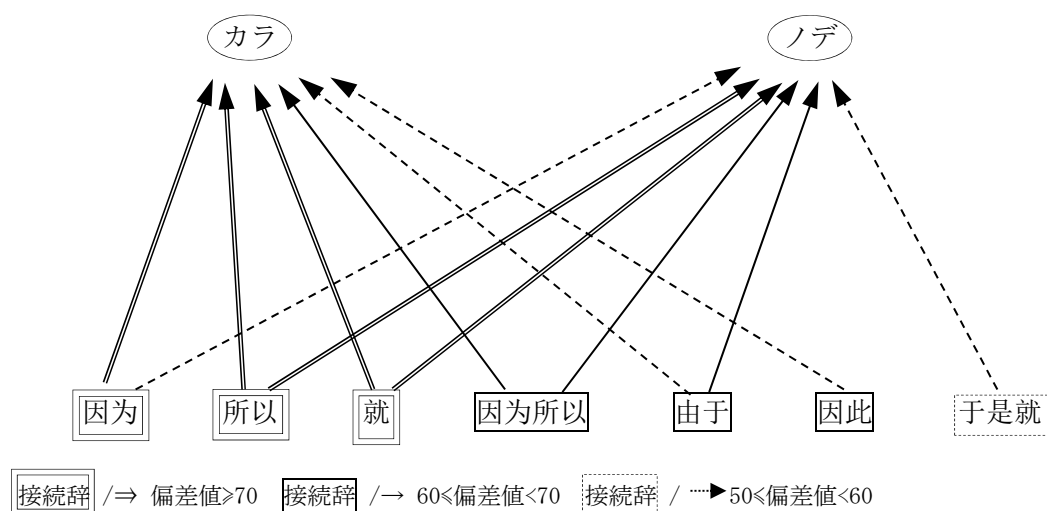


(375)から分かるように、ノデ原因・理由文に対応する主な中国語の対訳形式には“p, 所以 q” (68.8)、“p, 就 q” (68.5)、“由于 p, q” (56.8)、“因为 p, 所以 q” (55.2)、“因为 p, q” (53.6) と “p, 于是就 q” (51.3) などがある。

以上の数値から、カラ・ノデで表す原因・理由文の日中対訳傾向は次のようにまとめられる。

(376)

対応モデル I



以上から分かるように：

① “因为 p, q”、“p, 所以 q” と “p, 就 q” はカラ因果複文と対応し、対訳によく用いられる形式であるが、そのうちの “p, 所以 q” と “p, 就 q” はノデ因果複文とも対応し、対訳によく用いられる。

つまり、同じ因果関係を表していても、“因为 p, q” はノデ因果複文に馴染まないと言えるだろう。

②より書き言葉的で、因果関係より事態の前後の順序に焦点を置く “由于 p, q” は、

カラ因果複文よりノデ因果複文を対訳する傾向がある。

つまり、ノデはカラより書き言葉的な表現であり、因果関係のほか、前後節の事態の起こる順序に焦点を置く傾向があると言えるだろう。

③ “p, 因此 q” は、前節の原因を提示しながら後節の結果を表す接続辞であり、カラ因果複文と対訳する傾向がある。一方、“p, 于是就 q” の“于是” は因果関係のほか、前後節の継起関係をも表す接続辞であり、ノデ因果複文と対訳する傾向がある。

つまり、ノデ因果複文は因果関係のほか、前後節の事態の継起関係も表すと言えるだろう。

## 第二節 カラ・ノデ原因・理由文の4分類における日中対応モデル

本節では、カラ・ノデ原因・理由文の4分類のそれぞれに対して、中国語の各種の対訳形式の偏差値を計算する。偏差値が50を超える中国語の対訳形式との対訳傾向をまとめ、日本語のカラ・ノデ原因・理由文の4分類を中国語の因果複文で対訳する時の対訳モデルの構築を目指す。

まず、4種類の原因・理由文における中国語の対訳形式の偏差値を次の(377～381)で示す。

(377) 事態の原因を表わす原因・理由文

対訳形式	データ数	偏差値	対訳形式	データ数	偏差値
因为	54	<u>63.9</u>	就	9	44.4
由于	56	<u>64.8</u>	(+) 就	9	44.4
因为所以	53	<u>63.5</u>	于是就	1	40.9
所以	52	<u>63.1</u>	于是	2	41.3
因此	27	<u>52.2</u>	只好	2	41.3
才	6	43.1	其他	9	44.4
(+) 才	5	42.6			
合計	285	平均値	21.9	標準偏差	23.0

(378) 行為の理由を表す原因・理由文

対訳形式	データ数	偏差値	対訳形式	データ数	偏差値
因为	29	49.0	(+) 就	33	<u>50.2</u>
由于	20	46.1	于是就	46	<u>54.3</u>
因为所以	25	47.7	于是	10	43.0
所以	75	<u>63.4</u>	只好	37	<u>51.5</u>
因此	32	49.9	(+) 只好	15	44.6
才	12	43.6	既然	5	42.4
(+) 才	11	43.3	其他	8	41.4
就	127	<u>79.7</u>			
合計	485	平均値	32.3	標準偏差	31.9

(379) 判断の根拠を表す原因・理由文

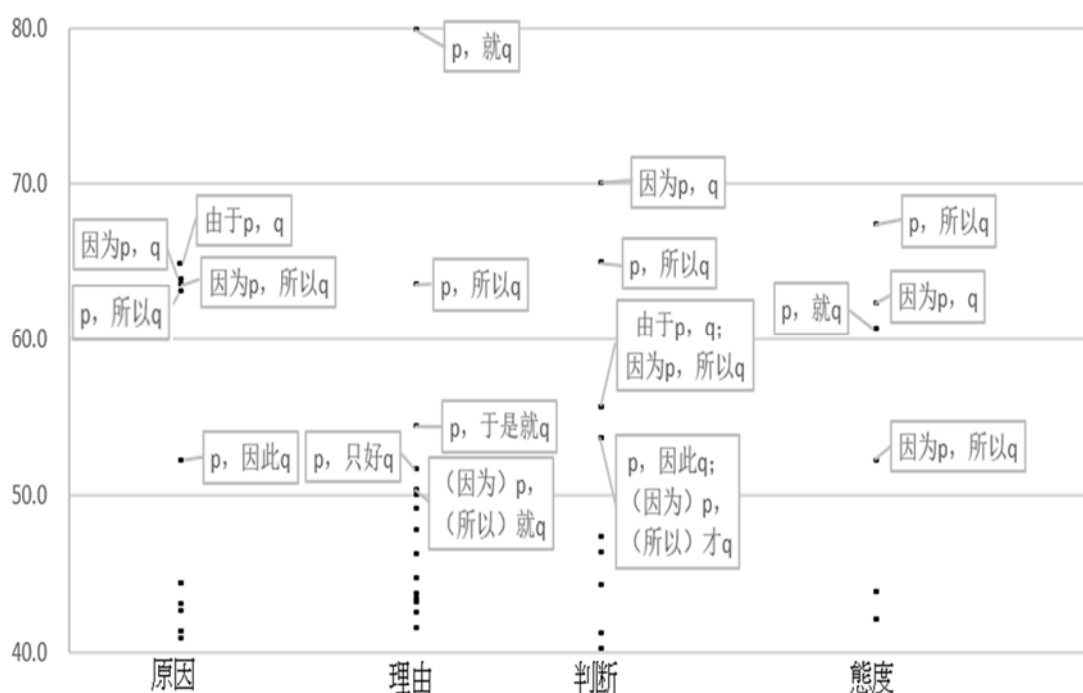
対訳形式	データ数	偏差値	対訳形式	データ数	偏差値
因为	32	<u>70.1</u>	就	10	47.4
由于	18	<u>55.6</u>	(+) 就	7	44.3
因为所以	18	<u>55.6</u>	于是就	3	40.2
所以	27	<u>64.9</u>	(+) 只好	1	38.1
因此	16	<u>53.6</u>	既然	4	41.2
才	2	39.1	其他	9	46.4
(+) 才	16	<u>53.6</u>			
合計	163	平均値	12.5	標準偏差	9.7

(380) 発言・態度の根拠を表す原因・理由文

対訳形式	データ数	偏差値	対訳形式	データ数	偏差値
因为	13	<u>62.5</u>	(+) 就	1	42.2
因为所以	7	<u>52.4</u>	(+) 只好	2	43.9
所以	16	<u>67.5</u>	既然	1	42.2
因此	1	42.2	反正	1	42.2
就	12	<u>60.8</u>	其他	2	43.9
合計	56	平均値	5.6	標準偏差	5.9

50<偏差値<60<偏差値<70<偏差値

(381)



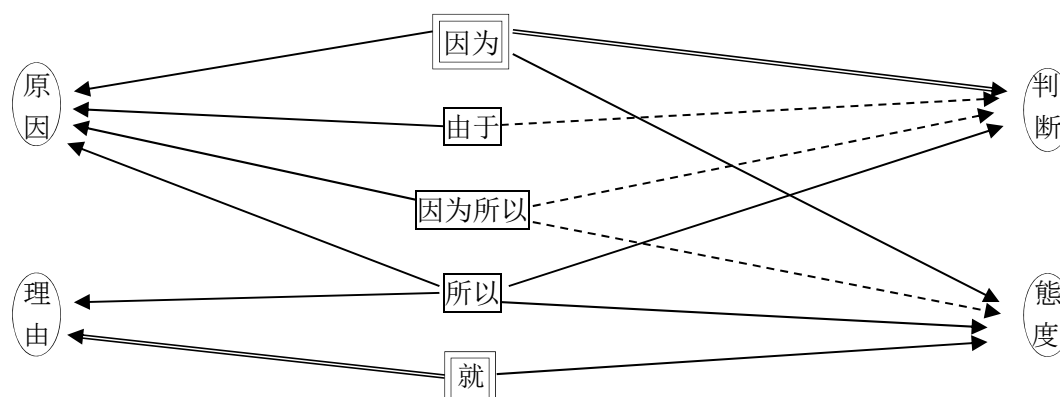
以上をまとめてみると、

- ・事態の原因を表す原因・理由文に対応する主な中国語の対訳形式には“由于 p, q” (64.8)、“因为 p, q” (63.9)、“因为 p, 所以 q” (63.5)、“p, 所以 q” (63.1) と “p, 因此 q” (52.2) などがある。
- ・行為の理由を表す原因・理由文に対応する主な中国語の対訳形式には“p, 就 q” (79.7)、“p, 所以 q” (63.4)、“p, 于是就 q” (54.3)、“p, 只好 q” (51.5) と “(因为) p, (所以) 就 q” (50.2) などがある。
- ・判断の根拠を表す原因・理由文に対応する主な中国語の対訳形式には“因为 p, q” (70.1)、“p, 所以 q” (64.9)、“由于 p, q” (55.6)、“因为 q, 所以 q” (55.6)、“p, 因此 q” (53.6) と “(因为) p, (所以) 才 q” (53.6) などがある。
- ・発言・態度の根拠を表す原因・理由文に対応する主な中国語の対訳形式には“p, 所以 q” (67.5)、“因为 p, q” (62.5)、“p, 就 q” (60.8) と “因为 p, 所以 q” (52.4) などがある。

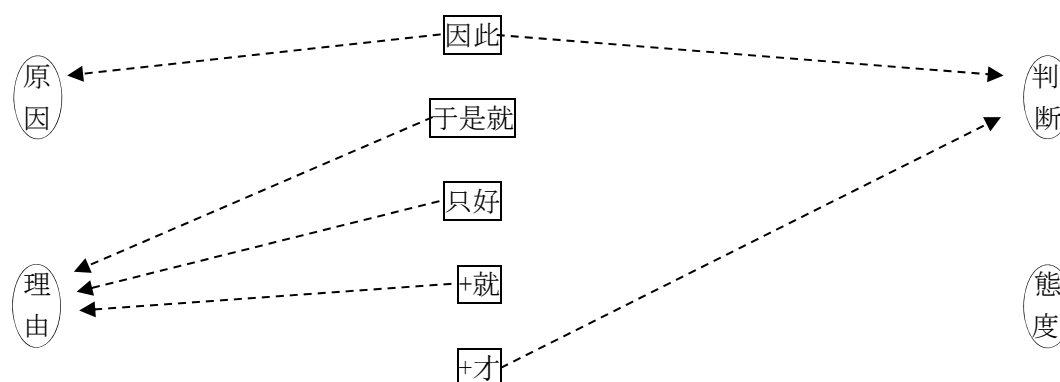
以上の数値から、日本語のカラ・ノデ原因・理由文の4分類を中国語の因果複文で対訳する時の対訳傾向は次のようにまとめられる。

(382)

a 対応モデルⅡ-1 (偏差値 $\geq 60$ )



b 対応モデルⅡ-2 (50 $\leq$ 偏差値 $< 60$ )



接続辞 / $\Rightarrow$  偏差値 $\geq 70$    
 接続辞 / $\rightarrow$  60 $\leq$ 偏差値 $< 70$    
 ..... 50 $\leq$ 偏差値 $< 60$

以上から分かるように

① “因为 p, q” は判断の根拠を表す傾向が最も強い。一方、“p, 就 q” は行為の理由を表す傾向が最も強い。

② 説明性因果複文の場合、偏差値が 60 を超える接続辞表現のうち、“因为 p, q”、“由于 p, q” と “因为 p, 所以 q” は事態の原因を表す傾向があるのに対して、“p, 就 q” は行為の理由を表す傾向がある。また、“p, 所以 q” は、事態の原因と行為の理由の両方を表す。

③ 推論性因果複文の場合、偏差値が 60 を超える接続辞表現のうち、“p, 就 q” は発言・態度の根拠を表す傾向がある。“p, 所以 q” は判断の根拠と発言・態度の根拠の両方を表すが、“因为 p, q” は発言・態度の根拠より判断の根拠を表す傾向が強い。

④ ほかの接続辞（偏差値が 50 を超えるが 60 未満の接続辞）を見ると、説明性因果複文の場合、“p, 因此 q” は事態の原因を、“p, 于是就 q”、“p, 只好 q” 及び “(因为) p, (所以) 就 q” は行為の理由を表す傾向がある。推論性因果複文の場合、“由于 p, q”, “p, 因此 q” と “(因为) p, (所以) 才 q” は判断の根拠を表す傾向がある。また、

“因为 p, 所以 q” は判断の根拠と発言・態度の根拠の両方を表す傾向がある。

⑤ “p, 所以 q” は、上記四つのどのタイプの因果複文とも対訳しやすいように見える。それは、“所以” は前後節の因果関係を顕在化する標識なので、意味的な違いがないからだろう。つまり、“p, 所以 q” は因果複文を表す通用的な表現形式であると言えるだろう。

### 第三節 対応モデルの再分析

前節で、提示詞（カラ・ノデ）の違い及び意味機能（原因・理由・判断・態度）の違いの二つの立場から、日本語のカラ・ノデ因果複文と中国語の因果複文との対応モデルをまとめてみた。本節では、上記二つの対応モデルをもとに、因果関係を表すカラ・ノデと中国語の接続辞との対訳傾向について詳しく考察する。

#### 1 カラ I 原因・理由文の日中対応モデル

カラ I が表す因果複文と対応する中国語の接続辞を偏差値の降順で、次のように並べる。

(383)

	原因文の偏差値		理由文の偏差値		両者合計の偏差値	
所以	<u>59.0</u>	<b>No. 3</b>	<u>63.2</u>	<b>No. 2</b>	<u>65.8</u>	<b>No. 1</b>
就	42.3	No. 11	<u>80.1</u>	<b>No. 1</b>	<u>65.8</u>	<b>No. 2</b>
因为	<u>73.7</u>	<b>No. 1</b>	47.2	No. 5	<u>65.1</u>	<b>No. 3</b>
因为所以	<u>62.7</u>	<b>No. 2</b>	47.2	No. 6	<u>57.1</u>	<b>No. 4</b>
因此	<u>54.4</u>	<b>No. 5</b>	<u>51.9</u>	<b>No. 3</b>	<u>54.5</u>	<b>No. 5</b>
由于	<u>59.0</u>	<b>No. 4</b>	45.3	No. 10	<u>53.1</u>	<b>No. 6</b>
(+) 才	45.1	No. 6	47.2	No. 7	44.5	No. 7
(+) 就	43.3	No. 9	48.1	<b>No. 4</b>	43.8	No. 8
才	45.1	No. 7	45.3	No. 11	43.1	No. 9
于是	43.3	No. 10	47.2	No. 8	43.1	No. 10
(+) 只好	42.3	No. 12	46.2	No. 9	41.8	No. 11
既然	42.3	No. 13	45.3	No. 12	41.1	No. 12
其他	45.1	No. 8	41.5	No. 14	40.5	No. 13
于是就	42.3	No. 14	44.4	No. 13	40.5	No. 14
標準偏差	10.8		10.6		15.0	
平均値	8.3		10.0		18.3	

50<偏差値<60<偏差値<70<偏差値

“所以”の偏差値総合ランキングが No. 1 ということはカラ I と意味的に一番近いと言えるかもしれないが、“所以”とカラ I の相違をまとめてみる。

偏差値は原因文が 59.0 で理由文が 63.2 である。それは、“所以”がカラと違って前節を顕在化する機能を果たすのではなく、後節を提示する機能を果たすからだと思われる。この点について李晋霞、王忠玲(2013)でも、前件と後件の因果関係の顕在度が高い文で使われ、その顕在度が高いほど、“p, 所以 q”といった形式で（“前標”“因为”を用いないで）使われる傾向があるとされている。

日本語では、カラが前後節の間に位置して、カラが原因を表す前節を提示し、後節が自然に結果となる。一方、中国語では、前節を提示する接続辞が前節の前に位置するため、後節を提示するには、“所以”のような前後節の間に位置する“後標”が必要となる。要するに、“所以”は、意味的な機能より、構文的な機能を果たしていると思われる。

る。そのため、原因文にも理由文にも多用されているのだと思われる。

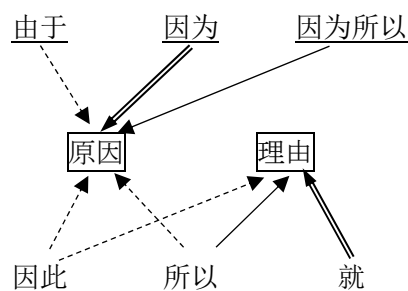
“就”の偏差値総合ランキングはNo. 2で、そのうち理由文の偏差値が80.1 (No. 1)である。行為の理由の場合、行為を行うための原因を前節で説明している。そのため、その焦点は前節の理由にある。行為の理由は、より主観的な因果関係を表している。その主観性は後節の意志動詞によって実現される。日本語では後節の意志動詞で話し手の主観的意志を表すのに対し、中国語では“就”によってそれを顕在化していると考えられる。その点、張斌(2010)でも「複文における“就”は主観的意図と判断を表す」とされている。

複文における前後節は、基本的に時間的継起関係を持っていると考えられる。“就”は、カラのように、前節の理由を提示する機能は持っていないものの、因果関係を表す前後節の継起関係を表す機能を果たしていると考えられる。

“因为”の偏差値総合ランキングはNo. 3で、そのうち原因文の偏差値が73.7 (No. 1)である。事態の原因を表す場合、前後節が因果関係を持ち、後節の事態を引き起こす原因を前節で説明する。そのため、焦点は前節の原因にある。この意味的及び構文的な機能はカラによって果たされる。こういった点からすると、中国語の“因为”は、事態の原因を表すカラと似たような機能を持っていると考えられる。つまり、客観的な因果関係を表し、焦点は前節にある。

以上より、カラ I 原因・理由文の日中対応モデルは次のようになる。

(384)



⇒ 偏差値≥70 → 60≤偏差値<70 ⇨ 50≤偏差値<60

## 2 カラⅡ判断・態度文の日中対応モデル

カラⅡが表す因果複文と対応する中国語の接続辞を偏差値の降順で、次のように並べる。

(385)

	判断文の偏差値		態度文の偏差値		両者合計の偏差値	
因为	<u>74.0</u>	No. 1	<u>63.5</u>	No. 2	<u>71.5</u>	No. 1
所以	<u>60.0</u>	No. 2	<u>70.0</u>	No. 1	<u>65.6</u>	No. 2
就	47.5	No. 7	<u>63.5</u>	No. 3	<u>54.7</u>	No. 3
因为所以	<u>53.8</u>	No. 3	<u>52.9</u>	No. 4	<u>53.7</u>	No. 4
因此	<u>53.8</u>	No. 4	44.3	No. 6	49.8	No. 5
(+)才	<u>52.2</u>	No. 5	42.2	No. 10	47.8	No. 6
由于	49.1	No. 6	42.2	No. 11	45.8	No. 7
其他	46.0	No. 8	44.3	No. 7	45.8	No. 8
(+)就	44.4	No. 9	44.3	No. 9	43.8	No. 9
既然	42.9	No. 10	44.3	No. 8	42.8	No. 10
才	39.7	No. 11	42.2	No. 12	39.9	No. 11
反正	36.6	No. 12	46.4	No. 5	38.9	No. 12
標準偏差	6.4		4.7		10.1	
平均値	8.6		3.7		12.3	

50<偏差値<60<偏差値<70<偏差値

“因为”の偏差値総合ランキングがNo. 1ということはカラⅡと意味的に一番近いと言えるかもしれないが、そのうち判断文が74.0(No. 1)で、根拠文が63.5(No. 2)ということで、“因为”とカラⅡ文との関係については次のようにまとめることができる。

判断の根拠とは、後節で下す判断の根拠を前節で表すものである、発言・態度の根拠とは話し手の発言や態度の根拠を前節で表すものである。つまり、両方とも根拠を説明するものであるため、両方とも前節の根拠（原因）を主張する“因为”が多用されている。偏差値はそれぞれ74.0と63.5であり、態度文より判断文の方が多く用いられるのは、一つは態度文の場合、根拠を主張するだけでなく、後節で表される話し手の意志・希望などの主観的な考えも主張するからである。もう一つは、日本語の判断文のほとんどが原因文形式に変換できるからだと思う。

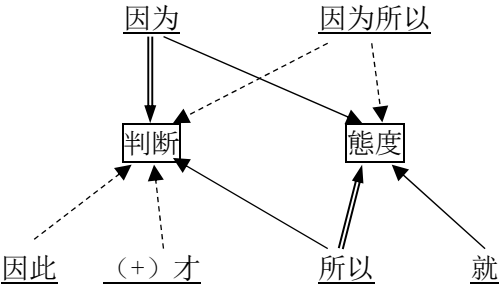
“所以”の偏差値総合ランキングはNo. 2で、そのうち判断の根拠が69.0(No. 2)で、発言・態度の根拠が70.0(No. 1)である。これは、“所以”がカラと違って前節を提示する機能を果たすのではなく、後節の判断・態度を提示する機能を持っているからだと思われる。日本語では、カラが前後節の間に位置して、前節の根拠を提示し、後節で自然に判断・態度を表す。一方、中国語では、根拠を提示する接続辞が文頭（前節の前）に位置するため、判断を提示するには、“所以”のような前後節をつなげる“後標”が必要となる。ここでの“所以”は、意味的な機能より、構文的な機能を果たしていると思われる。そのため、判断文にも態度文にも多用されているのだと思われる。

“就”の偏差値総合ランキングはNo. 3で、そのうち態度文が63.5(No. 3)ということで、“就”とカラⅡ態度文との関係については次のようにまとめることができる。

態度文の後節は、話し手の主観的な意志を表している。その主観性は、文末の勧誘モダリティによって実現されている。また、前後節は、時間的継起関係を持っていると考えられる。“就”は、カラと違って、前節の根拠を提示する機能を持っていないが、前後節の因果関係を表すとともに、その継起関係も表している。また、日本語では文末の勧誘モダリティで話し手の主観的意志を表すが、中国語では就によって主観的意志を表している。

以上より、カラⅡで表す因果複文の日中対応モデルは次のようになる。

(386)



⇒ 偏差値≥70 → 60≤偏差値<70 → 50≤偏差値<60

### 3 ノデⅠ原因・理由文の日中対応モデル

ノデⅠが表す因果複文と対応する中国語の接続辞を偏差値の降順で、次のように並べる。

(387)

	原因文の偏差値		理由文の偏差値		両者合計の偏差値	
就	47.7	No. 6	<u>76.5</u>	No. 1	<u>70.5</u>	No. 1
所以	<u>66.4</u>	No. 2	<u>61.6</u>	No. 2	<u>67.3</u>	No. 2
由于	<u>69.4</u>	No. 1	45.8	No. 9	<u>55.8</u>	No. 3
因为所以	<u>64.2</u>	No. 3	47.1	No. 8	<u>54.4</u>	No. 4
于是就	41.7	No. 12	<u>57.6</u>	No. 3	<u>52.2</u>	No. 5
因为	<u>55.9</u>	No. 4	48.8	No. 6	<u>51.9</u>	No. 6
只好	42.5	No. 11	<u>55.4</u>	No. 4	<u>50.8</u>	No. 7
因此	<u>51.4</u>	No. 5	48.0	No. 7	49.0	No. 8
(+)就	47.0	No. 7	<u>50.2</u>	No. 5	48.7	No. 9
其他	45.5	No. 8	42.2	No. 12	41.5	No. 10
才	43.2	No. 9	42.2	No. 11	40.5	No. 11
(+)只好	41.0	No. 14	43.1	No. 10	40.1	No. 12
(+)才	42.5	No. 10	40.9	No. 13	39.0	No. 13
(+)于是	41.7	No. 13	40.5	No. 14	38.3	No. 14
標準偏差	13.4		22.7		28	
平均值	12.1		24.6		36.7	

50≤偏差値<60≤偏差値<70≤偏差値

“就”の偏差値総合ランキングがNo. 1で、そのうち理由文の偏差値が76.5(No. 1)ということはノデI理由文と意味的に一番近いと言えるかもしれないが、“就”とノデI理由文との関係を詳しく分析する。

行為の理由とは、行為を行うための原因を前節で説明するものである。そのため、その焦点は前節の理由にある。行為の理由では、より主観的な因果関係を表している。その主観性は後節の意志動詞によって実現する。日本語では後節の意志動詞で話し手の主観的意志を表すのに対して、中国語では“就”によってそれを顕在化していると考えられる。その点、張斌(2010)も「複文における“就”は主観的意図と判断を表す」としている。

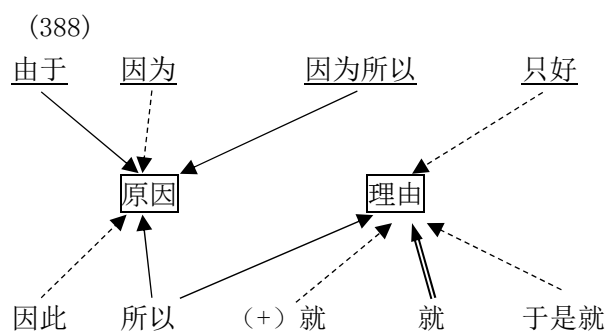
また、複文における前後節は、基本的に時間的継起関係を持っていると考えられる。“就”は、ノデのように、前節の理由を提示する機能は持っていないものの、因果関係を表す前後節の継起関係を表す機能を果たしていると考えられる。

“所以”の偏差値総合ランキングはNo. 2で、そのうち原因文の偏差値が66.4(No. 2)で、根拠文の偏差値が61.6(No. 2)である。これは、“所以”がノデと違って前節を顕在化する機能を果たすのではなく、後節を提示する機能を果たすからだと思われる。この点について李晋霞、王忠玲(2013)でも、“所以”は前件と後件の因果関係の顕在度が高い文で使われており、その顕在度が高いほど、“p, 所以 q”といった形式で(“前標”“因为”を用いないで)使われる傾向があるとされている。

日本語では、ノデが前後節の間に位置して、ノデが原因を表す前節を提示し、後節が自然に結果となる。一方、中国語では、前節を提示する接続辞が前節の前に位置するため、後節を提示するには、“所以”のような前後節の間に位置する“後標”が必要となる。つまり、“所以”は、意味的な機能より、構文的な機能を果たしていると思われる。そのため、原因文にも理由文にも多用されているのだと思われる。

“由于”の偏差値総合ランキングはNo. 3で、そのうち原因文の偏差値が69.4(No. 1)である。ほぼ同じ機能を持つ“因为”と同様に、原因文で多用されていて、ノデと似たような意味的及び構文的機能を果たす。今までの研究では、“因为”と“由于”は共に客観的因果関係を表す接続辞で、“由于”のほうが書き言葉として多用される点が異なっていると主張されてきたが、対訳結果から見ると、由于はノデ原因文、“因为”はカラ原因文で多用されていることがわかる。つまり、両者の違いは話し言葉と書き言葉の違いだけではなく、“因为”が“由于”よりやや主観性を持つ点でも異なっているのだろう。

以上のことから、ノデIで表す原因・理由文の日中対応モデルは次のようになる。



⇒ 偏差値≥70 → 60≤偏差値<70 ⇨ 50≤偏差値<60

#### 4 ノデⅡ判断・態度文の日中対応モデル

ノデⅡが表す因果複文と対応する中国語の接続辞を偏差値の降順で、次のように並べる。

(389)

	判断文の偏差値		態度文の偏差値		両者合計の偏差値	
所以	<u>68.7</u>	No. 1	<u>52.1</u>	No. 1	<u>70.3</u>	No. 1
因为	<u>57.3</u>	No. 3	<u>52.1</u>	No. 1	<u>60.7</u>	No. 2
由于	<u>63.0</u>	No. 2	48.8	No. 3	<u>58.3</u>	No. 3
因为所以	<u>54.4</u>	No. 4	<u>51.0</u>	No. 2	<u>55.9</u>	No. 4
(+)才	<u>51.6</u>	No. 5	48.8	No. 3	48.7	No. 5
因此	48.7	No. 6	48.8	No. 3	46.3	No. 7
就	43.0	No. 7	<u>51.0</u>	No. 2	46.3	No. 6
于是	43.0	No. 8	48.8	No. 3	41.5	No. 8
(+)只好	37.3	No. 11	<u>51.0</u>	No. 2	41.5	No. 9
其他	43.0	No. 9	48.8	No. 3	41.5	No. 10
(+)就	40.1	No. 10	48.8	No. 3	39.1	No. 11
標準偏差	3.5		9.3		4.2	
平均値	5.5		1.1		6.5	

50<偏差値<60<偏差値<70<偏差値

“所以”の偏差値総合ランキングがNo. 1ということはノデⅡと意味的に一番近いと言えるかもしれないが、そのうち判断文の偏差値が68.7(No. 1)で、根拠文の偏差値が52.1(No. 1)である。これは、“所以”がノデと違って前節を提示する機能を果たすのではなく、後節の判断・態度を提示する機能を持っているからだと思われる。日本語では、ノデが前後節の間に位置して、前節の根拠を提示し、後節で自然に判断・態度を表す。一方、中国語では、根拠を提示する接続辞が文頭（前節の前）に位置するため、判断を提示するには、“所以”のような前後節をつなげる“後標”が必要となる。ここでの“所以”は、意味的な機能より、構文的な機能を果たしていると思われる。そのため、判断文にも態度文にも多用されているのだと思われる。

“因为”の偏差値総合ランキングはNo. 2で、そのうち判断文の偏差値が57.3(No. 3)で、根拠文の偏差値が51.1(No. 1)である。

判断の根拠とは、後節で下す判断の根拠を前節で表すものである、発言・態度の根拠とは話し手の発言や態度の根拠を前節で表すものである。つまり、両方とも根拠を表わすものであるため、どちらも因為が多用されている。偏差値はそれぞれ57.3と52.1であり、態度文より判断文の方が多く用いられるのは、日本語の判断文がほとんど原因文形式に変換できるからだと思う。

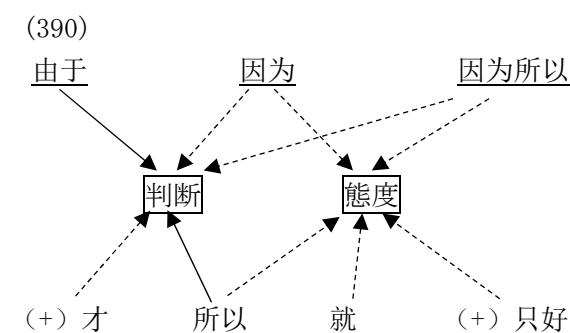
“由于”の偏差値総合ランキングはNo. 3で、そのうち判断文の偏差値が63.0(No. 2)ということで、“由于”とノデⅡ判断文との関係については次のようにまとめることができる。

ほぼ同じ機能を持つ“因为”と同様に、判断文にも、態度文にも多用されていて、ノデと似たような意味的及び構文的機能を果たす。態度文より判断文の方で多く用いられ

るのは、態度文は、根拠を主張するだけでなく、後節で表される話し手の意志・希望などの主観的な考えも主張するからである。それに、日本語の判断文のほとんどが原因文形式に変換できるため、ノデⅠと同じように、“由于”が使用されると考えられる。上記ノデⅠのところでも述べたように、今まで話し言葉と書き言葉の違いとされてきた“因为”と“由于”は主観・客観の差異も持つことが実際の対訳結果から分かった。

そのほかに、そもそも、ノデⅡ態度文がかなり少ないことが今回の調査で分かった。これは、態度文に話し手の主観的意志や希望などが含まれているので、客観性の強いノデと合わないことが原因だと思われる。しかしながら、ノデⅡ態度文の対訳例には、“只好”で表す中国語の因果複文が多く現れている。それは、“只好”は「仕方がない」という意味をもつため、文全体の主観性が弱まっているからだと思われる。

以上のことから、ノデⅡで表す因果複文の日中対応モデルは次のようになる。



→ 60≦偏差値<70    ⇨ 50≦偏差値<60

## 5 日中対応から見る中国語の接続辞

邢福義(2001)は“因为”、“所以”は主に、客観的な因果関係を表す接続辞であると述べたが、上記の対訳モデルから見ると、“因为”は客観性を持つノデ原因・理由文よりやや主観性を持つカラ原因・理由文の方と強いつながりを持っているように見える。そこで、日中対応の立場から、中国語の因果複文を表す接続辞の主観性・客観性をもう一度考えてみる必要があると思われる。

カラ・ノデ因果複文の四つの意味機能のうち、主に事態間の因果関係を表す原因文と判断文をより客観的な因果複文とし、後節に話し手の主観的意志・希望が含まれる理由文と態度文をより主観的な因果複文とする。

### ①より客観的な因果複文：原因文と判断文

- ・原因文の場合、カラが“因为”と強いつながりを持っている一方、ノデは“由于”、“所以”と強いつながりを持っていると言える。

カラ：因为(73.7) > 因为所以(62.7) > 由于=所以(59.0) > 因此(54.4)

ノデ：由于(69.4) > 所以(66.4) > 因为所以(64.2) > 因为(55.9) > 因此(51.4)

- ・判断文の場合、カラが“因为”、“所以”と強いつながりを持っている一方、ノデは“所以”、“由于”と強いつながりを持っていると言える。また、カラとノデのどちらも“(+) 才”で表す場合がある。

カラ：因为(74.0) > 所以(60.0) > 因为所以=因此(53.8) > (+) 才(52.2)

ノデ：所以(68.7) > 由于(63.0) > 因为(57.3) > 因为所以(54.4) > (+) 才(51.6)

②より主観的な因果複文：理由文と態度文

- ・理由文の場合、カラもノデも“就”、“所以”と強いつながりを持っているが、ノデは“只好”で表す場合も多い。

カラ：就（80.1）>所以（63.2）>因此（51.9）

ノデ：就（76.5）>所以（61.6）>于是就（57.6）>只好（55.4）>（+）就（50.2）

- ・態度文の場合、カラが“所以”、“因为”、“就”と強いつながりを持っている一方、ノデと強いつながりを持つ対訳形式はないと言える。

カラ：所以（70.0）>因为=就（63.5）>因为所以（52.9）

ノデ：所以=因为（52.1）>因为所以=就=（+）只好（51.0）

以上のことから、日本語の因果複文の代表的な標識であるカラ・ノデは、意味的機能及び構文的機能の両方を果たす。それに対して、中国語では、意味的機能は概ね、文脈か前標が果たす。後標は、意味的機能より構文的機能を果たす。また、中国語の因果複文の代表的な接続辞の主観性・客観性を再整理すると次のようになる。

(391) “由于→因为→所以→就”（客観→主観）

#### 第四節 まとめ

本稿では、日本語のカラ・ノデ原因理由文と中国語の因果複文の対訳関係を比較することによって、日中両言語の対応モデルをまとめた。モデルⅠはカラ・ノデが表す原因・理由文の日中対訳傾向を示し、モデルⅡは日本語のカラ・ノデの四つの意味的機能の日中対訳傾向を示す。モデルⅠは因果複文を日中対訳する際の接続辞選択に参考になるとと思われる。モデルⅡは日本語の立場から、中国語の因果関係を表す接続辞の意味用法を再考する際に活用することができるとと思われる。また、外国人向け（特に日本人向け）の中国語文法システムの構築にあたり、これらの対訳モデルは役に立てるとと思われる。

また、今まで客観的因果を表すとされてきた中国語の接続辞“因为”は、客観的な因果関係だけではなく、主観的な因果関係も表すことが分かった。本稿の研究を通して、“因为”は、より客観的な因果関係を表すノデより、より主観的な因果関係を表すカラと馴染むことが分かった。そのかわり、“因为”より正式で書き言葉的な形式とされている“由于”は、より客観的な因果関係を表すノデと馴染む。つまり、両者の違いは話し言葉と書き言葉の差だけではなく、“因为”の方が“由于”よりやや主観性を持っていると言える。

今まで客観的因果を表すとされてきた中国語の接続辞“所以”は、意味的機能より、構文的機能を果たしている。そのため、客観的な因果複文でも主観的な因果複文でも多く用いられる。日中対応の新たな立場から、中国語の因果複文の代表的標識である接続辞の主観性・客観性を分析すると、由于→因为→所以→就（客観→主観）の順になる。

さらに、対訳例の比較を通して、因果関係を表す中国語の代表的な接続辞は、使用される位置によって、接続辞<sub>前</sub>、接続辞<sub>後1</sub>、接続辞<sub>後2</sub>に分けることができるとと思われる。カラ・ノデ原因・理由文を対訳する際多用されている接続辞をまとめると、以下の(392)のようになる。接続辞<sub>前</sub>は“前標”であり、前節の前に位置する。一方、接続辞<sub>後1</sub>、接続辞<sub>後2</sub>は“後標”であり、前後節の間に位置する。接続辞<sub>後1</sub>と接続辞<sub>後2</sub>はそれぞれ単独で“後標”として用いることもできるし、“前標”と組み合わせて用いることもできる。更に、接続辞<sub>後2</sub>が接続辞<sub>後1</sub>の後に現れ、接続辞<sub>後1</sub>と組み合わさって“後標”として用いられる場合もある。これらの接続辞の共起や連用の条件や頻度及び因果複文との関わりなどに関する研究は今後の課題にしたい。

(392)

接続辞 <sub>前</sub>	接続辞 <sub>後1</sub>	接続辞 <sub>後2</sub>
因为	所以	就
由于	因此	才
既然	于是	只好
反正		
...	...	...

## 参考文献

### 日本語文献

- 赤塚紀子・坪本篤朗(1998)『モダリティと発話行為』研究社出版
- 網浜信乃(1990)「条件節と理由節—ナラとカラの対比を中心に—」『待兼山論叢日本学編』24
- 有田節子(1999)「プロトタイプから見た日本語の条件文」『言語研究』115
- 石川慎一郎(2012)『ベーシックコーパス言語学』ひつじ書房
- 井上優(2003)「文接続の比較対照—日本語と中国語」『言語(月刊)』32-3
- 今尾ゆき子(1991)「カラ、ノデ、タメ—その選択条件をめぐって—」『日本語学』10-12
- 岩崎卓(1993)「ノデ節、カラ節のテンスについて—従属節事態後節型のル/デ/ルカラ—」『待兼山論叢 日本学篇』27 大阪大学文学会
- 岩崎卓(1994)「ノデ節、カラ節のテンスについて」『国語学』179
- 岩崎卓(1996)「ノダカラの統語的特徴について」『言語研究の領域—小泉保博士古稀記念論文集』大学書林
- 大河内康憲(1967)「複句における分句の接続関係」『中国語学』176 号
- 尾方理恵(1993)『『から』と『ので』の使い分け』『国語研究』松村明先生喜寿記念会(編) 明治書院
- 金水敏・今仁生美(2000)『意味と文脈』現代言語学入門 4 岩波書店
- 上林洋二(1992)「理由を表す接続詞補稿:『から』と『ので』」『東海大学紀要留学生教育センター』12
- 上林洋二(1994)「条件表現各論—カラ/ノデー」『日本語学』13-9
- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 国広哲弥(1982)『意味論の方法』大修館書店
- 久野暉(1973)『日本文法研究』大修館書店
- 言語学研究科・構文論グループ(1985)「条件づけを表現するつきそい・あわせ文(2)—その2・原因的なつきそい・あわせ文—」『教育国語』82
- 坂原茂(1985)『日常言語の推論』東京大学出版会
- 重田謙(2002)「原因と理由:行為の因果説と反因果説の対立の三つのレベル」『メタフュシカ』33
- 白川博之(1994)『『カラ』と『カラダ』』『広島大学日本語教育学科紀要』4
- 白川博之(1995)「理由を表さない『カラ』」『複文の研究(上)』仁田義雄編 くろしお出版
- 田窪行則(1987)「統語構造と文脈情報」『日本語学』6-5
- 趙順文(1988)『『から』と『ので』—永野説を改訂する—』『日本語学』7-7
- 湯明昱・李光赫(2015)「カラⅡで表す原因・理由文の日中対照研究」『研究会報告第38号 国際連語論学会「連語論研究<Ⅳ>」』日本語文法研究会
- 湯明昱(2016a)「ノデⅡで表す原因・理由文の日中対照研究」『研究会報告第39号』日本語文法研究会
- 湯明昱(2016b)「ノデⅠで表す原因・理由文における日中対照」『研究会報告第40号』日本語文法研究会
- 中山英治(2005)「現代日本語におけるリアリティの研究」大阪府立大学博士学位論文
- 永野賢(1952)『『から』と『ので』とはどう違うか』『国語と国文学』29(2)

- 永野賢(1988)「再説『から』と『ので』はどう違うか—趙順文への反批判をふまえて—」『日本語学』7-12
- 仁田円(2003)「条件形式化する原因・理由形式についての記述的考察」『大阪産業大学論集 人文科学編』109
- 仁田義雄(1987)「条件付けとその周辺」『日本語学』9-6
- 日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法4第8部モダリティ』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会(2008)『現代日本語文法6第11部複文』くろしお出版
- 蓮沼昭子・有田節子・前田直子(2001)『日本語文法セルフマスターシリーズ7条件表現』くろしお出版
- 長谷川賢(2011)「条件文における接続詞の使用条件と談話機能」『中国語学』258号
- 花井裕(1990)「『ので』の情報領域—『から』との対話性と比較して—」『阪大日本語研究』2
- 原沢伊都夫(2016)『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』スリーエーネットワーク
- 姫野伴子(1995)「『から』と文の階層性1—演述型の場合—」『坂田雪子先生古希記念論文集』三省堂
- 前田直子(2000)「現代日本語における原因・理由文の3分類」『ひつじ研究叢書(言語編)日本語 意味と文法の風景—国広哲弥教授古稀記念論文集—』ひつじ書房
- 前田直子(2009)『日本語の複文 条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版
- 益岡隆志(1997)『新日本語文法選書2 複文』くろしお出版
- 南不二男(1993)『現代日本語文法の輪郭』大修館書店
- 望月通子(1990)「条件づけをめぐる—『理由』の『シテ』と『カラ』—」『日本学報』9(大阪大学)
- 森田良行(1980)『基礎日本語辞典』角川書店
- 森山卓郎(2013)「因果関係の複文と意思的制御」『国文学研究』170
- 矢島正浩(2014)「条件表現」『日本語文法誌研究2』ひつじ書房
- 李光赫(2011)『日中対照から見る条件表現の諸相』風詠社
- 李光赫・鄒善軍・湯明昱(2015)『日中対照から見る原因・理由文の諸相』風詠社
- 劉月華(1991)『現代中国語文法総覧(下)』くろしお出版

## 中国語文献

- 白梅麗(1987)〈現代汉语中“就”和“才”的语义分析〉《中国语文》第五期
- 陈立民(2005)〈也说“就”和“才”〉《当代语言学》2005(1)
- 陈中干(1995)《现代汉语复句研究》语文出版社
- 丁声树・吕叔湘・李荣等(1961)《中国语文丛书：现代汉语语法讲话》商务印书馆
- 董佳(2012)〈汉语因果复句的原型表达〉《陕西师范大学学报(哲学社会科学版)》2012(3)
- 方玉清(2001)《实用汉语语法(修订本)》北京大学出版社
- 高名凯(1986)《汉语语法论》商务印书馆
- 高在兰(2013)〈前、后置“因为”的隐现及功能差异〉《汉语学报》(2)
- 郭继懋(2006)〈“于是”和“所以”的异同〉《汉语学报》2006(4)
- 郭继懋(2008)〈“因为所以”句和“既然那么”句的差异〉《汉语学习》2008(3)
- 韩国平(1983)〈略论因果连词“所以”的源和流〉《惠阳师专学报(哲学社会科学版)》1983(1)
- 韩进旺(1980)〈关于接续助词“から”与“ので”的区别〉《日语学习与研究》1980(2)
- 胡裕树(1984)《现代汉语》上海教育出版社

- 胡树鲜(1990)《现代汉语语法理论初探》中国人民大学出版社
- 黄伯荣·廖序东(1991)《现代汉语(增订本)》高等教育出版社
- 金立鑫·杜家俊(2014)〈“就”与“才”主观量对比研究〉《语言科学》2014(2)
- 蒋静忠·魏红华(2010)〈焦点敏感算子“才”和“就”后指的语义差异〉《语言研究》2010(4)
- 黎锦熙·刘世儒(1962)《汉语语法教材》商务印书馆
- 黎锦熙(1924)《新著国语文法》商务印书馆
- 李晋霞(2001)〈论“由于”与“因为”的差异〉《世界汉语教学》(4)
- 李晋霞·刘云(2004)〈“由于”与“既然”的主观性差异〉《中国语文》2004(2)
- 李晋霞·王忠玲(2013)〈论“因为”“所以”单用时的选择倾向与使用差异〉《语言研究》(1)
- 李英哲·郑良伟·Larry Foster·贺上贤·侯炎尧·Maira Yip 编著,熊文华译(1990)  
《使用汉语参考语法》北京语言学院出版社
- 刘楚群(2002)〈“因为”和“由于”差异初探〉《安徽教育学院学报》Vol 20 No. 1
- 刘代阳(2014)〈连词“于是”的语法意义分析〉《语文学刊》2014(16)
- 陆庆和(2000)〈“于是”与事理承接〉《扬州大学学报(人文社会科学版)》Vol. 4 No. 6
- 吕叔湘·朱德熙(1978)《语法修辞讲话》中国青年出版社
- 吕叔湘(2008)《现代汉语八百词》商务印书馆
- 吕叔湘(2014)《中华现代学术名著丛书:中国文法要略》商务印书馆
- 屈哨兵(2002)〈“由于”句的语义偏向〉《中国语文》2002(1)
- 荣丽华(2011)〈汉语因果复句研究综述〉《长春师范学院学报》2011(9)
- 邵敬敏(1997)〈从“才”看语义与句法的相互制约关系〉《汉语学习》第三期
- 沈家煊(2003)〈复句三域“行、知、言”〉《中国语文》2003(3)
- 外研社·三省堂 外语教学与研究出版社(2003)《皇冠汉日词典 クラウン中日辞典》
- 王力(1940)《中国文法学初探》商务印书馆
- 王力(1985)《中国现代语法》商务印书馆
- 王楠(2013)〈因果复句日汉对比研究〉大连理工大学 2013
- 王维贤·张学成·卢曼云(1994)《现代汉语复句新解》华东师范大学出版社
- 邢福义(1985)《复句与关系词语》黑龙江人民出版社
- 邢福义(1995)《语法问题思索集》北京语言学院出版社
- 邢福义(2001)《汉语复句研究》商务印书馆
- 邢福义(2002)〈“由于”句的语义偏向辨〉《中国语文》2002(4)
- 徐阳春(2002)《现代汉语复句句式研究》中国社会科学出版社
- 姚双云(2008)《复句关系标记的搭配研究》华中师范大学出版社
- 姚双云(2009)〈口语中“所以”的语义弱化与功能扩展〉《汉语学报》2009(3)
- 张斌(1998)《汉语语法学》上海教育出版社
- 张斌(主编)(2002)《新编现代汉语》复旦大学出版社
- 张斌(2010)《现代汉语描写语法》商务印书馆
- 张滢(2012)〈因果复句关联标记句法—语义研究——基于“交互主观性”认知观〉《外国语(上海外国语大学学报)》2012(3)
- 赵恩芳·唐雪凝(1998)《现代汉语复句研究》山东教育出版社
- 赵新(2003)〈“因此、于是、从而”的多角度分析〉《语文研究》2003(1)
- 赵运普(2001)〈说“于是”——兼谈顺承、因果复句的划界〉《新乡师范高等专科学校学报》2001(1)
- 张静(1980)《新编现代汉语》上海教育出版社

- 张谊生(1996)〈现代汉语副词“才”的句式与搭配〉《汉语学习》第三期
- 张谊生(2000)《现代汉语副词研究》学林出版社
- 周守晋(2004)〈“主观量”的语义信息特征与“就”、“才”的语义〉《北京大学学报(哲学社会科学版)》2004(3)

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、指導教員の町田先生と佐久間先生にいろいろとお世話になりました。研究の姿勢から論文の書き方に至るまで、厳しくご指導してくださいました。研究だけではなく、精神や生活の面でも支えてくださいました。言語学研究室に入ってから7年間、留学生である私をずっと見守ってくださいました。町田先生と佐久間先生への感謝の気持ちはとても言葉で言い尽くせません。

また、中国の大連理工大学の李光赫先生と雛善軍先生には、本研究が完成するまで私を応援し、たくさんのご意見をくださったことを感謝いたします。

最後に、私のことをずっと応援し、見守ってくださった親友や言語学研究室の皆様に感謝いたします。